力感そして自己肯定感を感じられる経験は、自らの存在価値を感じ最期まで自分らしく生きて行く事につながると考えられる。これは、作業療法を行っていく上で大切な目標であると言える。

今回の介入と従来の介入との違いについては、75%が違いがあったと回答した。従来の介入の特徴として、身体機能向上に対する機能訓練が中心、ADL 改善に対する介入、対象者は受け身的で作業療法士が主導の介入、目標があいまい、対象者と作業療法士のみでの活動などが挙がった。一方、今回の介入の特徴として、対象者の潜在的ニーズに沿った目標に対する介入、詳細で具体的な目標設定、対象者が主体、応用・実施場面での介入、多職種との連携強化、その人らしさを引き出す関わりなどが挙がった。生活行為向上マネジメントを活用することで、作業療法士の思考過程が変わり従来とは異なる介入が行われたと考えられる。限られた施設環境ではあるが、作業療法士が視点を変えることによって、関わりの多様性が生まれると示唆される。

今回の介入実施において、施設業務へ負担があったと回答したのは 73%であった。具体的には、マネジメントシートなどの書類作成、事前準備、介入時間と頻度の増加、多職種との連携などであった。一方、負担がなかったと回答したのは 27%であり、負担がなかった理由としては、事前の業務調整、１単位での段階付け、実施が 2 回目などであった。書類については、リハビリテーション実施計画書の作成も義務付けられており、これに加え本マネジメントシートの作成が必要となるため負担になると考えられる。現行の書類との関連付けが、今後の課題である。また事前準備や、介入時間と頻度の増加については、現行の介護保険法での週 2 回 1 回 20 分のリハビリテーションマネジメントの枠では､本マネジメントに基づき対象者のニーズに沿った介入を実施することは難しいと言える。作業とは、一定の手順に沿って行為を実行することとされている。単発的な運動や動作の練習であれば 20 分で実施可能であるが、流れに沿って行為の練習を行うためには現行の時間枠では困難であると考えられる。しかし、負担を感じなかった方の回答からもわかるように、書類作成については使用経験を積み重ねることで所要時間は短縮するものと推測される。また、プログラムの実施にあたっても、事前の業務調整や段階付けなどの工夫をされていた。しかし、これはあくまでも通常業務に支障を来さないための工夫であり、現在の通常業務のあり方が変わることで、本マネジメントが通常業務として活用できるようになることが望まれる。

生活行為向上マネジメントを実施する上で、一番の課題を聞いたところ、記録にかかる時間、次いで、プログラム実施にかかる時間が最も多かった。また、これらの課題を解決するための工夫点を回答してもらった。パソコンソフトの活用を含めた生活行為向上マネジメントツールの工夫、人員配置を含めた現行の業務体制の見直し、専門性の明確化を踏まえた多職種との連携強化、作業療法士としてのスキルアップなどが挙げられた。本マネジメントが、臨床現場で活用されるためには、今後、上述した課題の解決が必要である。

今後も臨床現場で本マネジメントを使用すると回答したのは、60%であった。その理由として、対象者にいい変化をもたらすことができる、対象者の潜在的ニーズに沿った具体的な目標設定が可能、他のリハ職とは異なる専門性が発揮できるなどが挙げられた。一方で、38%は分からないと回答し、その理由として、考え方は取り入れていくが実施には時間がかかる、対象者の状況に応じて使用するなどが挙げられた。本マネジメントの考え方は、作業療法の基本となる思考過程であり当たり前に実践されることが望ましい。しかし、マンパワーや時間的制約の中では考え方のみを活用し、実際に使用することは難しいのが老健の現状であると推測される。

本マネジメントを有効活用できる対象者の適応条件を尋ねたところ、ある程度の認知機能を有する（目標が聞き取れる程度など)、意思表示が可能、自分の希望が明確、機能訓練を優先すべき利用者は難しいなど 18 項目が挙げられた。考え方は全ての方に適応できるとの回答もあった。適応できる方にのみ使用するだけではなく、今後、適応条件を満たさない方にはどのような工夫をすることで、本マネジメントが活用できるのかについて考えていかなければならない。

５．まとめ

１）老健入所者の年齢、要介護は年々高くなっている。またそれに伴い、認知症を有する入所者は増加傾向にある。本研究は全国 19 施設で実施されたが、対象者の特性は厚生労働省の調査結果に類似するものであった。

２）介入群にのみ IADL の指標である FAI と健康関連 QOL の指標である HUI に有意な改善が認められた。さ

らに HUI の寄与領域では、移動・認知・痛みの 3 領域において有意な改善が認められた。ADL の指標である BI は、介入群・対照群ともに維持レベルであった。 昨年度同様、本マネジメントの有効性が示唆された。

3）作業聞き取りシートにて対象者から聞き取った目標とする作業は、趣味・社会活動が最も多かった。そのうち、39%がその目標達成のために他者の存在が必要な目標であり、対象者は、レベルは様々ではあるが社会参加を望んでいることが分かった。介入前後の作業の実行度と満足度の変化はともに約 95%が維持・向上していた。達成度は、変更達成と達成を合わせると約 70%の方が何らかの形で達成に至っていた。客観的評価である達成度にかかわらず、主観的評価である実行度と満足度は維持・向上する傾向にあった。結果はもちろん大切であるが、対象者にとっては、自ら掲げた目標に主体的に取り組むことができたというプロセスも重要であることが示唆された。

4）現行制度を基準に、直接個別アプローチでは、介入群では介入時間が 2.6 倍、対照群でも約 1.6 倍といずれも増大していた。介入回数は、介入群では 2.1 回/週、対照群でも 1.6 回/週であり週 1 回以上の個別アプローチが実施されていた。対照群と比較すると介入群の方がより多くの時間と回数を介入に要することが分かった。直接集団アプローチでは、介入群では 1.9 倍、対照群では約 2.0 倍と介入時間が増大していた。また、介入回数は、介入群は 1.1 回/週に対し、対照群では 4.7 回/週となり対照群では個別よりも集団アプローチが多用されている傾向が伺える。対照群の方が介入時間・回数ともに多く、介入群では集団よりも個別アプローチが必要であると換言できる。間接アプローチでは、対照群に比べ介入群の方が若干回数・時間とも多いものの、直接アプローチと比較すると極端に少ない結果であった。本マネジメントを臨床場面で活用するために必要な介入時間と回数を確保するためには、現行制度の人員配置基準の約 2.5 倍である 4.2 人が必要であり、これには約 1000 万円の人件費が必要となることが明らかとなった。

5）9 割の作業療法士が対象者の変化、特に精神心理面の変化を感じていた。今回の介入は、従来の介入とは異なる点が多くあり、作業療法士の視点が変わることで、関わりの多様性が生まれることが分かった。生活行為向上マネジメントの有効性を実感した作業療法士は多かったものの、書類作成やプログラムにかかる時間などを負担と感じており、また対象者の適応条件も挙げられた。これより、今後、臨床現場で広く活用するための課題が明らかとなった。

６．今後の課題

1）老健入所者の高齢化と重度化、そして認知症を有する方の増加という入所者の特性を踏まえ、中間施設としての老健の役割をいかに担っていくのか、そしてそのために必要な関わり何かを模索していく。

2）本マネジメントの特徴である一連の行為からなる作業に対するアプローチの実践には、個別的な介入が必要となり、多くの介入時間・回数が必要となる。現行人員配置基準の見直しが求められる（約 2.5 倍）。このためにも HUI の追跡調査による介入の継続効果を明らかにし、費用効用分析を行っていく。費用に見合った効果が得られるかどうかを明らかにしていくことが、施策への提言においても重要な課題である。

3）書類作成に要する時間の短縮のためには、リハビリテーション実施計画書やケアプランとの融合や、本マネジメントツールのパソコンソフト化などが求められる。

4）プロフラムの実施に当たっては、ご家族や多職種の協力が必要となってくる。また、多職種との連携が十分に機能しているとは言い難い現状が明らかとなった。ご家族も含めた多職種連携による効果検証と多職種連携のあり方の検討が必要である。

5）アンケートより本マネジメントの適応条件が挙げられた。適応条件を満たさない入所者に対しても活用していくための工夫点などを提案していく。実際に使用する際の参考のためにも、事例集などを作成していく。

6）昨年度と今年度の対象者が挙げた作業目標は、作業聞き取りの際に補助的に用いる興味・関心チェックリストには該当しないものが多くあった。老健入所者が掲げる作業目標の特徴を踏まえた、老健入所者版興味・関心チェックリストを作成することで、目標が把握しやすくなると考えられる。

7）上記の課題を解決するためにも、老健に勤務する作業療法士の全てが、本マネジメントを理解し、活用できるスキルを有していなければならない。卒前・卒後研修などを通じて普及を図ることが急務である。

7．おわりに

老健入所者に対する本マネジメントの有効性は、昨年度同様に、データとして立証された。また作業療法士自身も、その効果を実感している。しかし、関与時間の結果からも分かるように、本マネジメントを実践で用いるためには、現在の業務体制では困難である。業務の見直しやプログラム実施上の工夫など作業療法士自身の努力も必要であるが、それのみならず、人員配置や加算などを含めた制度上の改善が望まれる。そのためにも、今後の費用効用分析が重要な課題である。対象者にとって有益と思われることが、多職種連携のもと、当たり前に実践できる環境整備が望まれる。

補足資料）

老健入所者に対する生活行為向上マネジメント活用の工夫点

『このマネジメントを有効活用できる対象者の適応条件は？』というアンケート結果から、それに対しての工夫点を考え、まとめたとき、「すべての人によい作業を」という作業療法の目標を追及し、何をどうすれば出来るようになるのか考え、行動していくことが今までもそして、これからも作業療法士の役割であると再認識した。

実際に、作業療法士の考え方次第、対象者の目標の設定次第で、このマネジメントの考え方は全ての対象者に適応出来ると思われる。ここでは、アンケート結果で挙げられた適応条件を参考に、本マネジメントの活用が難しいと考えられる対象者に対する活用の工夫点を挙げる。

適応が難しい対象者の例	活用の工夫点
重度認知症がある方	・家族や友人からの情報や生活歴、趣味や職業から探る ・観察評価、多職種からの情報収集を行う ・興味がありそうなものを提供し反応をみたり、生活意欲を把握する
意志疎通・意思表示が困難な方	・家族や友人からの情報や生活歴、趣味や職業から探る ・観察評価、多職種からの情報収集を行う ・「Ｙｅｓ」「Ｎｏ」のチェック方式にする ・難易度やリスクなどを考慮した活動を選択 ・反応を見ながら、状況に応じて対応する
自分の希望が明確に答えられない方	・家族や友人からの情報や生活歴、趣味や職業から探る ・観察評価、多職種からの情報収集を行う ・「Ｙｅｓ」「Ｎｏ」のチェック方式にする ・反応を見ながら、ご本人の希望を探っていく（アセスメントとアプローチの時間を使って）
家族の協力が得られにくい方	・まずは関われるスタッフから始め、本人の変化を家族に伝えていく ・家族側からの希望を聴取し、反映する形にする ・過程状況など把握しやすいような（写真付きノート）など提供してみる
目標を理解できない方	・家族や友人からの情報や生活歴、本人に関わる複数のスタッフ間で協議して目標を決定していく
リハビリ・活動意欲が高すぎる方	・ご本人の要望・ニーズをアセスメントした上で、段階づけをしながら適したゴール設定で実施してみる
重度失語症がある方	・家族や友人からの情報や生活歴、本人に関わる複数のスタッフ間で協議して目標を決定していく ・「Ｙｅｓ」「Ｎｏ」のチェック方式にする ・失語症の種類・レベルに応じた関わりを行う
変化について認識できない方	・なぜ変化を認識できないかによるが、変化を感じられなさすぎるのであれば、目標設定を変更するきっかけになるのではないか ・客観的な実行度を評価し、本人が理解できる表現を模索する
機能訓練を優先すべき利用者の方	・機能訓練をすることで改善したい具体的な目標があるはず。その具体的な目標に向けて、明確にするためにも活用できる
強いうつ・そう状態がある方	・無理強いせず、精神症状が落ち着き、安定するまで待つ
要介護度４～５の方	・介護度ではくくれないはず。コミュニケーションが難しい方なら、家族や友人からの情報や生活歴、本人に関わる複数のスタッフ間で協議して目標を決定していく ・内容に制限は出やすいが、介入できないことはない

在宅ベースのケアを目指すことができない方	・施設入所であっても生活の場であることには変わりはない。その人の困っていること、意味のある活動など目標を明確にすることで活用できる
意欲的ではない方	・意欲につながるきっかけつくりとして提供する ・個別の中か集団の中か、場作りにも配慮することが必要 ・観察したり多職種からの情報収集を行う
IADL を目標にできない方	・マネジメントは IADL の目標ではなくても介入は可能
目標があいまいな方	・目標設定において現状をアセスメントした上で、理想（目標）とのギャップが大きく生じないように配慮することが重要
認知症のアクティビティー以外で使えるものか	・十分使用できる ・ターミナルの方や脳梗塞、整形外科疾患、パーキンソン病など年齢も踏まえて多種多様な方々に提供することは可能
長期入所者で意欲的ではない方	・意欲につながるきっかけつくりとして提供する ・個別の中か集団の中か、場作りにも配慮することが必要 ・観察したり多職種からの情報収集を行う

どの対象者に対してでも「目標の設定」「作業療法士の考え方次第」で本マネジメントは有効活用できる。

第五章　福祉職のための生活行為向上マネジメントツールの開発と試行

Ⅰ．目 的

高齢者の自立支援においては、高齢者自身の「持っている力（以下、できる力）」を見極め、作業が「できる力」を伸ばし、発揮できるよう支援する（「以下、見守る力」）ことが重要なことであり、生きがいや社会参加へつなげ、目的を持った主体的な活動となるようマネジメントされなければならない。

そのためには、各専門職が自立支援プランに基づいて密に連携することが求められ、作業ができる力を見極めることを得意とする作業療法士と、高齢者の生活の場面を支えることを得意とするケアマネージャーや介護福祉士、ホームヘルパー等が連携し、チームアプローチを行うことで、効率的・効果的な自立支援に資することができる。

平成 20 年度～22 年度の当研究事業において、生活行為向上マネジメントを作業療法士が活用できることは確認済みであるが、今回は、介護保険の担い手である福祉職にも活用できるツール（以下、生活行為援助シートという。）に改編し、モデル施設において試行実施の上、同様の効果が得られるのかを検討した。

Ⅱ．実施協力機関

デイサービスけやき通りの協力のもと、当デイサービスセンターの利用者を対象に研究フィールドの提供をいただいた。生活行為援助シートの作成及びフィールドの介入においては、福岡県作業療法協会の協力を得て実施した。

また、試行実施にあたり、ご利用者及びご家族の研究事業への協力を感謝申し上げる。

（協力施設及び団体）
株式会社ケアプラネッツ　デイサービスけやき通り
社団法人 福岡県作業療法協会（※ 作業療法士支援協力）

Ⅲ．事業概要

１．地区委員会の開催

生活行為援助シート及びモデル施設における試行実施方法について検討した。

１）開催場所：モデル通所介護事業所（デイサービスけやき通り）
２）地区委員：5 名
３）開催回数：3 回

地区委員名	所　　属
坂本 幸美	日本ホームヘルパー協会 北九州支部 会長
志井田 太一	社団法人 福岡県作業療法協会 会長
葉山 靖明	デイサービスけやき通り 施設長
宮永 敬市（事務局）	北九州市保健福祉局健康推進課
村井 千賀（事務局）	石川県立高松病院

（50 音順）

２．生活行為援助シートの開発

平成 20 年度～22 年度の当研究事業において検証した生活行為向上マネジメントをベースに、介護保険の担い手である福祉職にも活用できるよう改編を行った。

＜従事者＞

・作業療法士（研究事業従事者及び福岡県作業療法協会）

・デイサービスけやき通り施設長

３．生活行為援助シートの試行実施

モデル通所介護事業所において、生活行為援助シートの試行実施を行う福祉職を対象に、事業の概要及び試行実施方法について事業説明会を行った。

その後、福祉職が生活行為援助シートを用いて情報の聞き取り（利用者から必要な情報を収集し、利用者がしたい作業を導き出すまでの過程）及び作業の聞き取りを１ヶ月の間に行った後、利用者が作業を実施する過程の支援を行った。

また、作業実施後について意見交換会を行い、試行実施に従事した福祉職を対象に生活行為援助シートについての感想・意見等を聴取し、有効性及び課題等の分析を行った。

１）実施場所：モデル通所介護事業所

２）実 施 者：モデル通所介護事業所の職員（生活相談員等の福祉職８名）

３）実施期間：約３ヶ月間

※ 事業説明会及び意見交換会を含む

４）実施の流れ：

内　容	具体的方法
事業説明会	・生活行為援助シートの使用方法について、モデル通所介護事業所の職員へ説明を行う。
作業聞き取り （約１ヶ月間）	・生活行為援助シートを用いて、利用者から必要な情報を収集し、利用者がしたい作業を導き出すまでの過程を実施する。 ・実施者に対して作業療法士が随時相談対応（電話・訪問）を行う。
作業実施 （約１ヶ月間）	・聞き取った作業を試行する ・実施者に対して作業療法士が随時相談対応（電話・訪問）を行う。
意見交換会	・生活行為援助シートの利用状況等について、モデル通所介護事業所の職員から感想・意見等を聴取する。

Ⅳ．地区委員会

地区委員会を３回開催し、生活行為援助シート及び試行実施方法等について検討を行った。

回	日	主な検討内容
第１回	平成 23 年８月 21 日	・事業説明 ・生活行為援助シートについて検討 ・試行実施方法について検討

第 2 回	平成 23 年 11 月 20 日	・試行実施経過について報告 ・最終評価内容について検討 ・マニュアル改訂について
第 3 回	平成 24 年 1 月 15 日	・試行実施事例について ・マニュアル改訂について

１．第 1 回地区委員会の概要

出席者：10 名（地区委員 3 名、事務局 7 名）

１）事業説明

今年度の事業概要について説明を行った。

２）協議要旨

（１）生活行為援助シートについて

補助シートを含めて 5 枚のシート構成を検討した。シートは、高齢者が「したい作業、意味のある作業」を導き出すために、支援者が援助しやすい流れに沿ったものとした。

〔シート１〕～「したい作業、意味のある作業」を考えていく上での必要な情報整理シート
〔シート２〕～具体的な作業を挙げ、自己評価するための作業聞き取りシート
〔シート３〕～作業を実行するときに、具体的なイメージを作るためのシート
〔シート４〕～作業のイメージが浮かびにくい場合に補助的に用いるためのシート
〔シート５〕～作業を実現するために考えるヒントとなるためのシート

（２）試行実施方法について

作業の選択やプランニングの支援をスムーズにするため、職員向けのマニュアルを作成した。

２．第 2 回地区委員会の概要

出席者：8 名（地区委員 3 名、事務局 5 名）

１）報告事項

（１）施行事業の経過について

試行事業の実施状況について説明を行った。

２）協議要旨

（２）生活行為援助シートを実施する上での意見交換

利用者が行う主観的評価以外に客観的な評価を行い、比較してみる必要がある。

シート３を用いて職員が分析を行うことは、負担が大きいと思われ、「難しくしているのは何か」、「点数を低くしているのは何か（身体か、精神的なものか、環境的なものか、それとも作業方法なのか）」など、課題点を導きやすいような分析項目をシート２に設けることとし、シート３は廃止とする。

３．第 3 回地区委員会の概要

出席者：10 名（地区委員 4 名、事務局 6 名）

１）報告事項

（１）施行事業事例のまとめについて

意見交換会で得た意見内容及び事例のまとめについて説明を行った。

（２）マニュアル改訂について

試行実施の結果得られた課題点等について整理し、修正箇所等について協議を行った。

２）協議要旨

（１）事例について

・ 7 事例で分析を行ったところ、「睡眠」「コミュニケーション」の項目において、主観的評価と客観的評価の有意差が見られている。
・ 客観的評価には変化はないが、主観的評価が向上しており、周りから見るより利用者本人は良

くなったと感じている。

- 主観的評価は、「身だしなみ」・「コミュニケーション」・「健康感」、特に「健康感」は顕著な向上がみられ、これらの項目に対しては作業が及ぼす影響が大きいのでは。
- セルフケアについては、この 3 ヶ月間においてほぼ変化が生じなかったが、行動変容した事例もみられることから、今後の生活における活動量の向上が期待でき、一年後を評価した場合に差が生じる可能性があるのでは。
- 今後、追跡調査を行い、その変化を見ていく必要があるのではないか。

（2）マニュアル改訂について

- 生活行為援助シートの生活状況場面での評価を、利用者及び職員がそれぞれ用い、比較検証できるように修正する。
- 生活行為援助シートの作業遂行分析部分については、福祉職にとって活用しづらいため、シンプルなシートに修正する。

Ⅴ．生活行為援助シートの開発

平成 20 年度～22 年度の当研究事業において、生活行為向上マネジメントが高齢者の生活行為の自立に効果があり、マネジメントを作業療法士が実践できることは確認済みである。

しかしながら、生活行為向上マネジメントは、その考え方について多職種が共通の理解を図り、連携して高齢者の自立に向けた支援を行うことが重要であることから、幅広い職種で活用できる支援ツールが求められ、改編を行うこととした。

今回、生活行為向上マネジメントをベースに、高齢者から必要な情報を収集し、高齢者がしたい作業を導き出すまでの過程を支援できるよう、構成を検討した「生活行為援助シート」を作成した。また、作業を実施していく過程について、高齢者の変化を把握できるようシートの工夫を行った。

1．改編の際の視点

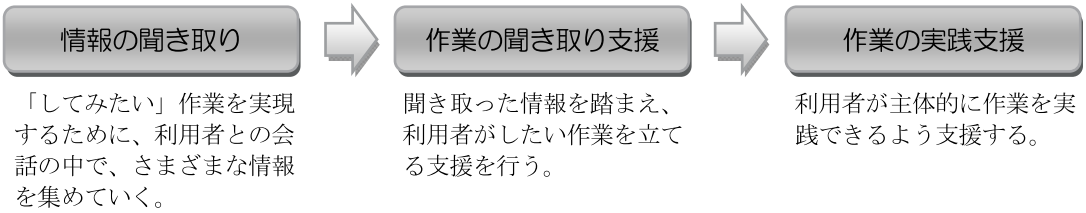
1）生活行為向上マネジメントツールの「作業聞き取りシート」を中心に、福祉職にも活用できるツールに改編し、利用者及び支援者の共通ツールとして用いられることを目標とする。
2）作業目標やプランは、基本的に利用者が主体的に活用できるように構成する。
3）利用者の視点を尊重したトップダウン思考（利用者がしたい作業、やりたい作業を実現するために、利用者と共に課題を話し合いながら解決していこうとする考え方）で構成する。
4）作業療法士は、福祉職に対するサポートを行う立場とする。

2．生活行為援助シートの流れ

上記の前提条件を踏まえ、プログラムを主に 3 つの流れの構成（図 1）とした。

1）情報の聞き取り
作業を聞き取る前準備として、利用者の生きてきた個人史を知るための聞き取りを行う。
その利用者の生きてきた歴史を知ることで、考え方や価値観を共有し、その方の求める真のニーズが見つけやすくなる。
2）利用者の目標を立てる支援
聞き取った情報を踏まえて、利用者の目標を立てる支援をする。
3）聞き取った作業の支援

図１　生活行為援助シートの流れ



３．シートの構成

シートについては、3 種類の記入シートと 2 種類の補助シートの合計 5 シートを作成し、たたき台とした。それぞれのシート構成については、以下の通りである。

＜シート構成（初回）＞

シート	シート名	内　容
シート①	（仮称）作業をすることで元気になれるハッピーシート①	情報の聞き取りポイント、生活場面の状況チェック表（自己評価）
シート②	（仮称）作業をすることで元気になれるハッピーシート②	作業目標、実行度・満足度自己評価
シート③	（仮称）作業をすることで元気になれるハッピーシート③	作業課題の分析シート
補助シート①	（仮称）やりたいこと発見シート	興味・関心チェックリスト
補助シート②	（仮称）こうなればできそうヒントシート	原因分析シート

これに記入例（事例）等を含めて「実施の手引き」としてまとめ、試行実施の際の関係者向け事業説明会に使用した。その後、作業経過を把握するためのシート及び支援者が評価する客観的な評価表を追加した。

試行実施の結果、シートの有効性が示唆されたが、アセスメントシート（「自分の体や動きがどうなればよいか」、「作業ができないと思う点はどこか」、「どうしたらできるようになるか」などを福祉職が分析できるよう工夫したもの。）については、福祉職が活用するには負担が大きいことが分かった。そのため、他の課題等も含めて整理を行い、シート構成について再編した。

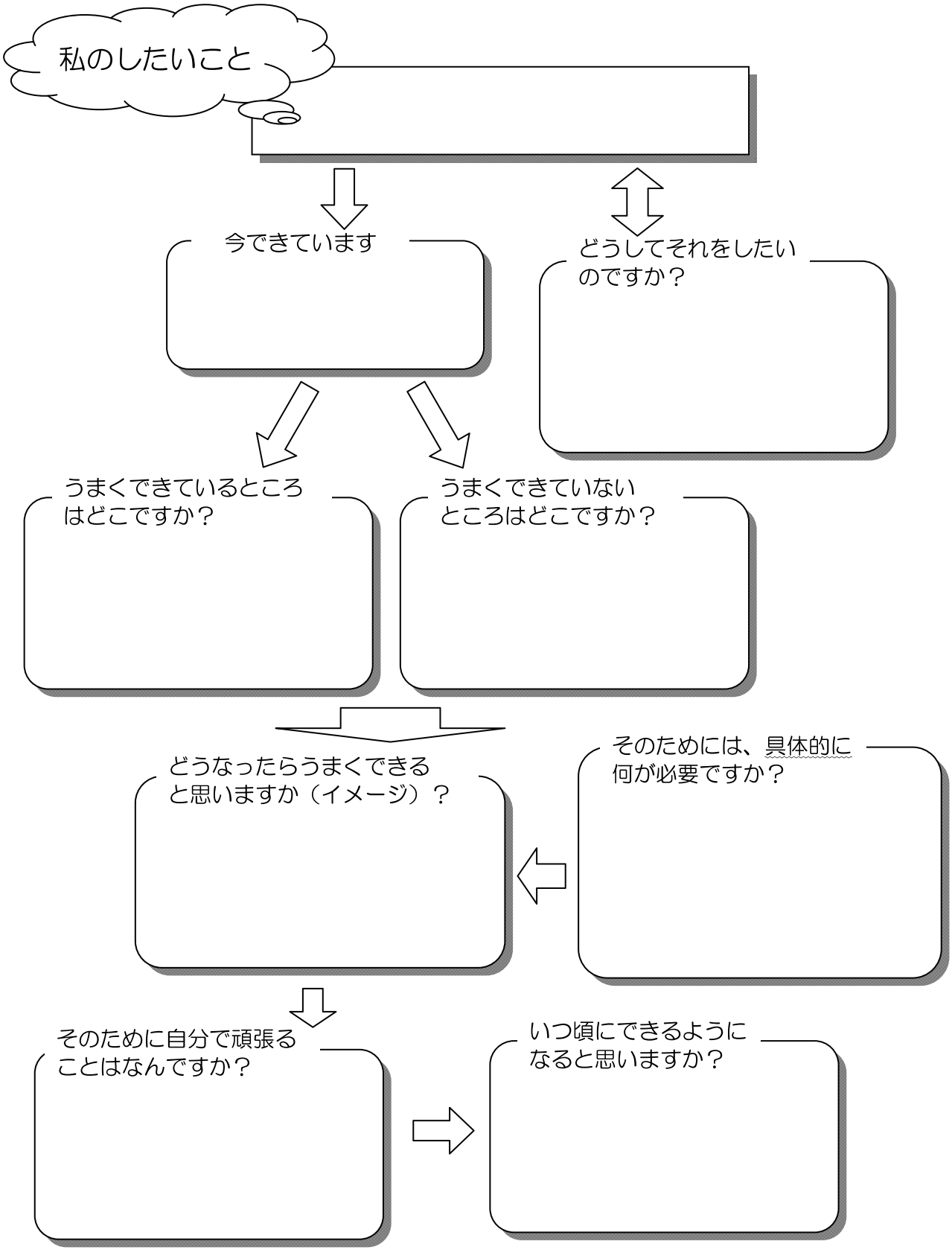
＜シート構成（最終）＞

シート	シート名	内　容
シート①	生活行為援助シート① （事前シート）	情報の聞き取り
シート②	生活行為援助シート② （作業シート）	作業目標、実行度・満足度自己評価
シート③	生活行為援助シート③ （経過シート）	作業経過（利用者・家族の変化）
シート④	生活行為援助シート④ （生活状況場面での評価）	自己評価・支援者評価共通
補助シート①	生活行為援助シート （やりたいこと発見シート）	興味・関心チェックリスト
補助シート②	生活行為援助シート （ヒントシート）	原因分析シート

【参 考】作業課題の分析シート

作業をすることで元気になれるハッピーシート③

利用者：　　年齢：　　歳　　担当者：　　性　別：男　・　女



Ⅵ．生活行為援助シートの試行実施

モデル通所介護事業所において生活行為援助シートを用いた試行を行うと共に、実施前に関係者間で事業趣旨を理解し共有するための説明会を開催した。また、試行実施後には関係者間の意見交換会を開催し、関係者の感想・意見等を聴取した。

１．事業説明会

試行実施に従事するモデル通所介護事業所の職員に対して、事業の概要について説明を行った。

１）日　　時：平成 23 年 9 月 11 日（日）

２）実施場所：モデル通所介護事業所

３）対 象 者：モデル通所介護事業所の職員８名

（生活相談員２名、看護師１名、介護職兼生活相談員２名、介護職３名）

※当日欠席の３名については、後日モデル通所介護事業所の作業療法士から事業説明を行った。

４）説明内容：①事業の経緯・目的について

②高齢者がしたい作業を実現するための支援ツールの概要について

③シートの記入の仕方について

５）そ の 他：説明会の最後に、モデル通所介護事業所の職員と施行実施中のフォローアップを行う担当作業療法士間で顔合わせ及び意見交換を行い、連携が図りやすいよう配慮した。また、相談時の連絡方法等についてお互いが話し合い、試行実施中の相談体制を明確にした。

２．試行実施

モデル通所介護事業所において選定した８事例（表１　男性４名、女性４名、平均年齢 77.0 歳±7.2）について、試行実施を行った。各事例は幅広い疾患名を有しており、認知症についても 3 事例みられた。

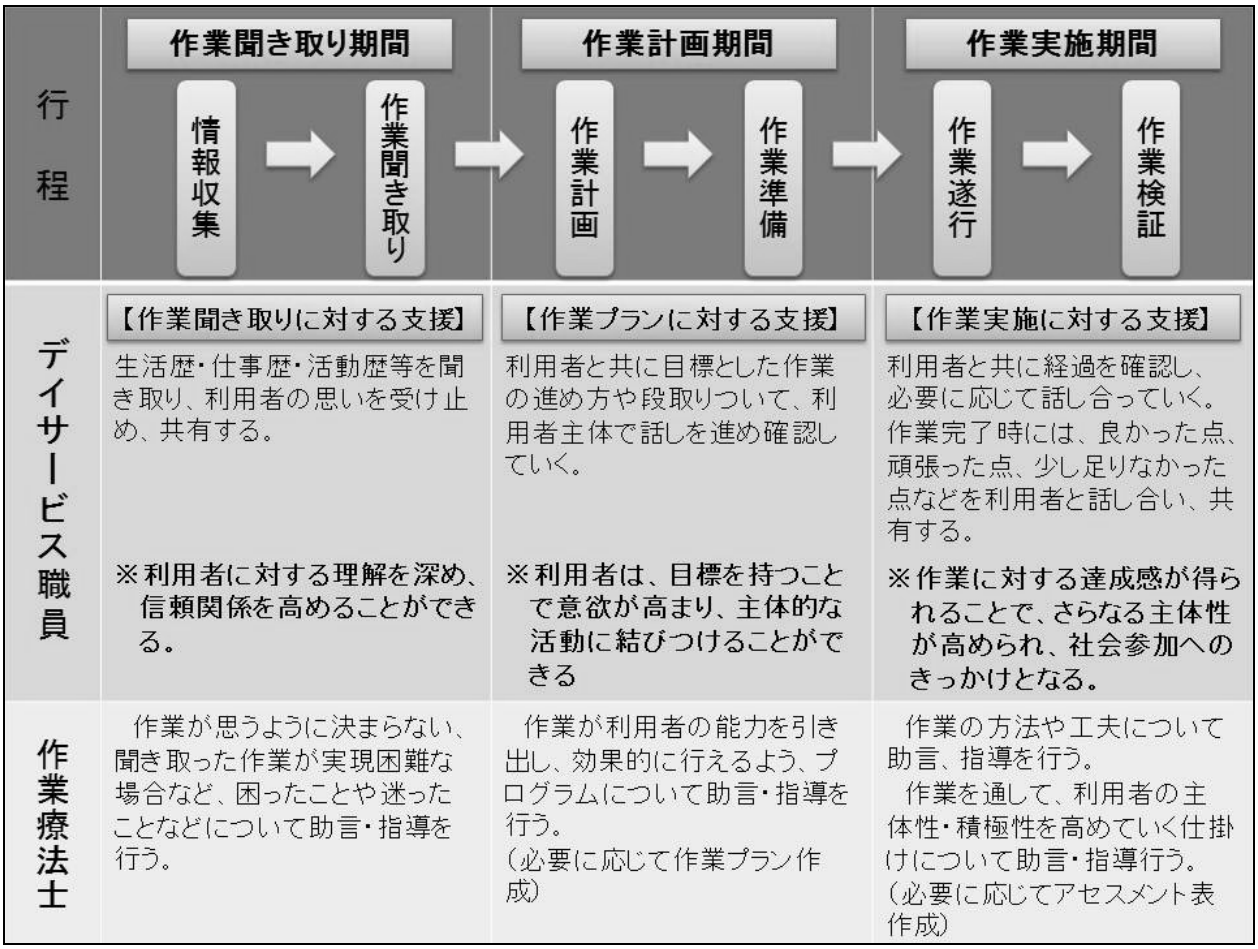
試行実施は、主に３つの期間（図 2）からなり、各期間において福祉職からの相談に対応すべく、作業療法士による相談体制を整えた。結果、介入が必要な相談は生じず、職員から進め方等についての簡単な相談がみられたが、モデル通所介護事業所の作業療法士が対応することでほぼ解決に至った。

事例８については、途中施設入所となったため、最終評価を得るには至らなかった。

表１　事例概要

No.	年齢	性別	疾　患　名	要介護度	作　業
1	77	男	アルツハイマー型認知症	要介護２	塗り絵（バラ・りんご）
2	84	男	糖尿病・認知症	要介護１	切り絵（星）
3	80	女	狭心症･糖尿病	要支援２	パソコンでインターネット
4	68	女	関節リウマチ	要介護２	パソコンで年賀状づくり
5	86	女	高血圧症	要介護２	野菜づくり（ネギなど）
6	70	男	右片麻痺・失語症	要介護２	ステンドグラスづくり（プランター）
7	84	女	認知症	要介護１	木目込み手芸
8	67	男	高次脳機能障害	要介護１	書字とさし絵の塗り絵

図２　試行実施の流れ



３．意見交換会

施行実施に従事したモデル通所介護事業所の職員に対して意見交換会を開催し、生活行為援助シート及び実施上についての感想・意見等を聴取した。

１）日　　時：平成 23 年 12 月 11 日（日）

２）実施場所：モデル通所介護事業所

３）対 象 者：モデル通所介護事業所の職員５名、作業療法士

４）内　　容：①実施の手引き（各シート）についての意見聴取
②作業の聞き取りについての感想等
③聞き取った作業の支援についての感想等

５）感想・意見等の概要

（１）実施の手引き（各シート）について

＜シート１（事前シート）＞

シートの利点	・ 聞き取る項目が分類してあるため、それに沿って聞き取りしやすかった。 ・「生活歴」「仕事歴」「活動歴」と分類されているのがよい。 ・ 内容が漠然とした項目があり、分かりにくいところがあった。 ・ 5 段階評価は、付けやすかった。 ・ 空欄があると埋めなければならないように感じるので、「分かるところは記入」などの但し書きがあると安心する。 ・ 生活歴等と評価は別紙の方が良い。
シートの課題点	・ 職種によっては、常に関われるとは限らないため、聞き取るための時間の確保に苦慮するところがあった。（相談員については、カンファレンス等もありある程度の時間は確保しやすい。） ・ 聞き取る内容は、個人情報の傾向が強いため、周囲に配慮する必要性も見られた。 ・ 意思疎通がスムーズな利用者については、比較的短時間で聞き取りが可能であったが、疾患（難聴や言葉が出にくい認知症など）によっては、聞き取りに多くの時間が必要であった。

＜シート２（作業シート）＞

シートの利点	・ 比較的スムーズに作業の聞き取りは行えた。 ・ 作業が決定して利用者がいきいきしだした。 ・ 以前同じ作業を家族が勧めたときは実施できなかったが、今回自分でその作業を選択し、その後どんどん行うようになっていった。
シートの課題点	・「うまくできないところ」については、ネガティブなことを聞くことになるのでシートにそぐわない感じがする。 ・「現状よりうまくできるようになるにはどうしたらいいか」や「うまくできるようになりたいところ」などの表現が良いのではと思う。 ・「私のしたいこと」とその下の「うまくできないところ」「考えられる原因」などの評価部分は別にしたほうがよいと思う。 ・ 聞き取った人の感想を入れてみてはどうか。

＜シート３（経過シート）＞

シートの利点	・ 毎回の振り返りができ、次回の計画に生かせるのでよかった。 ・ 毎回担当の職員が関わるわけではないので、他職員との連携に役立つ。 ・ 情報共有ができ、次につなげることができる。
シートの課題点	・ 特に意見なし

＜シート４（評価シート）＞

シートの利点	・ シートは付けやすかった。
シートの課題点	・ 項目の内容が似たようなものがある。 ・ 項目がやや多い。 ・ 利用者本人に聞かなければ分からない項目もある。 ・ 項目によっては「ある」「ない」で返答するようなところがあり、5段階の評価がしにくい。

（２）情報の聞き取りについて

課題点	・ 時間をかけてじっくり話すことで、担当利用者を特別視しているように思われるのではないかをいう心配があり、他の利用者に気を遣った。 ・ 色々聞くと身構える利用者もいた。プライベートなことを聞くので「これを聞いてどうするの？」と心配そうな利用者もいた。十分な趣旨説明が必要だと思った。

（３）作業の聞き取りについて

聞き取りにおいて工夫した点	・ 介護職については、関われる時間が限られるため、送迎中や入浴中などを利用して聞き取りを行うなど工夫を行った。 ・ 訊ねた内容によっては、「うーん、思い出せない」と頭を抱える利用者もいたので、その場合は時間をかけてちょくちょく少しずつ聞き取りを行うように工夫した。 ・ 認知症など本人からの聞き取りが困難なケースは、家族より情報を得た。その際、送迎を調整してもらい、聞きとりが出来るよう工夫した。
利用者の変化点	・ 利用者も話を聞くことで、「認めてもらえた」という感覚を得られた様子であった。 ・ 聞き取りをしていくと利用者の顔がパーッと明るく、輝くような表情になった。 ・ これから一緒に作業をしようというウォーミングアップになったようだった。
職員の感想等	・ 項目に沿って聞いていくと、それに付属してたくさんのことを利用者が話してくれた。 ・ シートに沿って聞いていくと、こんなに知ってもいいのかなと思うくらいたくさん話してくれ、記入する欄が足りないくらいだった。 ・ 利用者のことはある程度知っているつもりであったが、もっと深く利用者のことを知ることができ、距離が近くなった。 ・ 利用者とゆっくり横で話すことで、信頼感が高まったのを感じることができよかった。

Ⅶ. 試行実施結果

１．作業結果

全ての事例において作業の実行度及び満足度の向上（表 2）がみられ、表情の変化や会話の増加など、意欲や社会参加に関することが向上した。また、様々な作業効果が得られており、コミュニケーションや意欲以外に、IADL まで効果が波及した事例がみられた。

１）実行度・満足度の変化

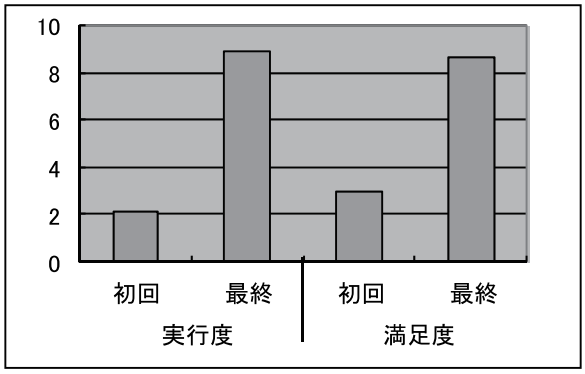
実行度・満足度については、すべての事例（途中入所事例を除く 7 事例）において顕著な向上がみられた。(図 3)

表 2　全事例の実行度満足度の変化

事例	実行度		満足度	
	初 回	最 終	初 回	最 終
事例１	1	8	1	8
事例２	2	10	5	10
事例３	3	8	2	8
事例４	1	10	1	10
事例５	5	10	9	10
事例６	2	7	2	7
事例７	1	9	1	8
事例８	5	-(入所)	5	-(入所)
平均(※)	2.1	8.9	3.0	8.7

※途中１事例が施設に入所したため、７事例の平均値とした。

図 3　実行度・満足度の平均値比較



２）作業の効果

すべての事例において様々な効果が見られており、コミュニケーションの幅が広がることで、意欲や社会性の向上が図れた事例が最も多い。中には、IADL にまで効果が波及した事例もみられた。

対象者	事例名 作業内容	作業の効果
(事例１) 77 歳 男	自己選択した作業を通して周囲をも元気にしていった事例 塗り絵（バラ・りんご）	作業をきっかけに家族やデイサービスの仲間との交流が活発になり、また自宅での作業にもつなげることができ、心身ともに活動的になっていった。

（事例２） 84 歳 男	趣味の切り絵を再開したことでいきいきとした表情を取り戻し、日常生活が活性化した事例 切り絵（星）	作品を仕上げて成功体験を重ねる中で、失っていた自信を取り戻し、身だしなみに気を配る、庭木の剪定をするといった日常生活の活性化にもつながり、IADL にまで効果が波及した。
（事例３） 80 歳 女	作業を通して職員や家族との会話が広がり、意欲に変化がみられた事例 パソコンでインターネット	作業を通して、他の利用者のコミュニケーションの幅をさらに広げると共に、家族との会話が増えるツールとなっている。
（事例４） 68 歳 女	やりたい作業を通して自信を取り戻した事例 パソコンで年賀状づくり	今の身体の状況でもできることがあることが分かり、今回、それがパソコンで本人の興味を引くものとなり、もっと出来るようになりたいという気持ちが意欲を向上させ、日々の生活の中でも楽しみとなり生きがいとなった。
（事例５） 86 歳 女	仲間とともに作業の楽しさを得ることができた事例 野菜づくり（ネギなど）	野菜作り」「ティッシュケース作り」という二つの作業に取り組み、仲間との収穫の楽しさや仕上がったティッシュケースをプレゼントしたことで、その満足さが向上した。
（事例６） 70 歳 男	あきらめていた作業ができたことで、生活意欲が向上した事例 ステンドグラスづくり（プランター）	当初は、「こんな体でできるわけない」とあきらめていたが、作品に取り組むにつれて自信を回復し、「自分にはまだまだ出来ることがたくさんあること」に気づくきっかけとなった。
（事例７） 84 歳 女	作業を通して職員や利用者との会話が広がった事例 木目込み手芸	作業を通して、自分で作品が作れることの楽しみや達成感が得られ自信が付くと共に、職員や他の利用者との会話が増えるなど社会参加につながるきっかけとなっている。
（事例８） 67 歳 男	作業がきっかけとなり、意欲と根気に変化がみられた事例 書字とさし絵の塗り絵	作業を通して職員や家族との会話の幅も拡がり、自宅で字を書く練習をされるなど、一日の過ごし方にも変化がみられている。

２．評価

１）主観的評価

利用者の主観的評価について、7 事例の平均値の初回と最終を比較した。

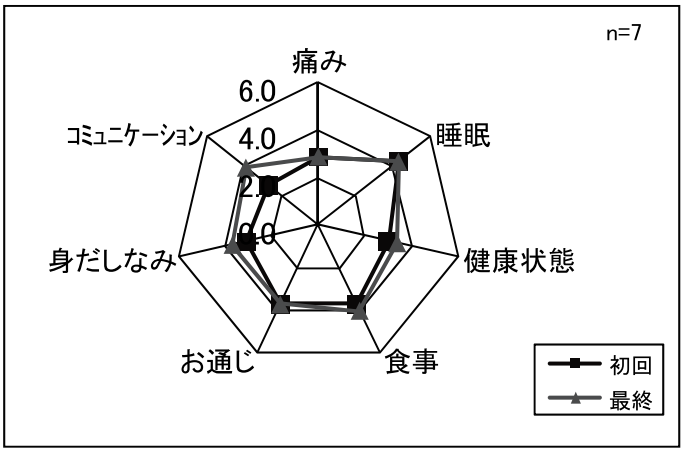
「健康状態」、「身だしなみ」、「コミュニケーション」の 3 項目について向上がみられ、特にコミュニケーションについては顕著な向上がみられた。（表 3・図 4）

表３　全事例の実行度満足度の変化

(N=7)

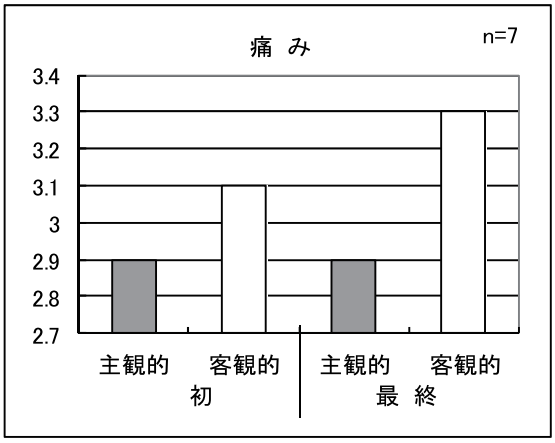
項　目		初　回		最　終	
		点　数	標準偏差	点　数	標準偏差
一般健康状態	痛み	2.9	1.4	2.9	0.9
	睡眠	4.3	0.8	4.3	0.8
	健康状態	3.0	0.8	3.4	1.1
セルフケア	食事	3.7	1.0	4.0	0.8
	お通じ	3.7	1.1	3.7	0.8
IADL・社会参加	身だしなみ	3.1	1.2	3.7	0.8
	コミュニケーション	2.7	1.4	3.9	1.1

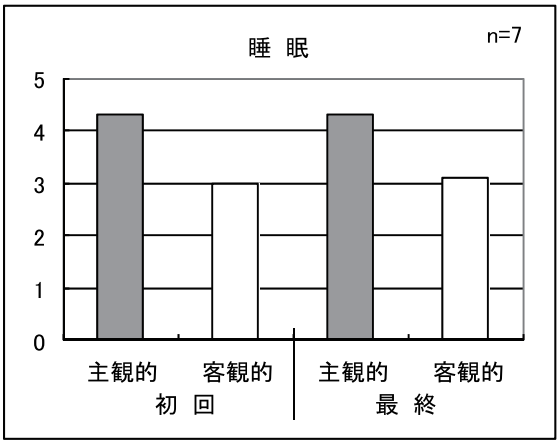
図４　主観的評価の平均値比較

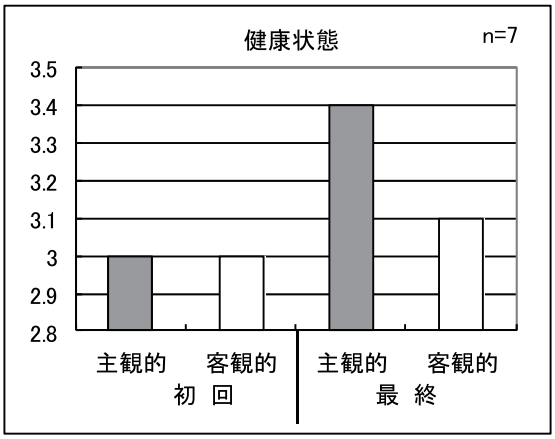


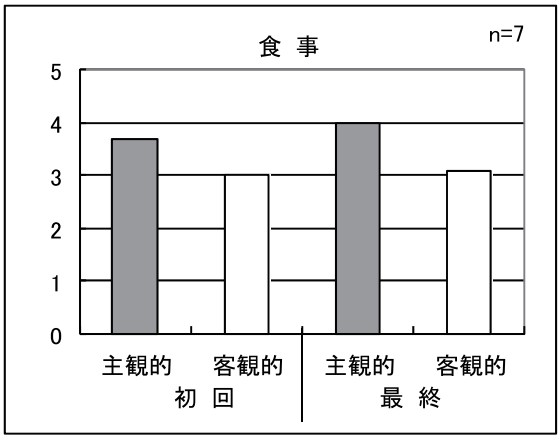
２）主観的評価・客観的評価

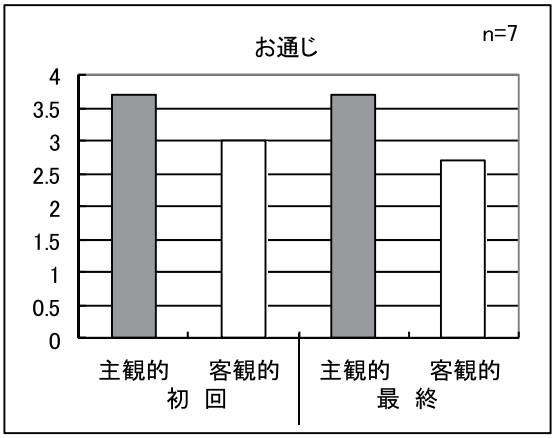
利用者の主観的評価及び職員の客観的評価について、7 事例の平均値の初回と最終を比較した。「健康状態」、「身だしなみ」、「コミュニケーション」の 3 項目については、客観的評価より主観的評価において顕著な向上がみられた。

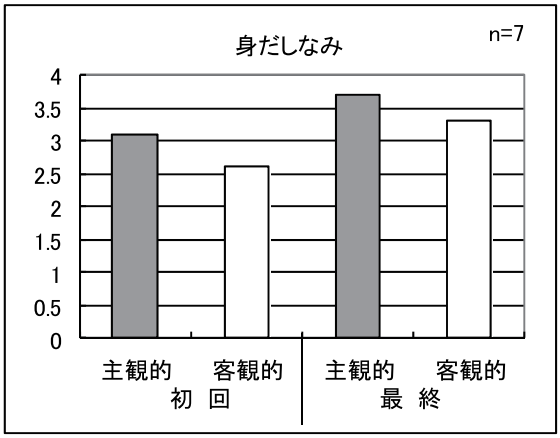


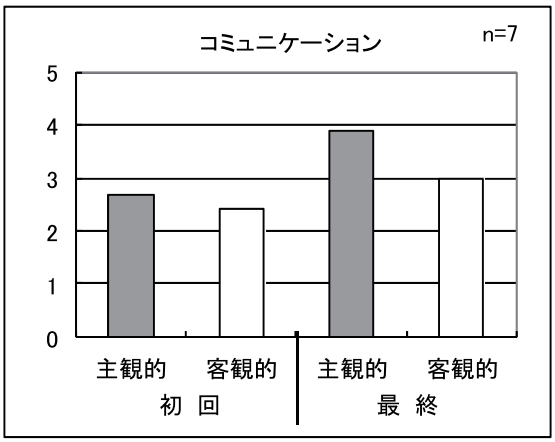



健康状態
n=7
3.5
3.4
3.3
3.2
3.1
3
2.9
2.8
主観的
客観的
初 回
主観的
客観的
最 終


食 事
n=7
5
4
3
2
1
0
主観的
客観的
初 回
主観的
客観的
最 終


お通じ
n=7
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
主観的
客観的
初 回
主観的
客観的
最 終


身だしなみ
n=7
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
主観的
客観的
初 回
主観的
客観的
最 終


コミュニケーション
n=7
5
4
3
2
1
0
主観的
客観的
初 回
主観的
客観的
最 終

Ⅷ. 考察

１．評価について

生活行為援助シートを用いた試行実施（情報及び作業の聞き取り・作業実施）は、約３ヶ月という限られた期間であったが、すべての事例において介入した利用者の心や気持ちに変化が表れる結果となった。特に「コミュニケーション」については、顕著な向上がみられており、意欲や社会参加に関することについて効果が高いと推測される。

また、「健康状態」や「身だしなみ」、「コミュニケーション」項目については、客観的評価より主観的評価が高く、周囲からみる利用者像よりも利用者本人は、変化をより敏感に意識していることが推測される。

セルフケアについては、期間内において変化がみられなかったが、利用者の活動量が向上しIADLの向上に至った事例もあることから、一年後において差が生じてくる可能性があると考える。そのため、今後追跡調査を行うと共に他施設において実施し、統計的検証ができるよう事例の集約が必要である。

２．生活行為援助シートについて

試行実施の結果は、すべての事例において様々な効果が見られ、介護職員の生活援助シートを用いた支援が有効に機能したことから、本シートの有効性は高いことが分かった。

また、認知症の事例においても活用が図れたことから、幅広い疾患への対応が可能であることが分かった。

利用者及び介護職員に対する効果については、以下のとおりである。

１）利用者に対する効果

情報の聞き取りにおいて、職員が利用者と向き合って生活状況やこれまでの生活について話しを聞いていくことは、利用者との信頼関係につながり、意欲の向上に影響する事が推測された。

また、作業を完遂することで、作品に対する実行感や満足感が向上し、「私でもやれることがある」という意識変容に繋がったと考えられる。そして、早々に次の作業に取り組もうとするなど、したい作業を通して主体性が向上すると共に、企画力、判断力、実行力、調整力、社会性など、自立に向けた基本的な活動遂行力の向上に影響を及ぼすと考えられる。

【意見交換時の具体的内容】
- 利用者も話を聞くことで、「認めてもらえた」という感覚を得られた様子であった。
- 聞き取りをしていくと利用者の顔がパーッと明るく、輝くような表情になった。
- 作業実施当初は不安な様子であったが、職員の助けを借りて実施することで、安心して作業が遂行できるようになった。表情もよくなった。
- 一人の作業が周りにも影響し、皆が集まるようになっていった。

2）介護職員に対する効果

情報の聞き取りについては、その人の生活史を知るための情報収集を行い、これまで生活してきた足跡を理解することで、利用者像の見えていなかった部分を感じ取ることが行えた。

また、利用者と向き合って話すことが、信頼感を得る一つの要素であることを感じており、これらのことが、「精神的な距離感が近くなった」などのように、利用者に対する意識変化に現れていることが推測される。

作業実施については、不慣れなためかシートの記入にやや苦労したところがみられているが、意見交換会において、「楽しかった」という意見が多数を占めていた。生活行為援助シートの実施を負担に感じるのではなく、利用者と共に介護職員も楽しみながら実施できたことは、大きな変化と考えることができる。これは、利用者を理解するための情報の聞き取りが行えたこと、利用者がしたい作業に責任を持って携われた事が、モデル事業実施の意欲に繋がったと思われる。

【意見交換時の具体的内容】

- ただの雑談ではなく、その人を知るためのコミュニケーションがとれたので、距離が近くなったと感じる。自分で作業を掘り起こしていく過程は楽しかった。
- やっていて楽しかった。
- ＯＴとしてもアドバイスしやすくなったし、介護職から申し送りをしてもらえるようになった。今まではＯＴから介護職へ一方通行になりがちなところがあったが、今は双方からの申し送りがあり、連携が図れるようになった。
- 今まではＯＴに言われたことをしていたが、この事業に関わってから、「自分が入浴業務に入るのでその間に〇〇をしていてください」などとＯＴに申し送って作業を実施してもらった。
- 担当しているという責任感、自覚が芽生えた。
- 担当が違う利用者でも、その利用者の今日の様子を伝えようという気持ちになった。
- 以前勤めていたところでは、レクリエーションなどグループで行うことが多く、やりたくないこともさせていたのではないかと思う。今回一人一人に合わせて、作業ができてよかった。

３．課題について

1）作業療法士との連携について

試行実施に従事した職員から、生活行為援助シートの進め方等について相談があったが、比較的解決が容易な内容であり、モデル通所介護事業所の作業療法士が対応することでほぼ解決に至った。

そのため、担当の作業療法士の介入までには至らなかったが、今後、介入が必要な事例やポイント点等を把握する必要があり、事例の蓄積と継続的な調査を行うことで、介入モデルの標準化が可能と思われる。

2）通所介護事業所における実施体制について

生活行為援助シートは、情報の聞き取りを重要視しているため、職員が聞き取る時間の確保が必要となり、場合によっては家族から情報を得る必要があった。

また、職員の責任感等を考慮すると、主に同一の職員がその利用者の担当として支援を行い、他の職員へ情報を伝達するなどの連携を図る仕組みが望ましいと考えられる。

今回はモデル事業として試行錯誤の上実施できたが、他施設においても同様の試行実施を行い、必要な体制等について調査することが必要と思われる。

４．モデル通所介護事業所からの助言等

１）施設紹介

〔施設名称・規模等〕

名　　称 ： デイサービスけやき通り
介護事業所区分 ： 通所介護、介護予防通所介護
利　用　定　員 ： 18 名
住　　所 ： 福岡県宗像市城西ヶ丘 4 丁目 20－2
運　営　法　人 ： 株式会社　ケアプラネッツ　　代表取締役　葉山靖明

〔利用者構成〕

登録利用者総数 ： 40 名（平成 23 年 12 月 31 日現在）

内訳）	要支援１	･･･ 2 名	要介護１	･･･	14 名
	要支援２	･･･ 6 名	要介護２	･･･	13 名
			要介護３	･･･	5 名
			要介護４	･･･	0 名
			要介護５	･･･	0 名

〔職員構成〕

総数：12 名

			（保有資格）
内訳）	施設長	･･･ 1 名	社会福祉主事
	生活相談員	･･･ 2 名	ケアマネージャー、看護師 社会福祉士、精神保健福祉士
	看護職員	･･･ 2 名（うち 1 名兼任）	看護師
	機能訓練指導員	･･･ 3 名（うち 2 名非常勤）	作業療法士、ケアマネージャー
	介護職員	･･･ 5 名	ホームヘルパー2 級、介護福祉士社会福祉士

〔特　　徴〕

当デイサービスは、利用者のニーズを少人数デイサービスの中で作業療法により実現化する施設である。施設長である葉山の片麻痺経験により、より利用者の気持ちに沿った介護とリハビリをスタッフ全員で実現するよう努力している。

今回の研究試行事業についても、各職員とも「勉強になるから、やってみます！」と積極的であり、8 名が試行参加した。試行終了後は今まで以上に、利用者との心の距離を縮めていきいきと職務に励んでいる。

２）施設内で生活行為援助シートを利用するための課題

- 指導役として作業療法士が何らかの形で存在することが必要である。
- 聞き取り・遂行などのために時間を要するため、点数加算などの措置が必要である。
- シートの活用と共に職員の知識・意識を育てることも重要である。

３）意見・感想

- 「スタッフ」と「利用者」の心の距離が近くなった。
- 利用者の笑顔が増え、デイサービス内で笑い声が以前よりよく聞こえるようになった。
- 利用者の表情がイキイキと変わった。
- 施設ごとにどこまで平均的にサービスを提供できるかという疑問点が残った。
- 介護職の喜びも大きかったが、負担も大きく、継続して行うのであれば何らかの措置が必要である。
- これからの高齢者の QOL を真剣に考えると、この生活行為援助シートがとても有効であると感じた。
- 作業を選び遂行するということの継続性、恒久性、又は可変性を視野に入れた、更なるシステムが必要である。
- 運動機能向上との連動性を高めたシステムづくりが必要と感じた。
- 施設経営者のモチベーションが高まる何かが必要である（加算があっても使わないと意味がない）。

４）総括

介護を必要とする人間に必要なものは、“介護のみ”でいいのでしょうか？

「ADL の介護」は絶対必要条件ではあるが、人が幸福を得るためという視点では「ADL の介護」は“必要条件の中のたった一つ”だと改めて認識させられた。

人は、生まれてから人としての道を歩み始めて、歳をとる。

そして、70 年が経過し、介護を受けるようになる。

その人の経験も、個人の歴史も、誇りも、だんだんと薄れていく。

人としての存在さえも薄れていく。（元要介護２の私の経験を踏まえて書いている）

この日本を人生をかけて守り、成長させた現高齢者の存在を守る方法として、今回、試行した「生活行為援助シート」が大きな意味を持つと、つくづく感じた。

なぜなら、「意味のある作業」によって人の存在が蘇り、そこから活動性が増し、家族との語らいが増え、友人ともう一度繋がり、更に介護スタッフまでをも元気にしてゆくからである。

「生活行為援助シート」は、ADL の介護とともに本人に大きな幸福をもたらすことを確信した。

更に、少子化社会において、介護業界で働く若者の「生き甲斐」をも育てることができる。これは非常に意義深いと感じるとともに、作業療法の奥深さをあらためて感じさせられた。

「生活行為援助シート」は、この国と、国民の救世主となるべき「作業療法」であり、それが、もし介護保険という制度の中で確立されるのであれば、この国の国民の生活は継続的に安心できるものになり、世界に誇れる制度となるであろう。

なぜなら、人の幸せは今回のように「作業ができること」で、もう一度始まってゆくからである。

Ⅸ．事例

【事例１】

自己選択した作業を通して周囲をも元気にしていった事例

１．プロフィール

男性　77 歳　　疾患名：アルツハイマー型認知症　　要介護度：要介護２

２．事前情報（個人史）の聞き取り

認知症があり「うーん、思い出せない」と頭を抱えることがあったため、少しずつ時間をかけて聞き取りを行った。本人からの聞き取りが困難な部分もあったため、自宅へ訪問し家族からも聞き取りをした。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	Ｆ県Ｋ市Ｙ区で生まれ育つ。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	Ｋ市Ｔ区のＭ社の砂糖を作る工場に勤務。 転勤でＴ県に引っ越し、故郷を離れる。 定年退職後、夫婦で神社の手伝いをする。盆栽の手入れや集合写真などは腕前を買われ、本人様の担当であった。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	習字（教室を開いていた時期もある） 野球、ゴルフ（今年の初めまでコースを回っていた） 料理、竹細工、絵、カメラ、盆栽 切手・レコード・陶芸の収集　・・・と多趣味であり、器用であった。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	奥様、娘夫婦、孫の 5 人家族。家の手伝いをしながら孫と遊んだりする毎日。 デイでは、久しぶりに習字や運動ができて嬉しい。運動によって腰痛も解消した。
〔その他〕 ・家族の思い	自宅にいると何もやる気が起きない様子。家族が勧めても興味を示さない。もともと、自発的に行動するタイプではないが、誘いを受けると喜ぶのでいろいろな体験をしてほしい。

３．作業の聞き取り

元々多趣味であり、習度は教室を開くほどの腕前であり、またゴルフについては約 7～8 か月前まではコースを回っていた。しかし自宅にいると何もやる気が起きないとのことで、好きな油絵や塗り絵等を家族が勧めても興味を示さず実施できていなかった。

今回聞き取りをする中で、「絵を描きたいけれど自信がない。でも塗り絵ならやれそう」と自分自身で塗り絵を選択し、やってみたいという気持ちが芽生えた。この作業内容が決定したことでいきいきとしだした。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">塗り絵がしたい。

達成の可能性：☑あり　□なし</td><td rowspan="4">絵を描きたいけれど自信がない。
でも塗り絵ならやれそう。
以前のデイでもやっていた。</td><td rowspan="4">絵が好きなので、油絵や塗り絵を勧めてみたが自宅では興味を示さなかった。
デイでは興味を持ったようでうれしい。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初　回
(10/17)</td><td>最 終
(12/5)</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>1／10</td><td>8／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>1／10</td><td>8／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

自分で選択した作業であり、大変意欲的に取り組んでいた。3 回目の作業で作品をみんなに見てもらいたいという気持ちを汲み取り、その後家族への披露やデイ内での展示へ繋げていき、賞賛される場面を作ることでさらなる意欲の向上へ繋げることができた。今回の作業は、もともとの器用で几帳面な部分が活かされおり、その能力が発揮できていた。

またこのご利用者の来所日に絵を描く利用者が多く、その方々との交流も活発になっていった。デイ内での展示では、それぞれの絵を褒めあい、認めあえる場が生まれた。

自宅でも、持ち帰った作品を家族に披露したり、クレヨンでの塗り絵を始められ、自宅での作業展開につながることで家族も喜んでいた。

後半では、作業に関する道具購入の際に目を輝かせて表情よく道具を選んだり、また予算を考慮し買い物することができていた。また「忘れていたものを少しずつ取り戻しているようにいきいきとされる姿は、私たちスタッフにも喜びを与えてくれ、好影響を与えてくれている。」と、支援する職員も充実感を得ることができた。

約 1 か月半の取り組みで、実行度、満足度ともに向上した。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	「大人の塗り絵」の本を購入。 本の中から「りんご」の絵を選ばれる。 画材は色鉛筆を自ら選ぶ。 繊維に沿ってじっくりと塗り、12 色の色鉛筆とは思えない色遣い。	「これもいいねぇ」と迷われた様子だったがとてもにこやかにされる。	「塗り絵したよ」と嬉しそうにご家族に話される。	
2	熱心に作品に取り組まれる。 あまりに集中しすぎるために、周囲が心配するほど。 休憩の声かけが必要。			
3	準備しておくと暇さえあれば作業される。 自宅にある塗り絵作品（以前のデイで塗ったもの）を持参され、周囲に披露される。	絵の話をするときの表情はとても輝いている。	作品をみんなに見てもらいたいという気持ちが強い。	
4	塗り絵「りんご」が完成され、ご家族に見せるために持ち帰る。			

5	額のサイズに合わせて定規などを使用してきっちり調整され、デイ内に飾る。		几帳面な性格が出ていた。	
6	2 作品目「バラ」にとりかかる。 習字と塗り絵、どちらがいいですか？と問うと「塗り絵！」と即答される。	満面の笑み		
7	2 作品目「バラ」継続中			
8	2 作品目「バラ」継続中			
9	「バラ」完成 自宅に持ち帰り、家族に見せる。	「家族も喜んでくれたよ」		
１０	イベントで「菊花展」に行き、盆栽の菊を熱心に鑑賞される。	立ち止まって一つ一つみられる目は真剣。		
１１	3 作品目「プルーン」を選び、作業開始される。	「次回は『ぶどう』にする」と次回作も決められ、意欲が高い。		
１２	「プルーン」継続中 「バラ」をデイ内に展示することを提案する。	塗り絵の展示には意欲的。ご家族にも嬉しそうに話される。	自宅では、クレヨンで塗り絵がしたいと言われているとのこと。(家族より)	
１３	イベント「あんぱん作り」に参加。 「バラ」を展示。他の利用者様の作品と肩を並べ、展覧会のようになった。	女性に混ざって楽しそうにされる。 「いいねぇ～」と目を細める。	それぞれの方の絵を褒めあい、優越感に浸った表情。	マンネリ化防止
１４	「プルーン」自宅に飾りたいとのことで持ち帰られる。	「娘が、うちにも飾ってて言うんだよね。」		
１５	4 作品目「カンザクラ」制作開始。			
１６	イベントのお買い物で文具屋へ行く。最初は、孫に文具を求めていたが、絵の道具の売り場に行くと目を輝かせる。予算も自身で考えて色鉛筆を購入。買ったらすぐに帰りたがる。 購入した色鉛筆はだいじに鞄に入れ、デイの色鉛筆で塗り絵される。	「今度、妻と一緒に行きたいよ」 興味深い品物が沢山あり、気に入った様子。表情がキラキラしていた。	忘れていたものを少しずつ取り戻しているようにいきいきとされる姿は、私たちスタッフにも喜びを与えてくれ、好影響を与えてくれている。	
１７	買い物に一緒に行ったスタッフに色鉛筆代を渡される。 買った色鉛筆で早速塗り絵される。	「ちょっと短いんだけどね」と嬉しそうに色鉛筆を見せてくれる。		

５．利用者の評価

「会話はしていますか」の項目は 2 段階も高くなっており、デイ内で作業の活動を通した他利用者・職員との交流や、持ち帰った作品を通しての家族との交流がその理由としてあげられる。その他の項目については維持・もしくは高くなっている。「動けていますか」の項目のみ点数が低くなっているが、次段階での取り組みで運動機能面の展開につなげることが可能であると考える。

６．作業の効果

丁寧に本人・家族から聞き取りを行うことで、「自分で作業を決める」支援ができ、その結果大変意欲的に取り組むことができた事例である。

今回の作業では、元々持っていた能力が十分に発揮され、また家族やデイサービス内での仲間から認められる場を得ることで自信がつき、楽しんで作業に取り組むことができた。作業をきっかけに家族やデイサービスの仲間との交流が活発になり、また自宅での作業にもつなげることができ、心身ともに活動的になっていった。

いきいきと作業に取り組む利用者の姿が、支援する職員の喜びにもなっており、一人の利用者が周囲をも元気にしていったことが窺える。

【事例２】

趣味の切り絵を再開したことでいきいきとした表情を取り戻し、日常生活が活性化した事例

１．プロフィール

男性　84 歳　　疾患名：糖尿病・認知症　　要介護度：要介護１

２．事前情報（個人史）の聞き取り

和やかの雰囲気の中、聞き取りは行なわれた。会話はスムーズであり、様々な事柄を語られている。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	F 県 M に生まれ、M 育ち。 幼小の頃は金銭的に貧しく、苦労をした。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	国鉄（電力関係）に勤務しており、仕事自体は忙しかったが家族で旅行などもしていた。 仕事では初めての新幹線開通時の工事を担当しており、そのことが本人はとても誇りに感じている。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	切り絵を中心に工芸、カゴ作り、陶芸などをされたり 庭の剪定や離れなどを建てるなど玄人並みである。 庭の玄関には本人の切り絵などの作品が所狭しと飾ってある。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	今、切り絵を久々にしとても楽しい。 これからは前みたいに大きな作品を作りたいと思っている。 大工仕事などもしてみたい。
〔その他〕 ・家族の思い	切り絵や今まで趣味だったことをして、前みたいに元気になってほしい。

３．作業の聞き取り

切り絵、カゴ作り、陶芸など趣味は豊富にもたれていた方である。その中でも切り絵に最も関心があり、できることであればもう一度作品を作りたいということで、切り絵を作業に選ばれた。作業の選択は、本事例の強い関心事であり、また趣味でもあったことから作業のイメージがある程度できあがっていたため、作業の聞き取りはスムーズに行えている。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">前みたいに切り絵をしたい。

達成の可能性：☑あり　□なし</td><td rowspan="4">完成したら飾ってほしい。</td><td rowspan="4">切り絵や今まで趣味だったことをして、前みたいに元気になってほしい。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初 回
(10/17)</td><td>最 終
(12/1)</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>2／10</td><td>10／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>5／10</td><td>10／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

以前行っていた切り絵では、はさみではなく専用のカッターナイフを使っていたことから、作業に違いがあり開始当初は緊張した面持ちで不安な表情を浮かべていた。最初は難易度の低い図柄を準備し、職員と作業を一緒にすすめることで、はさみの使い方には慣れていったようである。3 回目には最初の作品が仕上がった。2 つ目の作品は図柄の選定から取り組まれており作業工程は増えているが、新しい課題に対して不安な表情を浮かべることはなく、むしろ楽しみにされているようであった。回数が進むに従い、できないこと、分からないことを自ら質問できるようになるなど、積極的な一面がみられるようになった。出来上がった作品を職員と木に飾り付けた時には、「できた」と満足げな一言があった。他の利用者とは作品の説明をするなど楽しい会話をし、最後は全員で記念写真を撮られている。

12 回の取り組みであったが、実行度・満足度は最大に達した。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	切り絵を職員と一緒にする。	不安気な表情をしていた。		作業時間 １時間
2	切り絵を職員と一緒にする。	今まで専用のカッターナイフを使っていたため、はさみの使い方が分からなかった。		作業時間 １時間
3	切り絵を職員と一緒にし、本人が A4 用紙にのり付けをする。	作品を見て「こう貼ればいいよ」と説明してくれた。	出来上がった作品を夫人にプレゼントした。	作業時間 １時間半
4	切り絵を職員と一緒にし、本人が図柄選びをする。	真剣な表情で図柄選びをしていた。	送迎に行くと時間前から道沿いで待っていた。	作業時間 １時間半
5	切り絵を職員と一緒にし、初めて図柄の下書きに挑戦する。	線はきちんと引けるが、引く場所が分からなくなることがあった。	洋服を本人が選び、朝早くからデイケアに行く準備をしていた。	作業時間 １時間
6	切り絵を職員と一緒にし、今までの作品をファイリングする。	とても誇らしげな表情でみんなに説明をしてくれた。	庭の木の剪定を行なった。	作業時間 １時間
7	職員と一緒に星の切り絵をする	新しいことをすることに対し、不安気ではなく少し余裕のある表情を浮かべていた。		作業時間 １時間半
8	一人で星の切り絵をする。	星の形の切り絵はきれいに仕上がった。		作業時間 １時間
9	HAPPY BIRTHDAY の文字の切り絵をする。	中に円のある文字はできなかった。		作業時間 １時間
１０	HAPPY BIRTHDAY の文字の切り絵をする。	中に円のある文字は、職員が切り込みを入れる手伝いをすることで、できるようになった。		作業時間 １時間半

１１	HAPPY BIRTHDAY の文字の切り絵をする。	「この文字はどうなるんかね？」積極的に尋ねていた。		作業時間 １時間半
１２	作品を職員と一緒にデイケア内の木に飾り、クリスマスツリー風に仕上げ完成させる。	できた作品を並べてみて「できた」と笑顔で言われていた。いつもよりよく喋り、他の利用者との交流が楽しそうであった。また利用者全員で記念写真を撮っていた。		作業時間 １時間

５．利用者の評価

「おしゃれをしていますか」、「会話はしていますか」、「表情はどうですか」そして「動けていますか」という４項目において、自己評価が向上している。

本人の言葉にも「久々に切り絵をしたら楽しい」や「植木の剪定ができたよ」という今までとは違う前向きな気持ちや喜びが感じられる。

６．作業の効果

本事例は基礎疾患による身体的制約は少ないが、認知機能低下、加齢そして廃用が進んだことから、利用者や家族も今までできていたことができなくなったと思い込んでしまい、日常生活の狭小化が起こったと考えられる。

しかし、元々趣味は多彩で活動的であったことから、潜在的には物足りなさを感じ毎日を過されており、機会があれば趣味活動をしてみたいという気持ちがあったのではないだろうか。

今回作業の聞き取りにより、趣味であった切り絵に挑戦する気持ちを持つことができている。作業することには不安も感じていたが、回がすすむに連れ徐々にできることが分かり、不安が喜びに変わりいきいきとした表情を取り戻している。そして家族、職員、他の利用者との会話や交流も増える結果となった。

作品を仕上げて成功体験を重ねる中で、失っていた自信を取り戻し、身だしなみに気を配る、庭木の剪定をするといった日常生活の活性化にもつながったと思われる。

本事例では、作業を通じ自分の能力の再発見でき、IADL にまで効果が波及したことが窺える。

【事例３】

作業を通して職員や家族との会話が広がり、意欲に変化がみられた事例

１．プロフィール

女性　80 歳　　疾患名：狭心症･糖尿病　　要介護度：要支援２

２．事前情報（個人史）の聞き取り

事前情報の聞き取りについては、様々な事柄をいきいきと語ってくれており、スムーズに聞き取ることができている。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	Ｆ市で育つ。幼少時代はお祭りに自分から加わって踊りに参加したこともある。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	十九年間ヘルパーをしていた 看護婦さんから献身的な看護をしてもらい、自分も人の役に立つ仕事をしたいという気持ちになり仕事をすることとなった。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	今まで油絵や絵手紙、俳句、その他たくさんのことを習ってきた。 古代、ギリシャ神話、星などにも興味がある。望遠鏡があれば星もみたい。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	楽しみはパソコン、読書、韓国ドラマ等々たくさんある。 困っていることや気になることなども今特にない。なるべく気にしないようにもしている。
〔その他〕 ・家族の思い	

３．作業の聞き取り

今まで油絵や絵手紙、俳句、その他たくさんのことを習ってきた方であり、古代、ギリシャ神話、星などにも興味を持たれている。そのため、興味を持ったことをすぐに調べられるようにインターネットを学びたいという作業を選択される。

本事例では、したい事がある程度整理できていたため、作業の聞き取りはスムーズに行えている。

インターネットを行うには、パソコンとインターネットを行う通信環境を必要とするが、娘がノートパソコンを購入し作業が行えるように支援している。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">インターネットが出来るようになりたい。
達成の可能性：☑あり　□なし</td><td rowspan="4">興味をもったことをすぐに調べることができるようになれたらいいと思う。</td><td rowspan="4">（本人の言葉より）
娘はノートパソコンを購入してくれました。娘のブログをみるようになって今まで以上に娘との話題も増えたような気がします。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初　回
（10／17 ）</td><td>最　終
（12／1 ）</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>3／10</td><td>8／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>2／10</td><td>8／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

パソコンは初心者であるため、「できるようになるのですかね…。でも何度もして覚えるしかないですよね。」と作業に対する不安な発言がみられていた。

パソコンの基本操作は理解できていたため、職員と共にインターネットの簡単な操作から学ぶことを行っていった。回が進むにつれて、「前回、学んだことをすっかり忘れた」としばしば発言されているが、ちょっとしたサポートで楽しくパソコンに取り組んでおり、インターネットのキーワード検索ができるようになると、とてもうれしそうな表情をされている。

その後、検索して韓国ドラマの画像をみるなど、徐々に好きなことを積極的に取り組むようになり、娘のブログを検索してその内容を職員に笑顔で説明するなどしている。

１ヶ月程度の短期間の取り組みであったが、実行度・満足度共に高くなっている。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	本人と職員Mと二人でインターネットの使い方を練習した。初回であるため、本人がどの程度パソコンの操作ができるのかを会話や操作をしてもらうことで把握した。	「インターネットは結構簡単ですね。」と笑顔で感想を言っていた。		パソコンの基本操作は理解できている。
2	前回の復習を行ったところ「前回教えてもらったことはもうすっかり忘れてしまった。」とのこと。 だが、スクロール、クリック等は覚えておりできていた。	パソコンの立ち上がりに時間がかかり、15 分しかできなったため本人は残念そうな表情をしていた。		
3	職員は極力口出ししないようにしてパソコンの立ち上げ操作からしてもらった。パソコン操作の手順もおおよそ覚えていた。	キーワード入力ができるようになり、本人が検索したい画面を開くことができた。嬉しそうな表情をしていた。		
4	本人より「前回までしたことはもう忘れたしまった。」との発言が何度もあった。しかし、前回までの手順を言葉で伝えるだけですぐに思い出し操作できていた。	今回は本人の希望により調べた『星』について検索したところ「とっても楽しいです。」との発言と笑顔がみられた。		

5	本人より、「今日は別の作業の材料が届いたのでそれをしてもいいですか。」との希望があり作業は休みとした。	「インターネットは私何度教えてもらっても覚えられなくて‥。」との発言があった。		
6	本人の希望により検索した韓国ドラマの画像をみることができとても喜んでいた。操作方法の疑問等をたずねたところ特にない様子だった。	「興味のあることをみることができてとても楽しかった。」と笑顔で感想を述べていた。		
7	娘のブログも検索してみる。インターネットの操作も順調にできるようになっている様子だった。	娘のブログを検索し職員に詳しくその内容を笑顔で説明してくれた。		

５．利用者の評価

「会話はしていますか」や「表情はどうですか」の項目において、自己点数が 4 から 5 に向上しており、本人も「おしゃべりになった気がします」や「明るくなったと思います」とコメントしている。

６．作業の効果

作業の聞き取りにより、利用者と職員間の心理的距離が近くなり、会話が増える効果がみられている。

作業目標として挙げたインターネットによる検索ができるようになることで自信がつき、さらにインターネットを介して多くのことに興味を持つことができている。

また、作業を通して、他の利用者のコミュニケーションの幅をさらに広げると共に、家族との会話が増えるツールとなっていることが窺える。

【事例４】

やりたい作業を通して自信を取り戻した事例

１．プロフィール

女性　68 歳　　疾患名：関節リウマチ　　介護度：要介護２

２．事前情報（個人史）の聞き取り

疾患により日常生活全般に支障をきたしており、困っていることなどの話しが多く聞かれ、できないことが増えていることで自信をなくされていることが伺えた。しかし、次第に話をしていく中でデイサービスに通うようになったことでパソコンが使えるようになったことやスタッフから薦められているゲームなども行ってみたいなど、前向きに色々な話を語ってくれたことでスムーズに聞き取ることができた。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	E 県 S 市に生まれる。二従兄弟にあたる夫と 21 歳で結婚し、夫の実家の家業を手伝う為にK市Y区に引越し、4 年間暮す。 その後、独立し、同市K区で 40 年間暮す。H18 年関節リウマチによる手の腫れの為家事ができなくなり、娘在住の現地M市に引っ越してきた。子供の頃は元気だった。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	高校卒業後洋裁の専門学校に行き、卒業後は洋裁をしていた。結婚後は夫と共に洋裁・電気製品・家具・時計等幅広く月賦販売を営んだ。30 歳で長女を 32 歳で次女を出産し、33 歳で関節リウマチを発症する。子供を抱けないのが辛かった。自営業でその上夫は病気に対して理解も無かったので、リウマチの専門医を探して病院を転々としたり、別府の病院に入院した時も全部一人で処理した。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	K 区では近所に１つ違いの同病の方がいたので、よく一緒に出かけていた。 しかし、今は娘や夫の援助が必要なので、一人で気兼ねなく出かけるようになりたい。 パソコンで年賀状を作ってみたい。子供の時将棋をしていたし、その後大正琴や写経等手を使う事をしていた。紹介された五目並べやオセロもしてみたい。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	家事が思うようにできず困っている。リウマチ友の会で同じ悩みを話すことはできるし、子供は小さい時から母親の病気を理解し協力してくれる。 しかし、夫は家業が多忙な為受診に同行した事がなく、病気に対し理解がないので困っている。
〔その他〕 ・家族の思い	

３．作業の聞き取り

若い時から手先が器用だったが、リウマチが発症してから手が変形してしまい、やりたいことができなくなり、日常の生活自体が難しくなってきたことで意欲も低下し、自信をなくしかけていた。しかし、デイサービスを利用するようになり、限られた操作であればパソコンができるようになった。そこで、パソコンで年賀状を作るなど色々なことを行いたいが、キーを上手く押すことができないので諦めていた。

今回、聞き取りを行っていく中でパソコンで年賀状を作りたいという気持ちが大きくなり、チャレンジすることになった。この作業を決定したことで、表情はいきいきとなり積極的になられた。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">パソコンで年賀状を作ってみたい。

達成の可能性：☑あり　□なし</td><td rowspan="4">自分は限られた操作であれば少しならパソコンができるが、年賀状は入力ができないし、夫もうまくできず失敗が多い為トラブルになる。（はがきを100枚印刷する為には150枚程必要）印刷を業者に依頼しても思うような仕上がりになっていない。</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初　回
（9／27）</td><td>最　終
（11／29）</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>1／10</td><td>10／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>1／10</td><td>10／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

もともと行いたい作業であったため、初回よりスムーズに開始することができた。

また、時期的に目標となる年賀状作成が現実味もあり、目標達成のための計画も立てやすく、効率良く進めることができた。また、今回の作業を通してご自宅でも行うためにパソコンを購入するに至った。そこで、年賀状作成以外のパソコン操作やご自宅でのパソコンやプリンターの設定方法なども同時に行った。

やりたい作業を行うことで、表情はいきいきとし、自分から上手くキーが操作できるためにどうしたらいいかなど主体的な作業へ変化して行き、ご自宅での作業も増えていき楽しみのある生活となり、ご自宅の生活状況が大きく変化した。

最終的には目標も達成したことで達成感および満足感ともに向上する結果となった。また、友人から年賀状の作成をお願いされ、自信をつけることにもなった。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	職員補助一人により ・パソコンの立ち上げ練習。 ・年賀状ソフトの確認をする。 ・あて先を入力3件してみる。 ・年賀状図案・文面のサンプルを作成する。	表情はいきいきし、自分用のパソコンの購入希望あり。→紹介する。		
2	本人様一人で住所入力を確認する。	手が震えてもパソコンのキーがきちんと押せるような用具の購入希望あり。 →タイピングエイドを紹介する。 生活面の改善の為、ペンシルグリップ及びハサミも紹介する。	約30件入力済み	
3	職員補助一人により ・今後の作業の確認する。 ※賀状の図案等は 11 月に入り、書店で年賀状ソフトを購入し作成予定とする。	自発性のある発言が増えてきた。又、パソコンで色んな事をやってみたいとも発言あり。 ※タイピングエイドは打ちにくいので返品する。他は購入する。	購入したパソコンはキーの高さが打ちやすく、手が当たり思いもしないものまで消してしまう事がなくなったとの発言あり。38 件入力済み。住所入力はほぼ完了。	

4	職員補助一人により ・住所の確認及び修正をする。 ・図案・文面を再度確認する。 ・プリンターの設定を練習する。	理解が早く、パソコンの打ち込みにも慣れてきた。時に操作が分からない事があるが、その都度説明する事で習得される。	施設内にある年賀状図案・文面のサンプルで気に入ったのがあり、それをそのまま使用する事になった。	
5	本人様一人で図案・文面を再度確認する。			
6	職員補助一人により友人に頼まれて年賀状を作成したが、住所を2回入力していたので、その処理の仕方を確認する。	予定通り 11 月末までにパソコンで年賀状が作れた。一通りの作業は習得したが、一部不安な面がある。それもその都度できない部分を職員に聞く事で確認ができ、自信に繋がった。今後はインターネットもしていきたい。	年賀状はプリントの仕方を具体的に職員に書いてもらったので、自宅でできた。	

５．利用者の評価

特に点数では大きな変化はなかった。しかし、疾患により出来ないことが増え、意欲が低下し、さらに活動性が低下するという悪循環に陥っていたが、デイサービスを利用する中でパソコンを行うことができ、まだできることがあることに気付くことができた。

また、パソコンをすることが楽しみとなり意欲が向上し、活動性が向上したことで、「動けていますか」の項目のみ点数が高くなっている。

６．作業の効果

今までは疾患により出来ていたことが出来なくなることが増えていくといった喪失感しかなかった。しかし、今の身体の状況でもできることはあり、新たにできることが分かった。今回、それがパソコンであり本人の興味を引くものとなり、もっと出来るようになりたいという気持ちが意欲を向上させ、日々の生活の中でも楽しみとなり生きがいとなった。また、それが人のためにもなり、感謝されることで自信にもつながった。

【事例５】

仲間とともに作業の楽しさを得ることができた事例

１．プロフィール

女性　86 歳　　疾患名：高血圧症　　要介護度：要介護２

２．事前情報（個人史）の聞き取り

子供の頃から苦労をされ、朝から晩まで懸命に働いてこられた本事例の生活史の様子が窺える。手芸が好きで、長年続けておられ、家族の物も作ったりしており、本事例の根気強さや家族への思いが感じられる。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	長崎県〇〇郡に 4 人兄弟の長女として生まれた。海の近くに実家があったが泳げなく、性格はおとなしかった。 小学３年生の頃から春はトリ貝を取り箱に並べるアルバイトや５年生の頃は子守していた所で食べさせて貰った。母は 41 歳で亡くなった。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	小学校卒業後 12 歳から子守を本格的に、掃除をしたりもした。14～15 歳の時、佐〇〇に女中として朝 5 時に起きて、槇でご飯を炊いたり、和裁を夜なべしてまでさせられていた。寝ていないかこっそり見に来られても寝ずに頑張った。20 歳の頃、命令で軍事工場へ。戦後は伊〇〇の造船所でご飯炊きをする。米 60Ｋｇを抱えていた。この頃は働く時間がきちんとしていて良かった。又最初の子守に戻る。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	手芸が好き。 一番は編み物、子どもの物は徹夜していた。 縫い物は、着物や綿入れを作っていた。現在ひ孫のセーター（小学生）を編んでいる。ティッシュケース作りをしたい（この日より作り始めた）秋野菜作りもしたい。玉ねぎ等食べられるものがいい。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	ここに来るのが楽しみ。 お金を持っていないのが不安、内職でもあれば働きたい。 お金のかかることはしない。テレビを見るばかり。（年金がない） 小遣いは長男より貰っている。
〔その他〕 ・家族の思い	4～5 日前にベッドから落ちて（気付いたらベッドの下だった）右腕を打ったみたいで上腕が痛いが大丈夫。

３．作業の聞き取り

趣味としては、手芸が好きなＹ氏で、現在も編み物でひ孫さんへのセーターを編んでおられる。趣味を活かして、今回「ティッシュケース作り」を選択され、作業聞き取りの当日には、早速取り組み始め、積極的な姿勢がみられている。

また、収穫をして食べることを味わうことのできる「野菜作り」も作業を選択され、野菜の成長過程を楽しみにされている。

デイサービスの仲間とともに楽しく取り組むことができるように、スタッフが環境等支援をしている。

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
野菜作りをしたい 達成の可能性：☑あり　□なし			花は見て楽しんだら終わりだけど、野菜は収穫して食べる事が出来、無駄がない。	
評　価	初　回 (10／20)	最　終 (12／1)		
実行度	5／10	10／10		
満足度	9／10	10／10		

４．作業遂行経過

二つの作業を選択され、「野菜作り」「ティッシュケース作り」を同時進行で行なっている。週 1 回の限られた作業時間ではあるが、利用時間内で調整して取り組んでいる。

野菜は、ねぎ、ほうれん草、小カブなど旬の野菜をプランターで育てていき、その成長を楽しんでおられた。他の利用者さんやスタッフの仲間とともに取り組まれ、ねぎを収穫して、昼食時に味噌汁の薬味として味わい、その満足度が得られている。

また、ティッシュケース作りは「知り合いの女の子に作ってあげたい」という明確な目標のもとに取り組んでいる。糸の色のアドバイスを受け、楽しみながら仕上げた後、息子さんに預けて知り合いの女の子にプレゼントすることができ、満足感が得られている。

回数	作業内容	結　果 (表情、発言など)	展　開 (家での様子など)	備 考
1	ネギの間引きをして苗をプランタに植える。ネギの細くてふわふわしている根が土の上から出ないように土をかける。	麦わら帽子を被った Y 氏は、楽しそうにスタッフと利用者 I 氏達と作業される。		4 名位で作業。 I 氏が春菊大根の種を持って来られる。
2	Y 氏は、ティッシュケース作りをしている。 ネギ 10ｃｍ位細い。 小さな雑草を見つけて取る。	Y 氏に報告 「そうねー」とにっこり		
3	ほうれん草、ラディッシュの種を植える。Y 氏は職員 OT と一緒にプランタ 2 つに土を入れて作業。	作業後 Y 氏に楽しみですねと話しかけると「できるとよかばってん」と笑みを浮かべて話す。作業の満足感を感じられる。		利用者 I 氏に種の提供やこれまでの経験を生かし、指導をしていただく。
4	ティシュケース作りを継続され、職員 OT に見て頂き、今ある係りで仕上げて行くようアドバイスを受ける。	職員 OT、I 氏の力は素晴らしい。 機嫌良くソファーにかけておやつの時間や平成の学校の時間にもずれこみ黙々と作られる。		

5	野菜の計測 ネギ、ラディッシュ、ほうれん草、春菊、小カブ、ミニ白菜	この次来て見るのが楽しみですねと話しかける。 「うん」と頷かれる。		
6	I 氏が持って来られた「あまおう」の苗植え。	Y 氏も側に行ってずっと見ていた。		
7	Y 氏と I 氏がプランターの草取り、ネギの収穫。 包丁でネギを刻む（昼食時の味噌汁の薬味として使用）。 野菜の計測	ニコニコと楽しそう 写真撮影時、特に言葉は無いがニッコリされて嬉しそう。		庭で野菜と一緒に I 氏と写真撮影
8	Y 氏に声掛けをして一緒に庭に出る。 小カブやほうれん草の間引きをする。 引き続きその日のイベントで（麦植え）に参加。	Y 氏が「葉っぱが大きくなっているのは、実になる」と言われた。 「ほうれん草の間引きしたのは味噌汁に入れて食べられる」と言われた。 写真を撮られ楽しそうである。		楽しみです。これまでの経験が窺える。

５．利用者の評価

寝る前に睡眠薬を服用されているが、当初は１錠の服用であったが、２ヵ月後には半錠に減っている。いつもにこやかにされており、デイサービスでの作業や仲間との会話を楽しんでいる。

また、「会話はしていますか」の項目において、自己点数が３から４に向上しており、本人も「おしゃべりは楽しいとよ。ここが楽しか。」とコメントしている。

６．作業の効果

作業の聞き取りを通して、本事例の生活史や趣味を活かした作業に取り組むことができている。

野菜作り」「ティッシュケース作り」という二つの作業に取り組み、仲間との収穫の楽しさや仕上がったティッシュケースをプレゼントしたことで、その満足さが窺える。今後の作業への繋がりを期待したい。

また、日中の作業を通して、夜間の睡眠への快さが得られると、精神的安定も図られ、作業の効果はさらに高まっていくのではないかと思われる。

【事例６】

あきらめていた作業ができたことで、生活意欲が向上した事例

１．プロフィール

男性　70 歳　　疾患名：右片麻痺・失語症　　要介護度：要介護２

２．事前情報（個人史）の聞き取り

事前情報の聞き取りにおいては、仕事の話を中心に熱心に語ってくれた。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	Ｆ県Ｆ市に生まれ育つ。 二人兄弟の二男だが、兄は幼少時に病気で亡くなる。 24 歳頃から福岡市へ、50 歳頃再び福間市へ戻る。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	建築設計等の製図をする仕事。 （Ｆ銀行本店、Ｆ病院等々） 遣り甲斐があり、大好きな仕事だったので　とても楽しかった。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	現役の頃は　とにかく仕事が忙しく、家族サービスや趣味を持つ時間も無かった。退職後、ステンドグラスを始める。物を創作する事が楽しい
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	現在　楽しい事は　ジグソーパズルをすること。 心配な事は　息子さん二人の結婚。 迷っている事や困っている事は特に無い。
〔その他〕 ・家族の思い	

３．作業の聞き取り

退職後、趣味でステンドグラスをされていたとのことで、もう一度ステンドグラスをしたいと言われたが、聞き手である右手に麻痺があるため、細かな作業ができるかどうか不安を示された。しかし、「押さえてくれたらできそう」など、作業をするための工夫について意見を言われるなど前向きな発言が多く意欲を示された。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと ①</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">ステンドグラス製作

達成の可能性：☑あり　□なし</td><td rowspan="4">病気になる前にやっていたから</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初　回
（ 9／27 ）</td><td>最　終
（12／6 ）</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>2／10</td><td>7／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>2／10</td><td>7／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

作業開始当初は、「出来るかな？」と不安そうな様子であったが、反面嬉しそうな様子も見せられていた。ご自分でインターネットで好きなステンドグラスキットを注文し、届くと嬉しそうに一つひとつ手に取って確認されるなどしていた。作業スピードはゆっくりではあるものの、スタッフはテープを押さえる程度の手助けのみで、あとは片手だけで丁寧に作り上げることができた。ハンダの使い方をスタッフに教えてくれるなど、徐々に自信をつけ、いきいきとされるようになった。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	４か月前より製作中だったジグソーパズル完成 パソコンでインターネット検索 10 数種類の中より気に入った作品を選びステンドグラスキット（カット済み）を注文する。	2、3 種類迷いながらもプランターに決定 （出来上がりサイズ 10×10×10）「出来るかな？」と首をかしげ不安気な様子の反面、嬉しそうな表情も窺える。		
2	「プランター」のステンドグラスキットが届く。 材料を取り出し　確認する。	早々に箱を開け、中のキットを取り出し確認する。1 つ 1 つ手にとって見ている表情は、ただ嬉しそう。		
3	ステンドグラス「プランター」の製作を開始する。 カットされたガラスのふちに銅テープを貼りつけながら巻いていく 5 面中 1 面だけ終了。	始める前は麻痺している方の手を指さしながら首をかしげていたが、作り始めてみると指示を出しながらどんどん進んでいく。手助けはテープを押さえるだけで他は片手だけで器用に丁寧に作り上げていく。		
4	ステンドグラス「プランター」の製作をする。 カットされたガラスのふちに銅テープを貼りつけながらまいていく。 残り 4 面中 2 面終了。	前回とは違い躊躇することなく製作に取り掛かる。テープを巻くスピードも速くなった。		
5	ステンドグラス「プランター」の製作をする。 残り 2 面の銅テープ貼り終了。	最初見られた不安気な表情は　無くなり自信を持って貼っていく姿が見られるようになった。		
6	本日よりハンダ付けを開始する。	久々にされ、最初は不安気な表情と緊張感が入り混じっていたが、徐々にいきいきされスタッフにハンダの使い方を教えてくれた。		

５．利用者の評価

失語があるため、会話にはあまり積極的ではなかったが、作業を通して、スタッフに「話そう、伝えよう」とするようになった。また、歩行訓練にも積極的になった。

6．作業の効果

もともと企業戦士で仕事に誇りを持って生きてこられた症例の唯一の趣味であったステンドグラスに介入した。

当初は、「こんな体でできるわけない」とあきらめていた症例が、作品が出来上がるにつれて自信を回復し、「自分にはまだまだ出来ることがたくさんあること」に気づくきっかけとなったと思われる。その結果、自らの意思を積極的に伝えようとしたり、歩行訓練にも前向きになるといった、新たなチャレンジや自身の生活へ積極的に関与するといった意欲の向上を引き起こしたものと考えられる。

【事例７】

作業を通して職員や利用者との会話が広がった事例

１．プロフィール

女性　84 歳　　疾患名：認知症　　要介護度：要介護１

２．事前情報（個人史）の聞き取り

事前情報の聞き取りについては、子どもの頃のことを熱心に語ってくれている。認知症ではあるが、会話が混乱することなく、聞き取りは行えている。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	Ｓ県Ｋ市生まれ。5 人兄弟の長女。小学４年１学期までＹ市に住む。 城下町で環境もよく、自転車に乗って遊んだりした。小学 4 年 2 学期にＦ市に引越ししたが転校したくなかった。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	保険局に勤める。他の仕事がしたかったが、身体が弱かったため他の仕事につけなかった。 戦時中だったため、仕事を覚えないまま空襲にあう。特攻人形を作った。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	家の手伝い（食事・洗濯）をした。 裁縫をしたくても布きれがなかった。 母が琴・三味線のお師匠さんだった。三味線も興味がある。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	次男と同居できたためありがたい。デイサービスに行ったり、公民館で料理など作ったりして楽しい。 家では主人が亡くなり、話し相手がいない。
〔その他〕 ・家族の思い	

３．作業の聞き取り

他の利用者の方が押し絵をされていることに興味を持ち、「自分でもできるかどうか分からないが、職員の方に教えてもらうことでできるかも。」と思うことで、押し絵の作業を選択されている。

本事例では、周りが手芸をされている環境の影響もあってか、作業の聞き取りはスムーズであった。

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
押し絵がしたい 達成の可能性：☑あり　□なし			他の方が押し絵をされているのを見て、自分もやってみたくなった。	
評　価	初　回 （10／24 ）	最　終 （12／1 ）		
実行度	1／10	9／10		
満足度	1／10	8／10		

４．作業遂行経過

手工芸は初心者でありやや不安な様子であるが、職員と一緒にしようと思い直すことで頑張ってみようという気持ちになっている。

押し絵の材料を選択する際は、作品カタログを見て自身で柿の絵柄を選択されており、材料が届くまでの間、デイサービスに来ている時に話題にするなど楽しみにしている事が伺えている。

材料が届き作業を行っている最中に分からない事があれば、職員に尋ねるなど作業の遂行は順調であった。作業中は隣席の利用者との会話が弾み、笑顔がみられるなど楽しまれている。

作品が完成したときは、にこやかな表情で喜ばれている。その後、次の作品作りに向けてふくろうの図柄を選ばれており、作業に対する意欲が高まっている事が窺える。

１ヶ月程度の短期間の取り組みであったが、実行度・満足度共に高くなっている。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	押し絵の作品カタログを見て選ばれる（30 分程）。柿の絵柄を選ばれる。 作品を注文する（職員）。	作品の材料が届くのを楽しみにしておられる。		
2	材料が届きテーブルで作業をされる。 分からないときは職員に尋ねられている。 作業は順調にすすんでいる。	隣席の方と会話が弾み、笑顔もみられ楽しまれているようである。		
3	作品を完成される。 完成した作品を棚に飾られる。 次の作品を選ばれる（ふくろうの図柄）。	完成し喜ばれる。 達成感があるようで、にこやかな表情である。次の作品へと意欲を持たれたようである。		

５．利用者の評価

「会話はしていますか」や「食事がおいしく食べられますか」の項目において、自己点数が 3 から 4 に向上しており、本人も「デイサービスで話すようになった」とコメントしている。

６．作業の効果

元々裁縫などの手芸に興味を持っていたこともあり、他の利用者が熱心にしている姿を見て、押し絵を作業目標として挙げた事が窺える。作業を通して、自分で作品が作れることの楽しみや達成感が得られ自信が付くと共に、職員や他の利用者との会話が増えるなど社会参加につながるきっかけとなっていることが窺える。

【事例８】

作業がきっかけとなり、意欲と根気に変化がみられた事例

１．プロフィール

男性　67 歳　　疾患名：高次脳機能障害　　要介護度：要介護１

２．事前情報（個人史）の聞き取り

記憶障害があるため、本人からの事前情報の聞き取りは難しかった。時系列的な記憶が曖昧だったり、聞くたびに内容が違ったりすることもあったが、話の中からは本人が育った町の思い出をとても大切にしていることが伝わってきた。家族からも聞き取りを行うことで内容を整理した。

項　目	聞き取った内容
〔生活歴〕 ・生まれたところ ・育った地域の思い出　など	Ｋ国生まれ。終戦で 1 歳半にＦ県へ行き、父親の仕事関係でＫ府での生活が長くＫ府Ｊ市での思い出が多い。 1 年前に父親が他界し、現在は母と妹の 3 人家族。
〔仕事歴〕 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと　など	Ｏ府で鉄筋関係の仕事に就き、35 歳の時労働中に左頭部に大怪我を負う。
〔趣味・活動歴〕 ・取り組んだこと ・やってみたいこと　など	以前は、散歩や身体を動かすことが好きだった。
〔現在のこと〕 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていることなど	外出することがなく、一日テレビを観ている。 事故以来、方向音痴で困っている。
〔その他〕 ・家族の思い	一日中テレビを観ているので、少しでも外に出て身体を動かしてほしい。

３．作業の聞き取り

以前生活していた町にもう一度行きたいという気持ちが強かったためか、はじめは「旅行に行きたい」という、本人にとっては現実から飛躍した目標を希望されていた。話をすすめる中で、以前ワープロをしていたこと、現在は字を書く機会がないがきれいな字が書けるようになりたいと思っていることを聞きとることができた。

<table>
<tr><th colspan="3">私のしたいこと</th><th>それをしたい理由</th><th>家族の思い</th></tr>
<tr><td colspan="3">字をきれいに書きたい

達成の可能性：☑あり　☐なし</td><td rowspan="4">以前はワープロを使用していたが、字を書くことがないので練習したい</td><td rowspan="4">根気よく続けてほしい</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td>初　回
(10／7)</td><td>最　終
(　／　)</td></tr>
<tr><td>実行度</td><td>5／10</td><td>−／10</td></tr>
<tr><td>満足度</td><td>5／10</td><td>−／10</td></tr>
</table>

４．作業遂行経過

根気よく作業をすることが苦手な本人が飽きないように配慮して、テキストは童謡のなぞり字とさし絵のぬり絵を用意した。初めての作業で緊張されていたが、さし絵を塗っている時は楽しそうな表情をされていた。

徐々に作業が定着し、特にぬり絵は色使いにも慣れ根気よく作業に取り組まれている。家でも字を書く練習をしていると家族から聞くことができたり、デイサービスの帰りの車中でその日の作業の話を職員とされたりなどの様子から、本人にとって作業が楽しみになっていることが窺える。

回数	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
1	「赤とんぼ」 なぞり字とぬり絵	初めてだったので少し緊張されていましたが、さし絵を塗っている顔は楽しそうでした		
2	「海」 なぞり字	馴れてきた様です		今日は五目並べを楽しまれていたので作業は 10 分で終了しました
3	「海」 ぬり絵	塗る所が沢山でしたが、根気よく続けられていました。色使いも慣れてきた様です	家でも字の練習をしているとお母様が話されていました。	
4	「青い目をしたお人形」 なぞり字とぬり絵	作業が定着している様です	帰りの車で今日の作業のお話をされていました。	
6	「うれしいひなまつり」 なぞり字とぬり絵	4 ページでしたが、楽しそうに書かれていました。ぬり絵が楽しい様です。		
7	入所の為、デイサービスご利用中止			

５．利用者の評価

初めの評価では、「動いていますか」の問いのみ自己評価 2 であったが、その他の項目はすべて“何も困っていない”という返答であったため 3 とした。途中施設に入所されたため、最後の評価は行うことができなかった。

６．作業の効果

記憶障害がありながらも、帰りの車中でその日の作業のことを話したり自宅でも字を書く練習を行ったりしている様子からは、作業が本人にとって楽しみとして“心に残るもの”であったことが窺える。職員や家族との会話の幅も拡がり、自宅で字を書く練習をされるなど、一日の過ごし方にも変化がみられている。

また、疾病のため作業に根気よく取り組むことが苦手であったが、ぬり絵に対して楽しそうな表情で根気よく取り組むことができており、活動に対する意欲と根気に改善がみられている。

参考資料

福祉職のための
生活行為援助シート

実施の手引き

平成２４年２月

(社)日本作業療法士協会

【生活行為援助シートとは】

高齢者が介護される人から、主体的で積極的な生活をする人になるためには、疾病や老化による心身機能の低下でできなくなった作業が方法や工夫によってできるということを知り、生活への意欲を高め、またその作業を再獲得するプログラムを受けることで、自己実現に向け積極的・活動的生活を営める支援が大切です。

平成２０年度、作業療法の理念である「作業をすることで人は健康になれる」を基に、高齢者が生活する上で重要な意味のある作業を見つけ、高齢者の有する能力をアセスメントし、自立を支援する生活行為向上マネジメント方法を開発しました。

このマネジメントは、本人、家族、支援者の共通ツールとして幅広い活用が期待できるものであり、介護保険の担い手である福祉職の方が活用できるよう再編を行い、「生活行為援助シート」を作成しました。

【生活行為援助シートの役割】

「したい作業、意味のある作業」とは、何か作品をつくることが作業と捉えられがちなところがありますが、それだけを示している分けではありません。人が生活していく中で行う全ての行為が「作業」であり、朝起きる行為から、洗面、食事、トイレなどの動作も一連の作業となります。

日々の生活を過ごす中で、目的や役割を持った作業をすることは、とても大切な事であり、生きていくためのエネルギーとなるものです。仕事もそうですし、趣味や余暇を過ごすことも大事な作業といえるでしょう。

実は、要支援・要介護状態となった高齢者の方の多くは、その目的や役割を持った作業を行えていない現状が多く見受けられます。これでは、生活に意欲が湧かず、生活がますます単調なものになってしまい、動くことも億劫になる悪循環の連鎖となる分けです。

この悪循環を断ち切るためには、生活に意欲が湧くよう「したい作業、意味のある作業」を見つけて実行していくことが重要なこととなるでしょう。

生活行為援助シートは、これらの支援に活用できるよう配慮されており、本人、家族、支援者の共通ツールとして用いることができます。

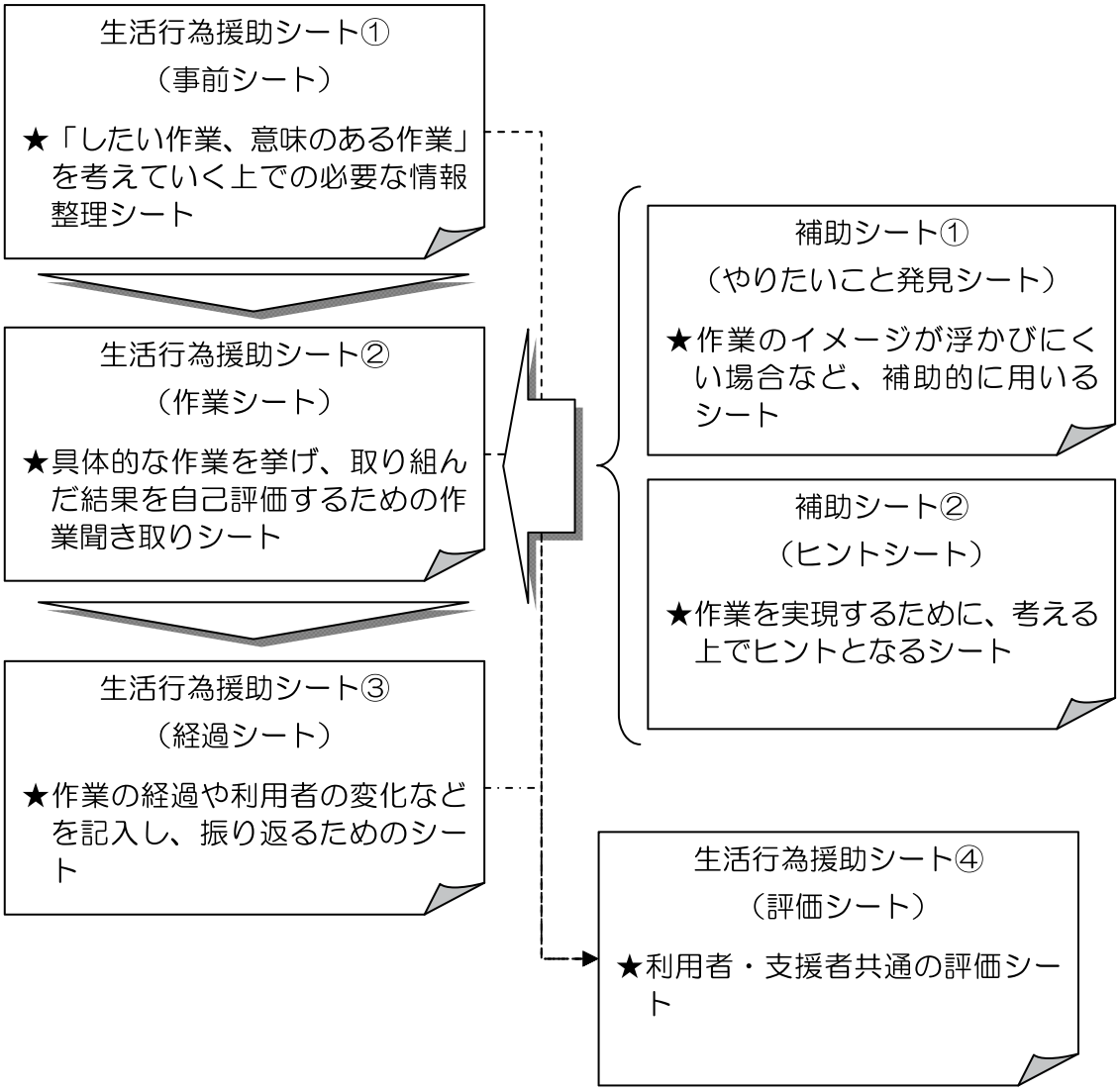
【生活行為援助シートの構成】

生活行為援助シートは、合計６枚のシートから構成されています。

これらのシートは、高齢者が「したい作業、意味のある作業」を導き出すために、支援者が援助できる流れとなっています。

シートの位置づけ及び流れは以下の通りです。

各シートの位置付け及び流れ



【聞き取るとは】

聞き取るとは、単に音声・言葉をはっきりと捉え、その内容を理解するだけでなく、詳しく話を聞くという意味も含んでいます。たとえば、対象者から話を聞く時、頭の中で考えや要望がすべて明確になっているとは限りません。また、すぐには思い浮かばない場合もあるのではないでしょうか。

このため、すでに頭の中で明確になっている考えや要望だけでなく、本人が気づいていない部分（潜在的な）の考えや要望を含めて聞き取っていく必要があります。

このように本人から真のニーズを引き出すことが、聞き取りでは重要です。そして聞き取ることには、本人のニーズを引き出すばかりではなく、

①思いをしっかりと受け止めることで、対象者との信頼関係が高まり、
②情報を収集することで、対象者に対する理解を深めることができます。

そして、

③忘れかけていた元気な楽しい気持ちを思い出すきっかけにもなります。
つまり、聞き取ることは、本人が元気になる第一歩となりうるものです。

【注 意 点】

○ 本人の「したい作業、やってみたい作業」を導きだすことが大切ですから、「この方がいいよ」などのように、支援者の思いから誘導しないようにしましょう。

○ 高齢者は、身の回りの事を振り返り課題を整理していく事、つまり自己決定をすることが少なくなり勝ちなところがあります。そのため、「今日は何が食べたいですか？」などのように漠然とした問いには、時間がかかることがしばしば見受けられます。本人と一緒に話し合っていく際には、少し待ってみることも大切なことです。

○ 結論を早く導き出そうとすることは、良くありません。一人ひとり生きてきた背景には違いがあるため、じっくりと考えることが必要な場合もあります。

○「したい作業、やってみたい作業」が大きな目標となる事がありますが、その目標には本人の思いがあります。
ただ、すぐにその目標が達成できる分けではなく、それに向かって様々な事（特にＡＤＬやＩＡＤＬの獲得が重要）が必要となります。そのため、その目標に向かって、どこから取り組んでいくのかを話し合っていきましょう。

○「したい作業、やってみたい作業」を進めるためには、作業の方法や工夫をすることで効率的・効果的に行えることが多くあります。
「もっといい方法があるのでは」と疑問に思うようなところや迷うところがあれば、作業療法士に相談しましょう。

生活行為援助シート①（事前シート）

利用者：　　年齢：　　歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

疾患名：　　要介護度：　　寝たきり度：　　認知症自立度：

項　目	聞き取った内容
【生活歴】 ・生まれたところ ・育った地域の思い出 など	
【仕事歴】 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと など	
【趣味・活動歴】 ・取り組んだこと ・やってみたいこと など	
【現在のこと】 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていること など	
【その他】 ・家族の思い ・家族構成 など	

記入・考え方のポイント

ここでは、その方の人生の過ごし方（生きざま）について項目別に要点をまとめていきましょう。

【生活歴】
・よく印象に残っている事柄などについて聞きましょう。
・昔良くやっていたようなことは、またやってみたいと思っていることに繋がったり、ヒントが隠されていることがあります。印象深いということは、それだけ思い出として深い意味があるものです。

【仕事歴】
・仕事の内容の中で、苦労したことや頑張ったこと、やり遂げたことは、大変印象が強いものです。
それが、本人にとって自信につながるものであったり、価値観や考え方のスタイルになっているところがあります。
・仕事を通じてその方の生き方を感じてみましょう。

【趣味・活動歴】
・趣味や取り組んできたことなどは、本人にとって大きな意味のあるものです。
・具体的な内容を聞き取っていきましょう。また、その活動を通して、満足感や達成感など何か得られているものを考えてみましょう。

【現在のこと】
・ここでの事は、生活のハリや目的を持った活動について、大きく影響を与えているところでもあります。
・特に、「もうできないだろう」と思っている事は、出来なくなった事への喪失感の表れでもあり、あきらめとなっているところです。本当に出来ないところなのか、工夫すればできるところもあるのかなど、話し合っていくポイントにもなります。

【その他】
・家族の思いは、本人の思いと食い違っていることがしばしばあります。
本人が満足していることでも、家族から見ると不完全なことであったり、無意味なことと感じられることもあります。
・そのため、どこに家族の思いがあるのかを把握しておくことは大事なことです。
可能であれば、聞き取ってみましょう。

生活行為援助シート②（作業シート）

利用者：　　年齢：　　歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

認知症や寝たきりを予防するためには、家事や社会活動などの作業を維持し、参加していることが重要です。

そこで、あなたが困っているまたは問題を感じている（もっとうまくできるようになりたい、あるいは、うまくできるようになる必要があると思う）事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄がありましたら、３つほど教えてください。

作業の目標	〔目標１〕
	〔目標２〕
	〔目標３〕
	具体的にイメージできない　→やりたいこと発見シートへ

挙がった目標のうち、優先順位の高い順に１つ選び、難しいと感じているところ、どうなればできるようになると思うかについて、下の表を記入しながら考えてみましょう。
（他にもある場合は新しいシートを使います）

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
達成の可能性：□あり　□なし				
評価	初回(　／　)	最終(　／　)		
実行度	／10	／10		
満足度	／10	／10		

記入・考え方のポイント

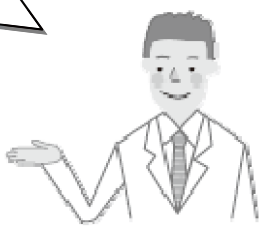
○利用者さんにとって、生活する上で「意味のある作業」を聞き取ります。

○「困っていること」「うまくできるようになりたいこと」「してみたいこと」があがらなければ、やりたいこと発見シートを見ながら、利用者さんと一緒に１日の生活を１つひとつ振り返ることで、「そう言われれば実は困っていること」、「本当はしてみたかったこと」などの気づきを促します。

○そのためには、
「そういえば、いまお料理はどうされていますか？」
「もう少しここがうまくできたらいいなというところはありますか？」
「お鍋などの大きいものは洗いにくくないですか？」
など、具体的な作業を上げて聞き取りをしてみましょう。

○もし、「歩けるようになりたい」や、「手が動くようになりたい」といった内容があがれば、「では、歩けるなら何がしたいですか」、「手が動いたら何がしたいですか」といった具体的な作業につながる聞き取りをしてみましょう。

最初の聞き取りで出た作業が、その利用者さんにとって本当にしたいこと、意味のあることとは限りません。利用者の中には、「どうせ出来ないから言わない」、「もう特にしたいことはないです」と言われる方もいらっしゃるかもしれません。
しかし、ここで諦めないでください！
最初はどんな些細な作業でも構いません。ご自分で決めた作業ができること（日常のちょっとした動作がやりやすくなった、作品が出来上がったなど）で、「自分はまだこんなことができる」、「やり方を変えればできるんだ」ということに気づく方が多くいらっしゃいます。
そして、ここで初めて、「実はずーっと○○がしたかったのよ」というように、「本当にしたいこと」、「その方にとっての意味ある作業」につながるケースもあります。



【作業の聞き取りがスムーズにいかない原因】

作業の聞き取りがスムーズにいかない原因の多くは、

①聞き取った作業が実現困難な場合

②聞き取った作業を遂行するために必要な能力と、現在持っている能力が乖離(かイり)している場合

があります。

①の例では、『本人が“以前していたギターを弾きたい”といった作業を挙げたが、作業を遂行する能力があっても本人も施設もギターを所有しておらず、作業ができる環境をどのように整えるのか分からない。』という課題が発生した場合などが考えられます。本人が“買って用意するよ”となれば話も違ってきますが、ピアノのような大きなものであれば、デイサービスで行うことは難しいということになります。

この場合は、「うまくいっていない原因」が何なのかを確認することで、その目標に向かってデイサービスでもできるところがあるかも知れません。困った時は、作業療法士へ相談し、解決方法を話し合ってみましょう。

次に②の例では、『本人が“旅行にいきたい”といった作業を挙げたが、本人の今の心身機能では行くことが難しいので、どのように聞き取りを進めていけば良いのか迷った。』という課題が発生した場合などが考えられます。また、旅行であれば、デイサービスで関与することも難しいことになります。

この場合は、“旅行にいきたい”という大目標に至るために何を解決していかなければならないかということを考える必要があります。おそらく、移動や排泄などのＡＤＬを確立し、目標に向けて１つ１つ課題を解決していくことが必要でしょう。

また、模擬的な実践の場として、デイサービス内で行う買い物やバスハイクなどを利用し、本人と共に確認していくことができるでしょう。

このように、“旅行にいきたい。そのためにはまず〇〇ができるようになる”といった作業目標になるのではないかと思います。

以上のように、作業を遂行していく場合、心身機能の問題なのか、本人の努力の問題なのか、環境の問題なのか、作業の方法の問題なのかを見極めることが必要となります。

このような場合は、作業療法士へ相談し、解決方法を話し合ってみましょう。

基本的なこととして、まずＡＤＬやＩＡＤＬについて確立しておくことが重要であり、作業の聞き取りと同時に確認しておきたいところです。

生活行為援助シート③（経過シート）

作業種目：

No.

氏名：　　担当者：

日時	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備考

生活行為援助シート④（生活状況場面での評価）

利用者：　　記入日：　　年　　月　　日　　記入者：本人・担当者（　　）

	No	質問項目	初回（　/　）	最終（　/　）	変化点（本人の言葉等）
一般健康状態	1	痛いところや調子が悪いところがありますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	2	心配なことがありますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	3	食事は毎日美味しく食べていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	4	夜はよく眠れていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	5	お通じは定期的にありますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	6	笑顔で過ごせていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	7	今の健康状態はどうですか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
身辺処理	8	立ち・座り、階段の登り降りはできますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	9	家の周囲（約1㎞）を歩けますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	10	自分で食事を食べていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	11	排泄（尿・便）はできますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	12	着替えはできますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	13	お風呂に入れますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	14	特に不具合なこと、不都合なことはありますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
IADL・趣味・社会参加	15	お金の支払いや薬の管理はご自分でしていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	16	服装や身だしなみには気を配っていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	17	新聞や雑誌、本などを読んでいますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	18	日記や手紙など字を書いていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	19	近くの店に買い物に行っていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	20	家のことを何かしていますか（例：掃除・調理・洗濯・留守番）	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	21	何か好きなことはありますか。また、好きなことをしていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	22	自家用車やタクシー、バスや電車などを利用して出かけていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	23	家族や友達と話しをしていますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	24	近所や友達のところに訪問していますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	25	地域や世の中の動きについて関心がありますか	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	26	地域の集まりに参加していますか（例：お祭り、老人会など）	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	27	地域で何らかの役をしていますか（役員、ボランティアなど）	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	
	（コメント）				

＜評価基準＞ 5.全く支障はない(非常に良い・よくできている)　4.支障はない（良い・できている）　3.している（まあまあ良い・まあまあできる）
2.やや支障がある（あまりよくない・あまりできていない）　1.非常に支障がある（非常によくない・できていない）

生活行為援助シート（やりたいこと発見シート）

【日常生活の動きなど（ＡＤＬ）】

□食事　□整容　□更衣　□入浴　□排泄

□その他（　　）

【日常の家事など（ＩＡＤＬ）】

□買い物　□料理　□掃除　□整理整頓　□洗濯　□洗濯物たたみ　□庭の手入れ

□車の運転

□その他（　　）

【余暇活動（趣味・レジャーなど）】

【趣味・健康づくり活動】

□ラジオを聴く　□テレビを見る　□映画を見る　□歌を歌う・カラオケ

□読書　□パズルゲーム　□テレビゲーム　□麻雀　□手工芸　□編み物　□針仕事

□料理・おかし作り　□歴史　□喫煙　□将棋・囲碁　□観劇　□絵を描く　□俳句

□謡曲・詩吟　□書道・習字□ボーリング　□水泳　□ゴルフ・グランドゴルフ

□テニス　□野球　□ダンス・踊り　□音楽を聴く・演奏会　□楽器演奏

□お茶・お花　□園芸　□畑　□散歩　□体操・運動　□釣り　□飲みに行く

□デート　□パチンコ　□競馬　□ギャンブル　□写真　□日曜大工

□その他（　　）

【社会活動】

□新聞を読む　□友人との交流　□おしゃべり　□賃金を伴う仕事

□地域活動（町内会老人クラブ）　□ボランティア　□生涯学習　□温泉

□子どもの世話　□動物の世話　□旅行　□結婚活動　□夫婦生活

□パソコン・インターネット

□その他（　　）

<補助シート②>

生活行為援助シート（ヒントシート）

考えられる原因		本人の言葉 （うまくできない事柄）	できるようになるために 何が必要ですか？
気持ちのこと	・やる気・意欲が低くなっている	・今まで出来ていたことができなくなって自信がない ・一人ではできない ・楽しみがない	・一人でするときに誰かに見ていてほしい ・一緒にしながら教えてほしい ・他の人と一緒だと楽しいかもしれない
からだのこと	・けがや病気により痛みが生じている	・腰痛があって動けない ・股関節や膝が痛くて歩けない	・腰痛体操をしてみる ・生活習慣を見直してみる ・体重が減れば痛みが軽くなりそう
	・麻痺により力が弱くなっている	・半身麻痺があって動かない	・麻痺のない側の手足を強くしてみる
	・安静により筋肉が弱くなった	・じっとしてばかりで手足に力が入らない	・毎日少しずつラジオ体操や手足の運動をしてみる
	・膝や腰を痛めている ・足の筋力不足	・立ちしゃがみが難しい	・物につかまれば立ち上がれるかもしれない ・足を鍛えてみる
	・握力や指先の細かな動きが難しい	・小銭がつかめない ・ボタンを掛けることができない	・握る力をつける作業、運動をしてみる ・指先の体操をしてみる
	・歩行能力の低下	・以前のように歩けない ・階段の昇り降りができない	・シルバーカーを使う ・家の回りや階段を歩く練習をしてみる
作業のこと	・作業経験がない ・作業技術が不足している	・自分にできるか分からない ・今までする機会がなかった ・簡単にできる方法が分からない	・試しにやってみる ・教えてくれる人がいればできそう ・自分にできるか見立ててほしい ・練習すればできそう ・もっといい方法があるか知りたい
道具・環境のこと	・道具が体に合わなくなっている	・テーブルが高すぎる ・包丁で南瓜など硬いものが切れない ・火の取り扱いが怖い ・掃除機が使えない ・竿に洗濯物が干せない	・体に合った台があればできそう ・切りやすい道具、方法を教えてもらえればできそう ・電磁調理器があれば安心 ・軽くて手軽に使える掃除用具があればできそう ・竿が低い位置にあればできそう
	・作業をする環境が整っていない	・玄関口に段差がある ・浴室のタイルがすべる	・段差が小さければ上がり降りできそう ・浴室に手すりがあれば安心

事　例 1

事例１

生活行為援助シート①（事前シート）

利用者：Ｓさん　　年齢：　８６歳　　担当者：　　性　別：男　・（女）

疾患名：股関節頚部骨折・糖尿病　要介護度：要介護１　寝たきり度：Ａ２　認知症自立度：自立

項　目	聞き取った内容
【生活歴】 ・生まれたところ ・育った地域の思い出 など	農家の長女として生まれた。小さいころから仕事の手伝いをしていた。21 歳で会社員と見合い結婚。子供は４人。夫が戦争に行っている間、わが子と夫の弟妹を育てたが、金銭面では苦労のし通しだった。若い時はいいことは何もなかった。68 歳で夫と死別。
【仕事歴】 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと など	戦前は勤労奉仕に励んだ。戦後は内職（アメリカ輸出用の刺繍、機械編みなど）や、干拓の埋め立て作業員、清掃業務についた。清掃業務は 68 歳まで勤め、夫の死を機に辞めた。
【趣味・活動歴】 ・取り組んだこと ・やってみたいこと など	花が好きで、家計が苦しい時でも少し切り詰めて、花の種や球根を買っては植えていた。若い時は生け花も習っていた。 50 歳を過ぎて、ペタンクや大正琴、ペン習字などを習い始めたが、膝の痛みが強く運動や出歩くことが面倒になり、７０代で全て辞めてしまった。
【現在のこと】 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていること など	家での役割もなく、楽しいことは何もない。自室にこもってテレビを見ていることが多い。できれば、季節ごとに好きな花を自分で植えて楽しみたいが、一人ではできないし、家族に負担もかかるので無理だと思っている。せめて食事は自分で好きなものを作って食べたい。
【その他】 ・家族の思い ・家族構成 など	好きなことをして楽しみながら生活を送ってほしい。 もう少し自分の気持ちを言ってほしい。 息子、嫁、孫３人の５人暮らし。

事例１

生活行為援助シート②（作業シート）

利用者：Ｓさん　　年齢：　８６歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

認知症や寝たきりを予防するためには、家事や社会活動などの作業を維持し、参加していることが重要です。

そこで、あなたが困っているまたは問題を感じている（もっとうまくできるようになりたい、あるいは、うまくできるようになる必要があると思う）事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄がありましたら、３つほど教えてください。

作業の目標	〔目標１〕 簡単な料理を作る
	〔目標２〕 季節の花を育てる
	〔目標３〕
	具体的にイメージできない　→やりたいこと発見シートへ

挙がった目標のうち、優先順位の高い順に１つ選び、難しいと感じているところ、どうなればできるようになると思うかについて、下の表を記入しながら考えてみましょう。
（他にもある場合は新しいシートを使います）

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
簡単な料理を作る 達成の可能性：☑あり　□なし			昔は家事全般は自分の役割だった。料理は得意で自信を持っていた。夫の看病を機に家事全般は嫁に譲り、それ以来なんとなく家事に手は出さなくなった。嫁の料理もおいしいが、たまには自分好みの味付けをしたものが食べたい。	家事は面倒だからしたくない思っていた。自分のしたいことを伝えてくれてうれしい。
評価	初回(　／　)	最終(　／　)		
実行度	１／１０	５／１０		
満足度	１／１０	８／１０		

事例１

生活行為援助シート③（経過シート）

作業種目：簡単な料理を作る（漬物作り）

No.　1

氏名：Ｓさん　　担当者：

日時	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備考
11/21	漬物のうち、得意だった白菜漬けを作ることに決定。次回の利用日に作ることにした。必要な材料をOT、Ｆさんと一緒に紙に書き出した。	「うまくできるかいな」とすこし緊張した表情であった。		
11/23	家で漬物用に使っていたホーロー鍋を持ってこられた。 白菜を１株、鷹の爪、昆布、粗塩を持ってこられた。明後日の利用日に漬けることになった。	スタッフが楽しみですねと話しかけると、「できるとよかばってん」と少し緊張した様子。準備はテキパキとされていた。	送迎の時、お嫁さんに本日の作業を伝えると「そんなことができるんですね」と少し驚かれていた。	
11/25	白菜を割く部分はOTが実施。天日干しの時には、ザルへの並べ方など細かく指示を出されていた。天日干しの間に、Ｆさんと一緒にキッチンバサミで昆布の千切り、鷹の爪の輪切りをした。 粗塩をして昆布や鷹の爪も均等になるように並べた。漬け方を知らないOTに漬け方を教えながら最後までＦさんと一緒に作業をされた。	昆布や鷹の爪を準備している時に、少し休憩を進めたが、「これくらいはなんでもなかよ」と笑顔で答えられた。 容器に漬け終わった後、疲れはないかと尋ねると、「ちょっと膝は痛かばってん、たいしたことなか」とにっこり。		OTに作り方を教えている時、いきいきとされていた。
11/28	一昨日漬けた白菜漬けの水の上がり具合を確認。 水の上りが悪いので重りを足した。	「水の上りが悪かねー」とＦさんと心配そうに何度も見られていた。		
11/30	水の上がり、浸かり具合を確認。	「まだ漬かりが甘かねぇ。あと２、３日かかるばい」と言われる。出来具合には満足のご様子。	お嫁さんより、「家でも漬けものを漬けてもらった」とのこと。	
12/2	デイサービスの昼食時に他利用者さんにふるまわれた。容器から出し、盛り付けまでをご自分でされた。	他利用者においしいと言われると、嬉しそうに笑顔を見せられていた。「次は何を作ろうかな」と意欲的に話されていた。	出来上がった漬けものを息子が「懐かしい」と言って食べた。また作ってほしいとのこと。	

事　例 ２

事例２

生活行為援助シート①（事前シート）

利用者：Ａさん　　年齢：　８０歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

疾患名：変形性膝関節症、左大腿骨頸部骨折　要介護度：要介護１　寝たきり度：Ａ1　認知症自立度：自立

項　目	聞き取った内容
【生活歴】 ・生まれたところ ・育った地域の思い出 など	○市出身。生まれてすぐに△市へ。空襲で焼きだされ 13 歳の時に再び○市へ戻る。
【仕事歴】 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと など	農家の手伝いをしていた。焼きだされて戻ったので食べるもの、着るもの、お金も何もなかったから、とにかく必死で働いた。
【趣味・活動歴】 ・取り組んだこと ・やってみたいこと など	小さいころ母がよく編み物をしていた。見よう見まねで覚えて、我流ではあるが好きでよく編んでいた。農家の手伝いをしていたこともあって土を触るのが好き。昨年体調を崩し転んで骨を折って入院した。退院できたが、それから全く花の栽培も野菜つくりもしていない。
【現在のこと】 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていること など	息子夫婦と一緒に暮らしているので特に心配事はない。ただ自分の部屋でテレビを見て過ごすことが多く退屈。部屋の片づけや衣替えをしていて音がすると息子達が心配してそんなことは自分達がするからしなくていいと言われる。洗い物などの炊事は好きなのでしたいけど、嫁さんが全部してくれるから出番がない。
【その他】 ・家族の思い ・家族構成 など	また転んだら大変なので、転ばないように生活してほしい。

事例２

生活行為援助シート②（作業シート）

利用者：Ａさん　　年齢：　８０歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

認知症や寝たきりを予防するためには、家事や社会活動などの作業を維持し、参加していることが重要です。

そこで、あなたが困っているまたは問題を感じている（もっとうまくできるようになりたい、あるいは、うまくできるようになる必要があると思う）事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄がありましたら、３つほど教えてください。

作業の目標	〔目標１〕 杖なしで歩けるようになって、花作りや野菜作りをしたい。
	〔目標２〕
	〔目標３〕
	具体的にイメージできない　→やりたいこと発見シートへ

挙がった目標のうち、優先順位の高い順に１つ選び、難しいと感じているところ、どうなればできるようになると思うかについて、下の表を記入しながら考えてみましょう。
（他にもある場合は新しいシートを使います）

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
杖なしで歩けるようになって、花作りや野菜作りをしたい。 達成の可能性：☑あり　□なし			花が好きだから。	転倒後入院となったため、一人で動くとまた転倒するかもしれないと心配している。
評価	初回（　／　）	最終（　／　）		
実行度	1／10	6／10		
満足度	1／10	7／10		

事例２

生活行為援助シート③（経過シート）

作業種目：漬物作り

No.　1

氏名：　Ａさん　　担当者：

日時	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備考
	デイサービスでの運動プログラム開始	足がしっかりしたら庭に出られると意欲的に取り組む。		
	自宅での活動について聴取	「雨降り以外は散歩に行ってます」とのこと。		
	デイサービスにてプランターの水やりを実施。職員見守りのもと、杖歩行にて片手にホースを持ち実施。	「これなら家でもできるね」と笑顔あり。		ホースを持っての歩行は安定しており操作も問題なし。
	デイサービス内で短距離であれば杖なしでの歩行可能。		「最近は家でも気がついたら杖なしで歩いているよ」とのこと。	痛みの増強もなく歩行は安定している。
			息子に庭の水やりをしていいか聞いてみて、許可を得て実施。	
	自宅での活動について聴取	「この前息子がいいって言ったから水やりやったよ。自分でできるのはいいね」	庭の手入れのことなどについて息子達と話したとのこと。	「久しぶりに庭にでて嬉しかった、気づくことがたくさんあってそれについて息子達とも話した」と表情もよく話す。

事　例 3

事例３

生活行為援助シート①（事前シート）

利用者：Ｙさん　　年齢：　７７歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

疾患名：帯状疱疹・高血圧症　要介護度：要支援１　寝たきり度：Ａ１　認知症自立度：自立

項　目	聞き取った内容
【生活歴】 ・生まれたところ ・育った地域の思い出 など	現在の〇〇町で生まれる。当時は村だったので、村祭りや盆踊りなどが子供のときの思い出。 昭和４９年より現在の場所に住み始める。長年、夫の両親の介護をしていた。
【仕事歴】 ・仕事の内容 ・苦労したこと、頑張ったこと、やり遂げたこと など	〇〇医院で事務職を１５年やった。「石の上にも３年」とあるように、いじめもあったけど、１５年頑張って働いた。
【趣味・活動歴】 ・取り組んだこと ・やってみたいこと など	平成４年に夫が他界。それまで、夫や両親と家族旅行によく行った。 平成１０年から１３年間、地区の役員をしてきて、つい最近引退した。 いろいろな趣味があるが、１番は編み物。公民館でお華やカラオケなどもやった。２番目はグランドゴルフ
【現在のこと】 ・楽しいこと、困っていること、心配なこと、迷っていること など	子供も夫もいない。兄弟や友人はよく来てくれ、よくしてくれる。 でも一人なので不安。 今は、帯状疱疹のあとで、痛みがあって手に力が入らず、腕が挙がらない。車の運転ができずに困っている。
【その他】 ・家族の思い ・家族構成 など	（本人より：葬儀など兄弟が最期はみてくれる。家の処分や財産のことなど整理をして、兄弟に迷惑かけないようにしておきたい。人に迷惑をかけないうちに、炊事ができなくなった時に、家も全部売って、ホームに入りたい。既に３か所くらい見学している。）

事例３

生活行為援助シート②（作業シート）

利用者：Ｙさん　　年齢：　７７歳　　担当者：　　性　別：男　・　女

認知症や寝たきりを予防するためには、家事や社会活動などの作業を維持し、参加していることが重要です。

そこで、あなたが困っているまたは問題を感じている（もっとうまくできるようになりたい、あるいは、うまくできるようになる必要があると思う）事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄がありましたら、３つほど教えてください。

作業の目標	〔目標１〕 衣替えがしたい
	〔目標２〕 いらない物を捨てたい
	〔目標３〕
	具体的にイメージできない　→やりたいこと発見シートへ

挙がった目標のうち、優先順位の高い順に１つ選び、難しいと感じているところ、どうなればできるようになると思うかについて、下の表を記入しながら考えてみましょう。
（他にもある場合は新しいシートを使います）

私のしたいこと			それをしたい理由	家族の思い
衣替えがしたい 達成の可能性：☑あり　□なし			夏物と冬物の衣類の整理ができていないから気になっている。	
評価	初回（　／　）	最終（　／　）		
実行度	１／１０	１０／１０		
満足度	１／１０	１０／１０		

事例３

生活行為援助シート③（経過シート）

作業種目：衣替えがしたい、いらない物を捨てたい

No.　１

氏名：　Ｙさん　　担当者：

日時	作業内容	結　果 （表情、発言など）	展　開 （家での様子など）	備 考
	週１回訪問介護により、掃除、ゴミ出しを中心とした支援を開始する。 衣替えのため、押し入れの中の衣類を整理する。	重たいものが運べないので、衣類ケースの出し入れをヘルパーさんに手伝ってもらえると、衣類の整理は自分でできる。	その日のうちに作業①は終了となる。	重たい物を運んだり、かがんだりする作業にはサポートが必要。
	痛みは軽減してきているが、まだ腕が挙がらないため、布団干しやシーツなどの大きい洗濯物干しの支援を行う。	車の運転ができるようになったので、自由に外出ができて、とてもうれしい。	友達や親族から食事の差し入れみられている。	車の運転に関しては、特に問題はない。（安全運転の声かけのみ）
	ヘルパーにより、掃除機かけ、床の水拭きの支援は継続して行う。	通院して、痛みも軽減してきたし、皆さんにご迷惑をかけてはいけないので、できるだけ自分でやっていきたい。	今までやっていた編み物の趣味活動に取り組み始める。	市で行う作品展に病前に作った編み物（セーター、ぬいぐるみ）を出展する。
	痛みは軽減してきており、腕も挙がるようになってきている。掃除をヘルパーと一緒に行っている。	随分動けるようになってきたので、そろそろヘルパーさんは終了してほしい。	家事動作全般、ご自分でできるようになってきている。	作業②について、本人へ意向確認を行う。
	家事動作全般、ご自分のペースで工夫しながらできるようになる。	身体が悪い時にすぐに対応してもらえたので、助かった。	春先になったら、食器の整理整頓に取り組んでいきたい意向あり。	訪問介護利用開始３ヶ月後、終了となる。

第六章　生活行為向上支援員の養成検討に関する取り組み

Ⅰ．はじめに

生活行為向上マネジメントを広く啓発して普及することで国民が「自分が健康である」と実感できることが可能になると考えている。そのためには、この生活行為向上マネジメントの普及を効率的かつ効果的に行うことは重要な取り組みの一つとなる。そこで、生活行為向上マネジメントにより明らかとなる生活行為援助シートを実行できる人材の育成やその人材を育成する人材などを構造的に養成する必要がある。生活行為向上支援員とは、生活行為向上マネジメントにより作成された生活行為援助シートを対象者に対して実行・実践できる人材である。この生活行為向上支援員を養成するために必要なカリキュラムの作成および普及啓発に取り組んだので報告する。

Ⅱ．活動内容と方法

１．生活行為向上支援員の養成カリキュラム作成のための調査

生活行為向上支援員を養成するにあたりその基礎となる知識や技術を持つ者、また実際の支援の現場で経験のある者を考慮した場合、介護職の人材を対象に養成カリキュラムの検討を行うこととした。方法は、介護職に対する生活行為向上支援研修会「訪問介護との連携による生活行為向上支援研修」を実施し、受講者に研修内容や介護現場における自立支援ニーズなど意識調査をアンケートにて実施した。研修は、平成 23 年 1 月 18 日・19 日に（福）横浜市福祉サービス協会の協力を得て、介護関連職 190 人を対象に実施した。

２．生活行為向上支援員の養成テキスト検討

「生活行為向上支援員の養成カリキュラム作成のための調査」研修会で使用するテキストを作成し、養成テキスト検討のための情報を得ることとした。方法は、研修会で使用したテキストに対する理解度などについてのアンケート調査を実施した。

３．生活行為向上マネジメントの普及啓発と生活行為向上支援員の養成研修会システム作り

養成のための研修会の企画運営管理や講師の養成は必須となる。そこで、生活行為向上マネジメントの啓発普及に取り組むことで生活行為向上支援員の養成システムの基盤を作ることとした。方法は、作業療法士を対象とした生活行為向上マネジメント研修会を平成 23 年 2 月 17 日・18 日に実施した。各都道府県（地域）における啓発普及研修会を作り、また将来的に講師を担える人材育成を目的に行い、各都道府県代表者にアンケート調査を実施した。

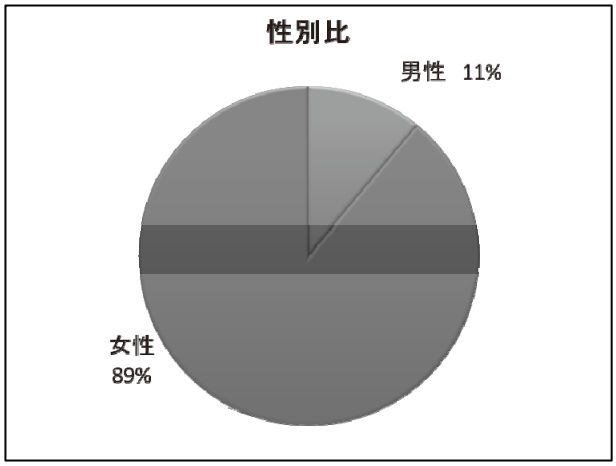
Ⅲ．結　果

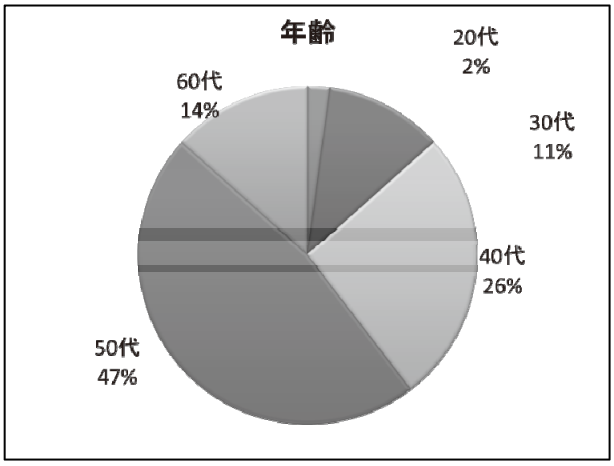
１．生活行為向上支援員の養成カリキュラム作成のための調査

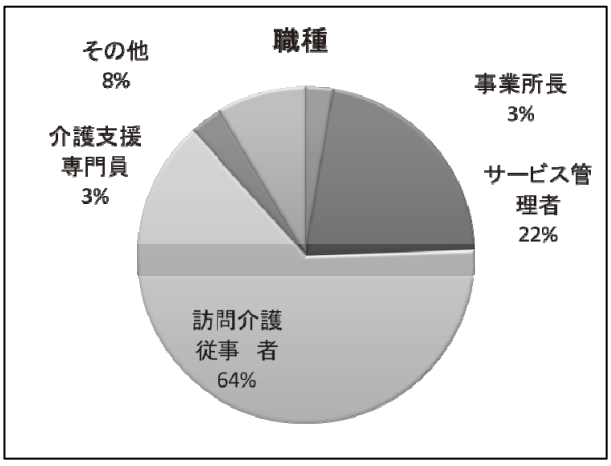
対象者は 190 人。男性 21 人、女性 169 人。アンケート回収率は、100％であった。介護職平均経験年数は、9.6 年。介護職種の内訳は、事業所長 5 人、サービス提供管理者 41 人、訪問介護従事者 120 人、介護支援専門員 6 人、その他 16 人であった。講義内容として、「生活行為向上支援について」「生活行為向上援助シートを使った自立支援について」「生活行為向上プログラムについて」は、「大変に参考になった」「参考になった」が大半を占めていた。今回の研修を受けて「今後作業療法士に相談してみたいか」の問いには、相談してみたいまたは機会があれば相談したいが 92％であった。自立支援方法について、今後取り組んでいく上で、どのような支援が必要だと考えるかの問いには、高齢者の意欲の引き出し方や生活行為の見極めが多くの意見を占めていた。介護職が実際に取り組んでいる内容は、ＡＤＬでは排泄介助、自立のための見守りであった。自立支援に取り組むうえで作業療法士に相談してみたい内容では、ADL では見守りが最も多く、IADL は掃除が多かった。詳細は、以下のグラフ等を参照していただきたい。

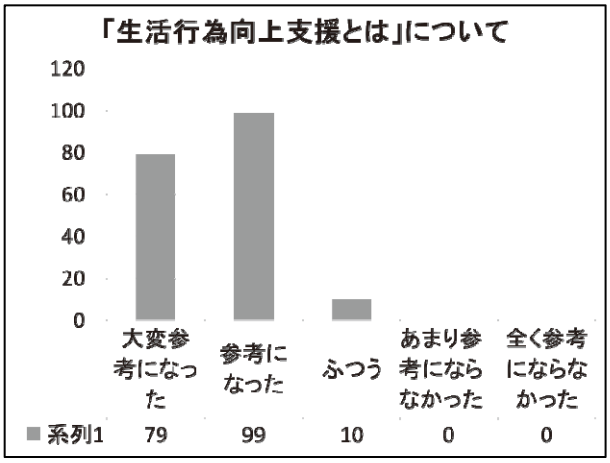
研修会プログラム

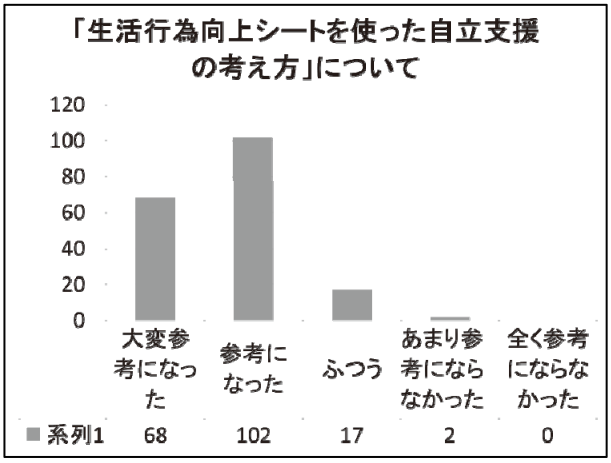
9:15～10:45	90分	生活行為向上支援とは
小休憩	15分	
11:00～12:30	90分	生活行為向上支援シートを使った自立支援の考え方
昼休憩	60分	
13:30～14:00	30分	生活行為向上支援シートの演習
14:00～15:00	60分	生活行為向上プログラム①＜掃除・洗濯＞
小休憩	15分	
15:15～16:15	60分	生活行為向上プログラム②＜調理・買い物＞
16:15～16:45	30分	アンケート説明と記入

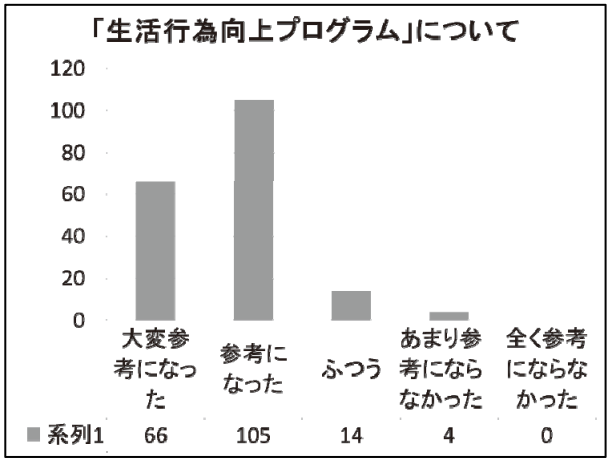

性別比
男性 11%
女性
89%

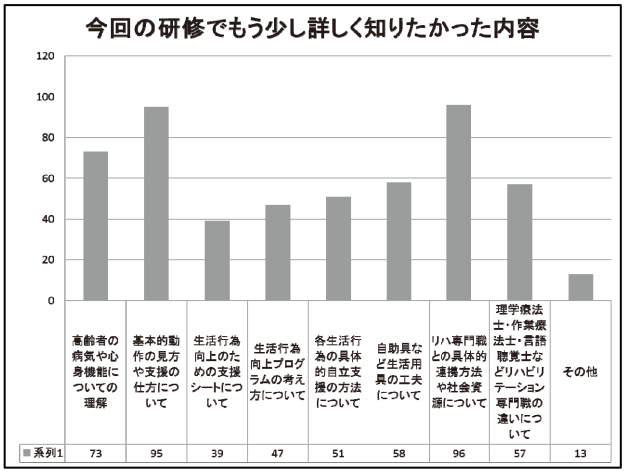

年齢
20代
2%
30代
11%
40代
26%
50代
47%
60代
14%

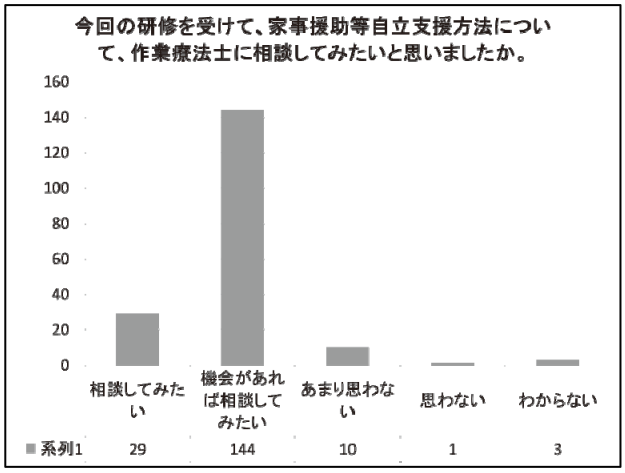

職種
その他
8%
事業所長
3%
介護支援
専門員
3%
サービス管
理者
22%
訪問介護
従事 者
64%

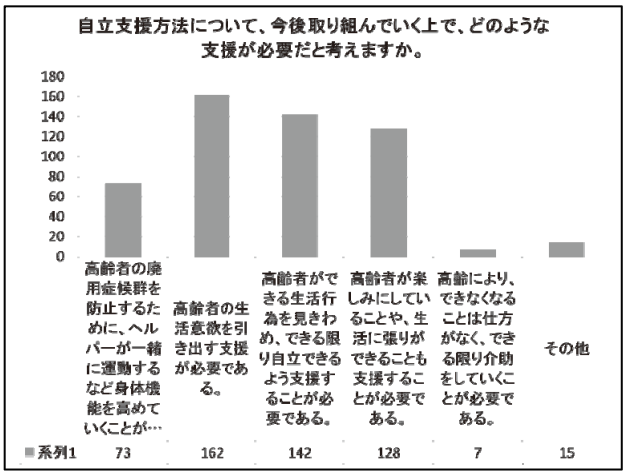

「生活行為向上支援とは」について
120
100
80
60
40
20
0
大変参考になった
参考になった
ふつう
あまり参考にならなかった
全く参考にならなかった
系列1 79 99 10 0 0

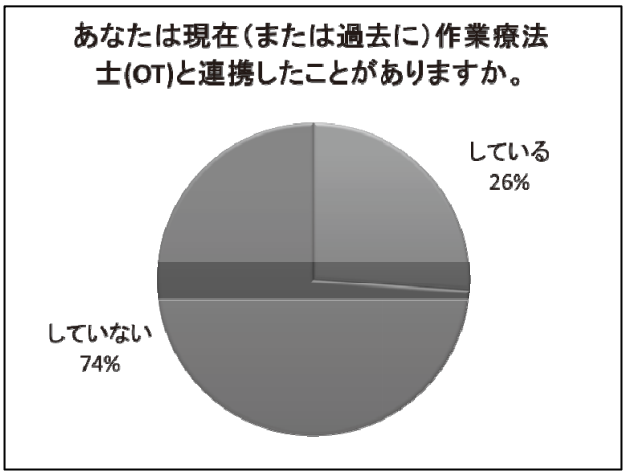

「生活行為向上シートを使った自立支援の考え方」について
120
100
80
60
40
20
0
大変参考になった
参考になった
ふつう
あまり参考にならなかった
全く参考にならなかった
系列1 68 102 17 2 0

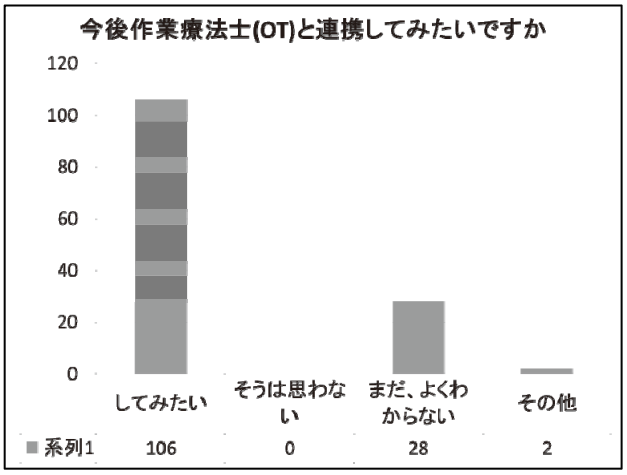

「生活行為向上プログラム」について
120
100
80
60
40
20
0
大変参考になった
参考になった
ふつう
あまり参考にならなかった
全く参考にならなかった
系列1 66 105 14 4 0

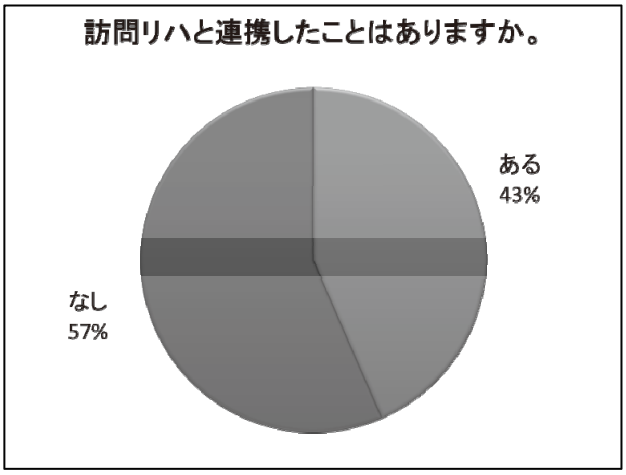

今回の研修でもう少し詳しく知りたかった内容
120
100
80
60
40
20
0
高齢者の病気や心身機能についての理解
基本的動作の見方や支援の仕方について
生活行為向上のための支援シートについて
生活行為向上プログラムの考え方について
各生活行為の具体的自立支援の方法について
自助具など生活用具の工夫について
リハ専門職との具体的連携方法や社会資源について
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などリハビリテーション専門職の違いについて
その他
系列1 73 95 39 47 51 58 96 57 13

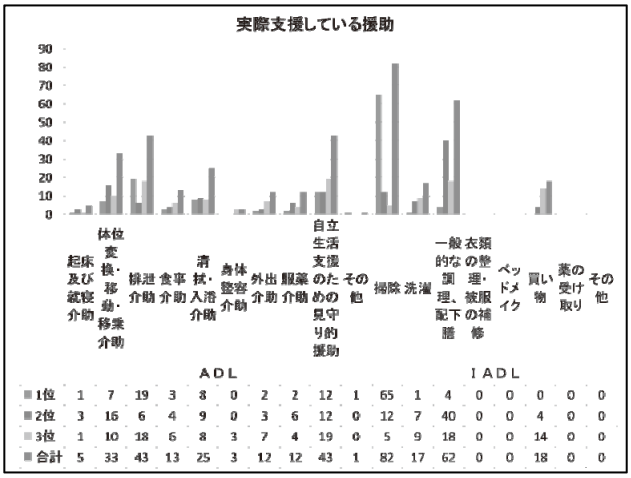

今回の研修を受けて、家事援助等自立支援方法について、作業療法士に相談してみたいと思いましたか。
160
140
120
100
80
60
40
20
0
相談してみたい
機会があれば相談してみたい
あまり思わない
思わない
わからない
系列1 29 144 10 1 3

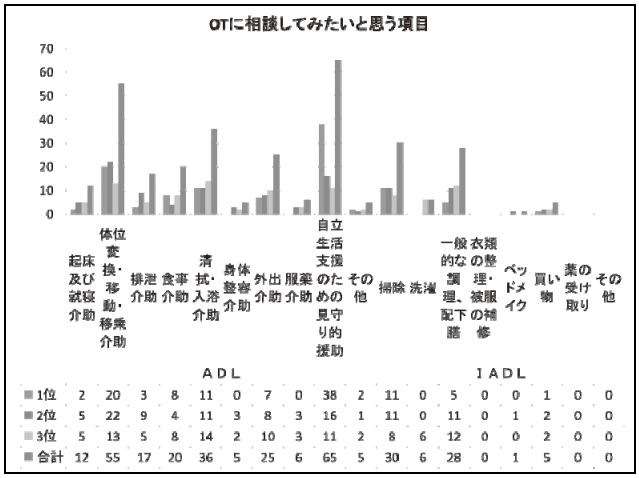

自立支援方法について、今後取り組んでいく上で、どのような支援が必要だと考えますか。
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
高齢者の廃用症候群を防止するために、ヘルパーが一緒に運動するなど身体機能を高めていくことが…
高齢者の生活意欲を引き出す支援が必要である。
高齢者ができる生活行為を見きわめ、できる限り自立できるよう支援することが必要である。
高齢者が楽しみにしていることや、生活に張りができることも支援することが必要である。
高齢により、できなくなることは仕方がなく、できる限り介助をしていくことが必要である。
その他
系列1 73 162 142 128 7 15


あなたは現在（または過去に）作業療法士(OT)と連携したことがありますか。
している
26%
していない
74%


今後作業療法士(OT)と連携してみたいですか
120
100
80
60
40
20
0
してみたい
そうは思わない
まだ、よくわからない
その他
系列1 106 0 28 2


訪問リハと連携したことはありますか。
ある
43%
なし
57%





２．生活行為向上支援員の養成テキスト検討

「生活行為向上支援員の養成カリキュラム作成のための調査」研修会で使用するテキストを作成し、養成テキスト検討のための情報を得ることができた。そこで介護職が自立生活支援について学ぶテキストの必要性を得たので、以下の企画に基づいたテキストを作成することを提案した。テキストテーマは、「自立のための生活行為の援助方法」－生活行為で健康になれる－としたい。テキスト企画主旨は、平成 22 年度の「包括マネジメントを活用した総合サービスモデルのあり方研究事業」で作成した「作業の捉え方と評価・支援技術 - 生活行為の自立に向けたマネジメント - 」の実践プログラムの第２弾と位置付けたい。「作業の捉え方と評価・支援技術 - 生活行為の自立に向けたマネジメント - 」は、介護保険制度において平成 24 年度介護保険制度改定に向けて注目される「包括マネジメントによる総合的なサービスモデル」を中心に、医療と介護の領域で、「対象者が生活の中で、望む作業（活動）」を行うことで「元気」になれることを証明し、作業療法士が利用者の望む作業を引き出し、その作業の遂行と達成満足度の向上により生活行為を向上させることを提示した作業療法士による生活行為の向上のためのマネジメントツールの指南書であった。つまり、対象者本位の医療、生活重視の医療、医学モデルから社会モデルへの変換など、さまざまな提案がなされてきた中で、それらを可能にするための具体的な評価、支援計画、支援方法を明らかにしたのである。

今回、テキスト企画提案する「生活行為援助シート」は、平成 24 年度の介護保険制度改定において実施される予防介護給付の中で国が提示している生活機能向上プログラムの指南書であり、「作業の捉え方と評価・支援技術－生活行為の自立に向けたマネジメント－」（監修：社団法人日本作業療法士協会）の中にある生活行為向上マネジメントをより普及させて、介護保険領域における通所介護や訪問介護で活躍する介護福祉職のサービス技術となる生活行為援助シートの実践・普及のため重要な価値を持っている。故に、テキストの使用者は、介護保険制度で仕事するリハビリテーション専門職および介護福祉職である。

さらに、国は通所介護および在宅介護において利用者サービスの充実のため予防給付対象者である要支援者・要介護１～２の対象者に生活に密接した行為のサービスの充実を挙げている。そのためテキストは、作業療法士のみならず介護福祉職のための指南書として意味があり、作業療法士と介護職が活用することにより医療と福祉の連携である社会的課題の解決の一助となりうる

ことも期待している。

テキストの目次案を以下に示す。

第１章　生活行為向上支援の考え方＜5 頁＞

介護保険制度を踏まえて、生活行為向上支援の考え方について解説する。また、「ひと」の作業遂行の質、自分らしい作業の連続、人－環境―作業の相互作用、生活を構成するする作業のなじみについて、わかりやすく具体的に解説する。

第２章　高齢者の「からだ」と「こころ」の特徴＜10 頁＞

高齢者の加齢に伴う身体的特性や精神的特性について解説し、自立支援のための高齢者への接し方などについて解説する。

第３章　自立支援のための生活行為向上の計画立案と評価＜15 頁＞

「作業聞き取りシート」「興味・関心チェックリスト」「生活行為向上プログラム」「作業をすることで元気になる申し送り表」について理解と使用方法・活用方法を示す。

＜事例 3 例＞

第４章　「からだ」と「こころ」の健康維持のための生活行為向上プログラム＜10 頁＞

第５章　ADL の改善のための生活行為向上プログラム－セルフケアを中心に－＜15 頁＞

日常生活活動(ADL)の獲得を目標設定に具体的な生活行為向上プログラムについて提案する(食事・更衣・入浴・整容・排泄・・・)

第6章　IADL の改善のための生活行為向上プログラム－家事を中心に－＜15 頁＞

日常生活活動関連活動（IADL）の獲得を目標設定に具体的な生活行為向上プログラムについて提案する（掃除・洗濯・調理・買い物・・・）

第７章　楽しみのための生活行為向上プログラム－レジャー・趣味活動を中心に＜15 頁＞

レジャー・趣味活動の獲得を目標設定に具体的な生活行為向上プログラムについて提案する

第８章　通所介護における生活行為向上プログラムの環境の作り方＜10 頁＞

以上のテキスト目次に従って、生活行為向上支援員養成テキストを作成していきたい。

３．生活行為向上マネジメントの普及啓発と生活行為向上支援員の養成研修会システム作り

対象者は、各都道府県作業療法士会の代表 90 名で、千葉県の除くすべての地道府県が参加した。参加者の士会での役職は、会長や理事など役職者であった。研修会終了後のアンケート結果は後述の通りとなった。「生活行為向上マネジメント」については 91％が理解できた。理解できないと回答した者は 0％であった。どちらともいえないと回答した 9％は、さらに理解を深めたい等の前向きな意見であった。「士会で研修会を企画・開催したいと思うか」の問いには、89％が生活行為向上マネジメントの研修会開催を希望した。研修会をしたくないと回答したものは 0％であった。11％のどちらとも言えない理由は、理事会で検討など手続き上の問題であった。また、各都道府県士会からは、協会での相談窓口の設置や講師派遣などの要望が多く寄せられた。

アンケートで明らかとなった内容の要点 1～4 を以下に示す。(回収 45 都道府県。未回収 :秋田県、説明会欠席：千葉県)

１　当研究事業および生活行為向上マネジメントについて理解いただいた

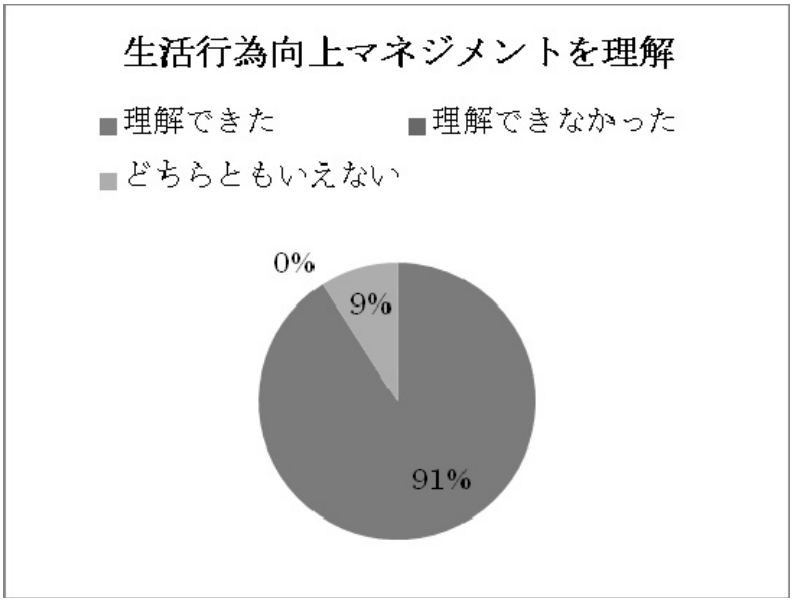
２　各士会は、報告会等を実施し、地域での更なる啓発活動を行う

３　生活行為向上マネジメントに関する研修会の開催の要望が強い
４　研修会開催に当たり、課題が明らかとなった

研修会の様子（受講・グループワーク）

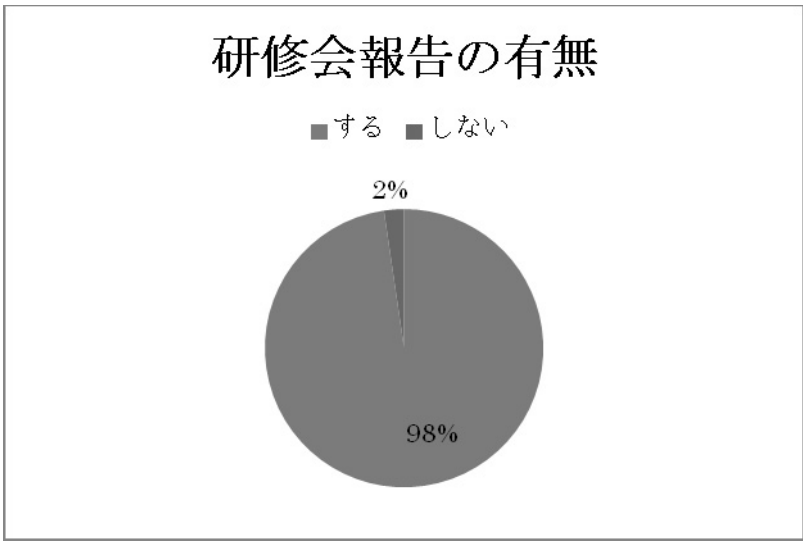
（１）生活行為向上マネジメントを理解できましたか？

理解できたと回答したものは 91%、理解できないと回答したものは 0%であった。どちらともいえない 9%の理由は、さらに理解を深めたい等の前向きな意見であった。



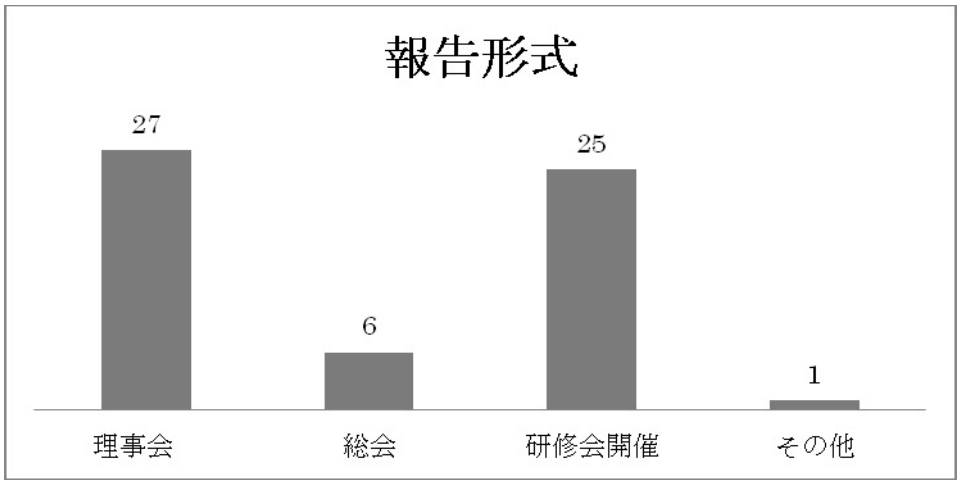
（２）今回の研修会報告を士会で行いますか？

98%が士会で報告をすると回答した。2%は、報告予定がないとのことで具体的な予定をこれから決めるとの理由であった。



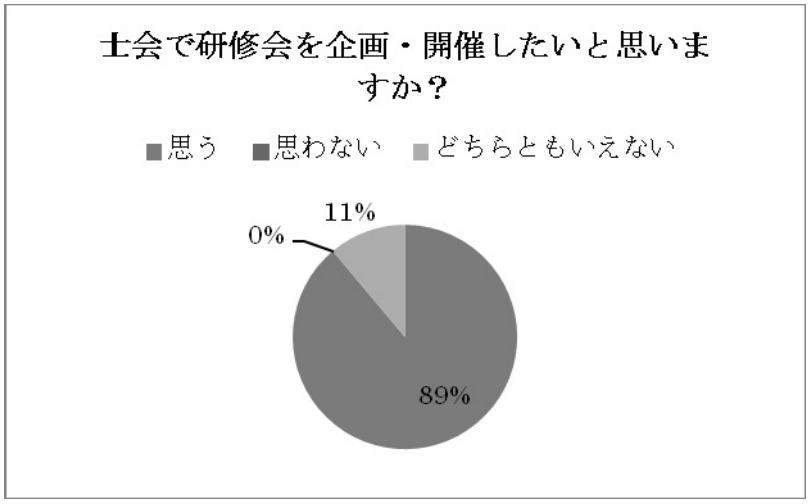
（３）報告を行う形式を教えてください（複数回答）

多くの士会が、理事会や研修会の開催と希望があった。その他では、広報誌や勉強会の開催の意見であった。



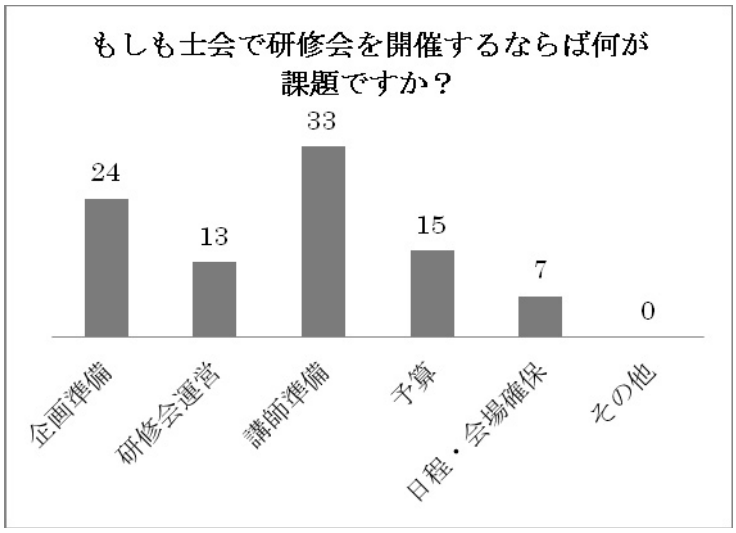
（４）士会で研修会を企画・開催したいと思いますか？その理由もお書きください

89%が生活行為向上マネジメントの研修会開催を希望した。研修会をしたくない回答は 0%であった。どちらともいえないと回答した 11%の理由は、理事会にて検討など手続き上の問題であった。



（５）もし士会で研修会を開催するならば何が課題ですか？教えてください（複数回答）

多くの士会が、研修会を希望する中、その課題の多くは講師準備であった。また研修会プログラム検討にも要望はあった。



Ⅳ．考察

今回の生活行為向上支援員の養成検討に関する取組については、その対象者候補となりうる介護職の方々に生活行為向上支援についての理解を得ることができることが分かった。しかし、その方法としては作業療法士が老化のメカニズムや日常生活における高齢者の特性について具体的なケースを明示しながら講義を行うことが重要となることが分かった。そうすることで生活とは何か、自立的に支援するとは何かについて受講生が自ら考えることや気づくことができるのである。特に自立支援については、その支援方法に見守ることやその支援のための見極め（評価する）ことを理解してもらうことが重要であることが分かった。これは、介護の現場での自立的支援が

必要であることがわかっていても現実には身体的な介護を行うことが多いことが明確となった。また家事援助などにおいても対象者の家事活動援助を行うのではなく、家事代行を行っている現状であることが明らかとなった。これは、支援する者が望んで行っているのではなく、先に述べたように見守ることや見極めることが難しいために発生していると考えられる。これらに関しては、この生活行為向上マネジメントをはじめ生活行為援助シートを活用することができるようになることで、在宅生活での自立支援に役立つことができることが明確となった。この点は、カリキュラムに大きく盛り込むことが重要となる。また作成するテキストへ反映することでよりわかりやすく効果的なテキストが作成することができる。また、今後のテキストの作成は、今年度作成した生活行為向上マネジメントテキストと相互に作用できることが重要であり生活行為向上援助シートや実践プログラムに焦点を当てて作成していく必要を感じている。

以上の養成研修のカリキュラムやテキストを運用するためには、研修システムがなくてはならない。そこで今回行った「生活行為向上マネジメントの普及啓発と生活行為向上支援員の養成研修会システム作り」では、全国で研修会が開催できるように当協会が中心となり都道府県や地域で作業療法士が講師となり普及啓発できる基盤を作ることができた。しかし、今後は実行を持って更なる普及啓発が行えるように継続的な取り組みが必要となる。今回の「生活行為向上マネジメントの普及啓発と生活行為向上支援員の養成研修会システム作り」で行ったアンケートや質疑応答で要望があった普及啓発のための各運営団体（士会など）の支援のためには、すでに協会として相談窓口を設けることができている。今後は、更なる生活行為向上支援員の養成のための講師の育成や研修会運営支援の充実を行うことが課題となる。そして、作業療法士が中心となりながらも医療福祉関係職種との連携を図りながらよりよい高齢者の生活行為向上に効果的に役立つ取り組みを行うことが必要となる。

Ⅴ．まとめ

生活行為向上支援員の養成のために介護職を対象の中心として、生活行為向上マネジメントと生活行為援助シートを用いて研修会を実施した。そこで生活行為向上支援員の養成のためのカリキュラムとテキストの内容について検討した。また生活行為向上支援員養成のための講師育成と研修会システムを構築するために作業療法士を対象に研修会を実施した。今後の生活行為向上マネジメントや生活行為向上支援員育成の養成などの普及啓発の基盤を築くことができた。

［資　　料］

生活行為向上支援員の養成カリキュラム作成のための調査（平成 23 年 1 月 18 日・19 日）

アンケート資料

問１．性別

□男性　　□女性

問２．年齢

□10～20 代　□30～40 代　□50～60 代　□その他（　　）

問３．職種（記載してください）

問４．訪問介護サービスに関わってからの総経験年数　（　　年目）

問５．今回の研修の各プログラムについておたずねします。当てはまるものに☑をして下さい。

１－①　「生活行為向上支援とは」について

□大変参考になった　□参考になった　□ふつう

□あまり参考にならなかった　□全く参考にならなかった

②　上記の質問で、「大変参考になった」、「参考になった」と答えた方は、どのようなところが参考になりましたか。具体的にお聞かせ下さい。

２－①　「生活行為向上シートを使った自立支援の考え方」について

□大変参考になった　□参考になった　□ふつう

□あまり参考にならなかった　□全く参考にならなかった

②　上記の質問で、「大変参考になった」、「参考になった」と答えた方は、どのようなところが参考になりましたか。具体的にお聞かせ下さい。

３－①「生活行為向上プログラム」について

□大変参考になった　□参考になった　□ふつう

□あまり参考にならなかった　□全く参考にならなかった

②　上記の質問で、「大変参考になった」、「参考になった」と答えた方は、どのようなところが参考になりましたか。具体的にお聞かせ下さい。

問６．以下の質問についてお尋ねします。あてはまるものに☑をして下さい。

１．作業療法士(OT)という仕事の内容を知っていましたか

□知っていた　□知らなかった　□その他

２．あなたは現在（または過去に）作業療法士(OT)と協働・連携していますか

□している→３へ　□していない→４へ　□その他

３．２．で「している」と答えた方は、以下の内容を教えてください。

３－１　その作業療法士(OT)は、どのような機関（施設）で働いているか？

３－２　その作業療法士(OT)とは、どのような協働・連携をしたか？

４．２．で「していない」と答えた方は、今後作業療法士(OT)と協働してみたいですか

□してみたい　□そうは思わない　□その他　５．現在困っていることなどで作業療法士(OT)に聞いてみたいことがあれば具体的にご記入ください

問７．あなたが訪問介護サービスにおいて、「実際に支援している項目ベスト３」また、「作業療法士（OT）と相談してみたいと思う項目ベスト３」を以下の表に数字（１～３）を記載してください。

	支援項目	実際に支援している項目	OT と相談してみたいと思う項目
身体介護	起床及び就寝介助		
	体位変換・移動・移乗介助		
	排泄介助		
	食事介助		
	清拭・入浴介助		
	身体整容		
	外出介助		
	服薬介助		
	自立生活支援のための見守り的援助		
	その他（　　）		
家事援助	掃除		
	洗濯		
	一般的な調理、配下膳		
	衣類の整理・被服の補修		
	ベッドメイク		
	買い物		
	薬の受け取り		
	その他（　　）		

問８．現在検討されている制度（案）についてお伺いします。

１．過去に実際に訪問リハ（ＯＴ・ＰＴ）と同行訪問して支援したことがありますか？

□したことがある　　□したことがない

２．あなたは、訪問リハとの同行訪問の必要性をどのように思いますか。

□必要だと思う→その理由　□必要だと思わない→その理由

４．この度の制度（案）について、あなたの意見を教えてください。

生活行為向上マネジメントの普及啓発と生活行為向上支援員の養成研修会システム作りのための調査（プログラムとアンケート）

プログラム

＜1 日目＞

13:00－13:10　会長挨拶

13:10－13:40　生活行為向上マネジメント等に関する国の動向と協会の取組み

13:40－14:40　生活行為向上マネジメントについて

14:55－16:45　生活行為向上マネジメントについて演習①

17:00－18:30 生活行為向上マネジメントについて演習②

＜2 日目＞

9:00－9:50　　生活行為向上プログラム開発と介護職との連携

9:50－10:45　訪問介護職に対する生活行為向上支援研修とそのアンケート調査の報告

11:00－11:30　士会における取り組みの紹介（山形県作業療法士会）

11:30－11:50　質疑応答

12：00　　終了

アンケート用紙

生活行為向上マネジメントの啓発普及に関して活用させていただきます。ご協力の程よろしくお願いします

所属士会　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿士会

あなた達の士会での役職（記載例：士会長　理事　事業部長など）

1 人目＿＿＿＿＿＿＿＿　　2 人目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１．生活行為向上マネジメントを理解できましたか？

・理解できた　　・理解できなかった　　・どちらともいえない

２．今回の研修会報告を士会で行いますか？

・行う→３へ　　・行わない→４へ

３．報告を行う形式を教えてください（複数回答）

１）理事会　２）総会　３）研修会の開催　４）その他（記載ください　　）

４．報告を行わない理由を教えてください

５．士会で研修会を企画・開催したいと思いますか？その理由もお書きください

・思う　　・思わない　　・どちらともいえない

その理由：

６．もしも士会で研修会を開催するならば何が課題ですか？教えてください（複数回答）

・企画準備　　・研修会運営　　・講師準備　　・予算　　・日程や会場確保

・その他（記載ください　　）

７．当研究事業などに関してご意見などがあればお書きください。

※アンケートの記入、大変ありがとうございました。今後もご協力、ご支援をよろしくお願いします。

第七章　住民への生活行為維持普及啓発

Ⅰ．はじめに

当班では、研究事業のコンセプトである「人は作業をすることで元気になれる」を一般住民にも普及し、さらにその実践者やボランティア等の育成の可能性について検討した。またあわせて普及パンフレットや生活行為の見直しツールを作成し、一般住民の健康づくりのあり方を検討した。その内容について以下に報告する。

Ⅱ．分担研究事業の概要

地域で作業ができる環境こそ、高齢者の社会参加を考える際には重要である。しかし車椅子での生活や心身に障害がある場合、地域の社会資源を利用することや地域のさまざまな活動に容易に参加することが困難であることも多く伺える。また心身に障害がなくても生活が無為的で、その人らしさが生活に活かされていない場合もある。そのような方々の社会参加を支援することが今後ますます重要となり、その支援には一般住民の持つ経験力や潜在的な力を利用していくことが期待される。

一般住民の持つ経験力や潜在的な力を利用するには、住民自身が健康感や健康づくりの認識を十分に自覚することが肝要であり、自覚できる場面づくりも必要である。つまり一般住民が現在の生活行為を見つめ直し、大切にしている生活行為を続けること、新たな生活行為づくりを目指すことが健康の維持、増進（一次予防）につながることの理解が必要なのである。

分担研究では、平成 20 年度を起点とした本研究事業の作業の中で作成したツールを利用し、生活行為を続けることの重要性を一般住民へ啓発し、住民の持つ力を活かすこと、生活行為に支障がある方々の健康づくりの再構築に働きかけること等の可能性も探ることとした。

Ⅲ．分担研究の内容

1）研究名：生活行為向上支援普及啓発

2）目的：

①生活行為向上マネジメントを国民に普及啓発する。

②生活行為向上マネジメントのツールを自分が使う、家族に対して使う、知人に対して使う、ボランティアの立場でさまざまな方々に伝えるなど、あらゆる場面で活用できるようにする。

③生活行為向上マネジメントのツールを使えるボランティアやリーダー的な一般住民を育てる。

3）内容：

①一般住民向け生活行為向上マネジメント資料の作成

○　平成 22 年度老人保健健康増進等事業で（社）日本作業療法士協会が示した「人は作業をすることで元気になれる」ダイジェスト版をもとに、一般住民向けに分りやすい資料として再構成する。

○　上述のダイジェスト版と同様に、平成 22 年度同事業において作成した「作業聞き取りシート」(図 1）と「興味関心チェックリスト」(図 2）も、一般住民向け資料として利用できるツールに再構成する。

②普及研修会（「人は作業することで元気になれる講習会」）の開催

○　講座の時間はおおむね 1 時間 30 分程度とし、平易な内容に修正し気軽に健康づくりについて受講できる場面を設定する。

○　座学に加え、「作業聞き取りシート」と「興味関心チェックリスト」を利用した演習も行う。

③講習会に参加した一般住民が高齢者や障害者へ生活行為を続けることの重要性を伝達、または理解を促すような介入方法を検討、支援する。

4）期間：平成 23 年 7 月 30 日～平成 24 年 3 月 31 日

5）普及研修会実施場所：北海道恵庭市、宮城県仙台市、福島県郡山市

6）対象者（対象集団）：

恵庭市（社会福祉協議会ふれあいサロン事業及び地域包括支援センター
介護事業参加者）
仙台市（自主グループ「吉成にこにこクラブ」）
郡山市（老人会「一心会」）

7）評価：

①講習会に参加した一般住民やボランティア等に対し、(社) 日本作業療法士協会が示した「人は作業をすることで元気になれる」ことに関する意識調査（資料 1）を行い、その有効性について分析する。

②講習会に参加した一般住民が高齢者や障害者へ生活行為を続けることの重要性を伝達、または理解を促すような介入について、検討する。

（図１）

作業聞き取りシート

作業聞き取りシートは、その人にとって意味のある作業を把握するためのシートです。目標とする生活行為や作業が思いつかない、何もないと答えた場合、シートの裏面に示している「興味・役割チェックリスト」をサブシートとして聞き取りの際のヒントに活用してみて下さい。このシートはあくまでも利用者自身が生活の目標とする生活行為や意味のある作業に気づくプロセスを支援するツールです。

１　あなたがいつまでも続けたい、やってみたい、もっとうまくできるようになりたいと思う事柄など、または問題を感じながらもやりたい事柄がありましたら、３つほどご記入ください。

２　次に、それぞれについて１～１０点の範囲で思う点数をご記入ください。
①実行度：十分実行できている場合は実行度１０点、まったくできない場合は実行度１点です。
②満足度：とても満足している場合は満足度１０点、まったく不満である場合は満足度１点です。

氏名		年齢	55才	性別	女
主訴	（いつまでも続けたいこと、やってみたいこと，不安に思っていること，身体や生活で困っていること）				
生活行為・作業の目標	□A（具体的に生活行為・作業の目標が言える） 目標１ 動物の世話	実行度	8/10		
		満足度	9/10		
		達成の可能性	□有　□無→A^		
	□A（具体的に生活行為・作業の目標が言える） 目標２ 温泉	実行度	5/10		
		満足度	5/10		
		達成の可能性	□有　□無→A^		
	□A（具体的に生活行為・作業の目標が言える） 目標３ 写真	実行度	0/10		
		満足度	0/10		
		達成の可能性	□有　□無→A^		
	□B（具体的にイメージができない）	→A 興味・関心チェックへ			

参考）吉川ひろみ訳；COPM（Canadian Occupational Performance Measure）［カナダ作業遂行測定］第４版 大学教育出版　2007

（図２）

A 興味・関心チェックリスト

（下記の活動から好き・興味のある活動、している活動、してみたい活動に○をつけてください。）

活動名	好き、興味のある活動	している活動	してみたい活動	活動名	好き、興味のある活動	している活動	してみたい活動
掃除	○		○	歴史	○		○
料理	○		○	ボランティア	○		
買い物	○		○	写真	○		○
家の手入れ				ゴルフ・グランドゴルフ			
洗濯物たたみ				温泉	○		○
子どもの世話				楽器演奏	○		○
動物の世話	○		○	書道・習字	○		○
謡曲・詩吟				ラジオを聴く	○		○
ボーリング			○	テレビを見る	○		○
水泳			○	歌を歌う	○		
テニス	○		○	映画を見る			
野球				パズル・ゲーム			
ダンス・踊り			○	つり			
体操・運動	○		○	園芸	○		○
散歩	○		○	洗濯	○		
パソコン・ワープロ				車の運転			○
手工芸			○	畑			
読書				友人との交流	○		○
将棋・囲碁				賃金を伴う仕事			
観劇			○	音楽を聴く・演奏会			○
絵を描く				地域活動			
新聞を読む	○			おしゃべり	○		○
俳句				生涯学習			
宗教活動				旅行	○		○
日曜大工				編み物			○
お茶・お花	○		○	針仕事			○
その他				その他			

平成23年度老人保健健康増進等事業
生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業
2011年9月
発行：社団法人　日本作業療法士協会
〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9　盛光伸光ビル7階
電話（03）5826-7871　FAX（03）5826-7872

資料１

平成 23 年　　月　　日

参加者各位

平成 23 年度老人保健健康増進等事業
「生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業」
生活行為向上支援普及啓発分担研究班

「人は作業することで元気になれる」講習会アンケート

「人は作業することで元気になれる」講習会にご参加いただき、誠にありがとうございます。今回の講習会は、「人は作業をすることで元気になれる」を市民の皆さんに普及し、皆さん自身の健康づくりにも役立てたいと考え開催いたしました。

つきましては、今後の研究の参考にしたく以下のアンケートにお答えいただければ幸いです。なお、ご記入いただいたアンケートは研究事業以外に利用することはありません。また本件に関する情報の管理は徹底し、皆様にご迷惑をおかけしないことを申し添えます。

〇次の質問にお答えください。

【質問１】

年齢を記入してください。　＿＿＿＿＿＿＿＿　歳

【質問２】

性別を選んでください。　□　男　　□　女

【質問３】

今回の講習会の内容は理解できましたか。

□十分理解できた　□理解できた　□どちらともいえない
□理解できなかった　□まったく理解できなかった

【質問４】

今回の講習会は、ご自身の今後の生活に役立ちそうですか。

□十分役立つ　□役立つ　□どちらともいえない
□役立たない　□まったく役立たない

【質問５】

皆さんが参集するこのような会で、今後も「人は作業をすることで元気になれる」ことの継続的な講習会の開催を望みますか。

□望む　□どちらかといえば望む　□どちらともいえない
□どちらかといえば望まない　□望まない

【質問６】

「人は作業をすることで元気になれる」ことを他の方にも伝えたいと思いますか。

□思う　□どちらかといえば思う　□どちらともいえない
□どちらかといえば思わない　□思わない

【質問７-1】（参加者の方、お答えください）

今後、皆さんが参集するこのような会で、「人は作業をすることで元気になれる」ことを意識した活動の展開が図れそうですか

□十分に図れる　□図れる　□どちらともいえない
□図れない　□まったく図れない

【質問７-2】（ボランティアの方、お答えください）

ボランティア（リーダー）として、今後、皆さんが参集するこのような会で、「人は作業をすることで元気になれる」ことを意識した活動の展開が図れそうですか。

□十分に図れる　□図れる　⇒質問８へ
□どちらともいえない　□図れない　□まったく図れない⇒質問９へ

【質問８】（ボランティアの方、お答えください）

【質問７-2】で、「十分に図れる」または「図れる」と回答した方は、その理由としてあてはまるものすべてを☑してください。

□会への参加が人を元気にすることを再確認できた
□ボランティア（リーダー）の役割を再確認できた
□会の運営のヒントを得ることができた
□会の展開法のヒントを得ることができた
□会のプログラムを考えるヒントを得ることができた
□会員との充実したコミュニケーションの必要性を再確認できた
□ボランティア（リーダー）としての自信を持つことができた
□その他

【質問９】

今回の講習会について自由にご感想やご意見をお聞かせください（何でも結構です）

～　ご協力ありがとうございました　～

Ⅳ．対象集団について

1）対象集団の自治体規模は次のとおりである。なお対象集団の行政区等の詳細は資料 2 のとおりである。

①恵庭市：人口 68,938 人、高齢化率 21.1%。

②仙台市国見ヶ丘地域：人口 19,185 人、高齢化率 24.3%。

③郡山市富久山地域：人口 34,289 人、高齢化率 17.9%。

2）対象集団の特徴

①-1（恵庭市）介護者のサロン「ハッピートーク」：普段介護をしている方が、体験談や悩みを語り合ったり、介護の仕方をお互いにアドバイスしたり、息抜きの場を目的としている。社会福祉協議会にふれあいサロンとして登録して活動している。集団の背景には地域包括支援センターもアドバイザー的に関与している。

①-2（恵庭市）地域包括支援センター「たよれーるの日」：地域包括支援センターの普及啓発を目的に、地域住民に対して市民向け講話や各種相談など行う。「たよれーる」とは地域包括の愛称。「たよれーるの日」は毎月 1 日に実施で、地域包括支援センターが開催の都度、住民に周知している。

②（仙台市）吉成にこにこクラブ：会員数約 30 名（内：ボランティアリーダー8 名）で運営。3 年前に地域包括支援センターと仙台市健康増進センターが、60 歳以上の市民を対象に 10～12 回のサポーター（ボランティアリーダー）養成講座を開催。養成講座参加者 20 人中 8 名がボランティアリーダーとなり、自主クラブの立ち上げに参画。口コミで会員数が徐々に増えている。

③（郡山市）老人クラブ「一心会」：参加者の年齢層は 70 歳代で、夫婦での参加が多い。集会所を利用し、役員が中心となり会を運営。交通安全教室や健康づくり講座、地域の名士を招いての講話などを定期で開催。また年 2 回（春秋）の 2 泊 3 日旅行、新年会などの活動も積極的に行っている。

資料２

対象集団の概況（恵庭市）①

1．対象集団の地域（H23 年度）

<table>
<tr><td rowspan="3">人口</td><td rowspan="3">68,938 人</td><td rowspan="3">高齢者人口</td><td rowspan="3">14,547 人</td><td>高齢化率</td><td>21.1%</td></tr>
<tr><td>前期高齢者数</td><td>7,666 人</td></tr>
<tr><td>後期高齢者数</td><td>6,881 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">要支援・要介護認定者数</td><td>2,212 人</td><td colspan="2">要支援・要介護認定率</td><td>15.2%</td></tr>
<tr><td colspan="2">要支援計　827 人
（Ⅰ　415 人、Ⅱ　412 人）</td><td colspan="4">要介護計　1,385 人
（Ⅰ　419 人、Ⅱ　383 人、Ⅲ　206 人、Ⅳ　194 人、Ⅴ　183 人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">日常生活圏域３地区</td><td colspan="4">○ひがし地域包括支援センター地区
人口 27,613 人　高齢者数 5,095 人　高齢化率 18.5%
○みなみ地域包括支援センター地区
人口 19,756 人　高齢者数 4,035 人　高齢化率 20.4%
○きた地域包括支援センター地区
人口 21,569 人　高齢者数 5,417 人　高齢化率 25.1%</td></tr>
</table>

2．対象集団の状況

①介護者のサロン「ハッピートーク」（10 月 27 日実施）

活動内容	普段介護をしている方が、体験談や悩みを語り合ったり、介護の仕方をお互いにアドバイスしたり、息抜きの場を目的としている。社会福祉協議会にふれあいサロンとして登録して活動している。集団の背景にはきた地域包括支援センターもアドバイザー的に関与している。
対象	要支援・介護の認定を受けている方のご家族の方。50 代、60 代が中心で上は 70 代まで。主に女性。
人数	概ね 15 名程度
会場	恵庭市内の寿司店
作業療法士との関係	日常的に関わりがある集団ではなく、今回はきた地域包括支援センターを通じて講習の調整を行った。
事業の位置付け	社会福祉協議会ふれあいサロン事業
運営主体	地域住民および「社会福祉協議会（実施主体）」、「きた地域包括支援センター」。
開始年度	平成 21 年度　（開催頻度）１回／月。

②地域包括支援センター「たよれーるの日」　11 月 1 日、12 月 1 日実施

活動内容	各地域包括支援センターの普及啓発を目的に、地域住民に対して市民向け講話や各種相談など行う。「たよれーる」とは地域包括の愛称。「たよれーるの日」は毎月 1 日に地域包括支援センターが住民に周知、開催している。
対象	日常生活圏域の住民の中高年者。地域包括支援センターで関わりのある人。ボランティアは 40 代～70 代で幅広い。一般は 50 代～70 代が中心。
人数	概ね 15 名程度
会場	大町憩の家（11 月 1 日）　柏陽憩の家（12 月 1 日）
作業療法士との関係	日常的に関わりのある集団ではないが、保健事業で関わりのある住民が多く含まれていた。今回はみなみ地域包括支援センターを通じて講習の調整を行った。
事業の位置付け	介護予防事業　一次予防事業
運営主体	地域包括支援センター
開始年度	平成 22 年度　（開催頻度）1 回／月

対象集団の概況（仙台市）②

1．対象集団の地域（H23 年度）

<table>
<tr><td rowspan="3">仙台市人口</td><td rowspan="3">1,019,622 人</td><td rowspan="3">高齢者人口</td><td rowspan="3">193,022 人</td><td>高齢化率</td><td>18.9%</td></tr>
<tr><td>前期高齢者数</td><td>100,350 人</td></tr>
<tr><td>後期高齢者数</td><td>92,672 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">要支援・要介護認定者数</td><td>35,177 人</td><td colspan="2">要支援・要介護認定率</td><td>18.0%</td></tr>
<tr><td colspan="2">要支援計　10,904 人
（Ⅰ　7,519 人、Ⅱ　3,385 人）</td><td colspan="4">要介護計　24,273 人
（Ⅰ　7,337 人、Ⅱ　5,083 人、Ⅲ　4,509 人、Ⅳ　4,072 人、Ⅴ　3,272 人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">広域的な日常生活圏域人口</td><td>277,394 人</td><td>高齢者人口</td><td>54,332 人</td><td>高齢化率</td><td>19.6%</td></tr>
<tr><td colspan="2">対象集団の主たる地域</td><td colspan="5">○国見ヶ丘地域包括支援センター地区
①人口：19,185 人、②高齢者人口：4,662 人、③高齢化率：24.3%</td></tr>
</table>

2．対象集団の状況（名称：吉成にこにこクラブ）

活動内容	市民センターの一室を借り、ボランティアリーダーが中心となりストレッチ体操やレクリエーション･リズム体操などを実施。また、定期の活動に加え、年間の活動として、春は花見・秋は紅葉狩り・新年会・忘年会などの活動も積極的に行っている。週に 1 回（毎週金曜日：10:00～12:00）
対象	日常生活圏域の地域包括支援センターで関わりのある人。ボランティアは 40 代～70 代で幅広い。一般は 50 代～70 代が中心。青葉区内 14 地域包括支援センター圏域の内、3 地域包括支援センター圏域から参加されている。中でも国見ヶ丘地域包括支援センター圏域からの参加者が多数を占める。
人数	約 30 名（ボランティアリーダー8 名を含む）
会場	市民センター
作業療法士との関係	ボランティアリーダーの活動開始にあたり、当事業所（せんだんの丘ぷらす）の見学対応やストレッチ・運動方法などの助言を行った。その後もにこにこクラブからの依頼で助言などを行ってきた。
事業の位置付け	自主グループ
運営主体	地域住民
開始年度	3 年前の仙台市が取り組んだ 60 歳以上の市民に対するサポーター（ボランティアリーダー）養成講座をきっかけに組織化。8 名のボランティアリーダーが自主グループ「吉成にこにこクラブ」を立ち上げる。口コミで会員数が徐々に増え、現在に至る。

対象集団の概況（郡山市）③

1．対象集団の地域（H23 年度）

<table>
<tr><td rowspan="3">人口</td><td rowspan="3">333,895 人</td><td rowspan="3">高齢者人口</td><td rowspan="3">67,780 人</td><td>高齢化率</td><td>20.3%</td></tr>
<tr><td>前期高齢者数</td><td>33,723 人</td></tr>
<tr><td>後期高齢者数</td><td>34,057 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">要支援・要介護認定者数</td><td>11,701 人</td><td colspan="2">要支援・要介護認定率</td><td>17.3%</td></tr>
<tr><td colspan="3">要支援計　2,977 人
（Ⅰ　1,592 人、Ⅱ　1,385 人）</td><td colspan="3">要介護計　8,724 人
（Ⅰ　2,363 人、Ⅱ　2,215 人、Ⅲ　1,395 人、Ⅳ　1,673 人、Ⅴ　1,078 人）</td></tr>
<tr><td colspan="3">日常生活圏域
（対象集団の主たる地域）</td><td colspan="3">○富久山地域包括支援センター地区（H24.1）
①人口：34,289 人（字地区：1,341 人/595 世帯）
②高齢者人口：6,137（字地区：251 人）
③高齢化率：17.9%（字地区：18.7%）</td></tr>
</table>

2．対象集団の状況（名称：古町老人会「一心会」）

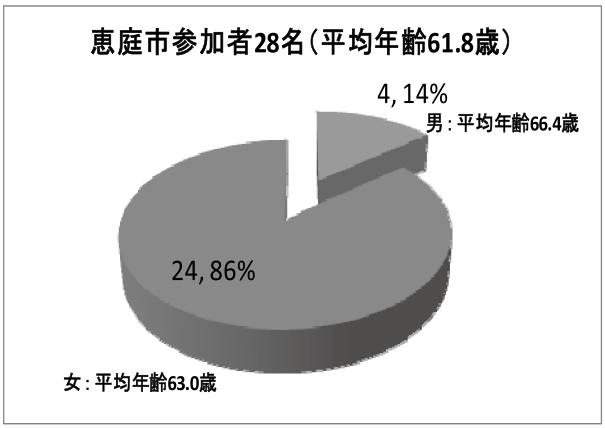
活動内容	集会所を利用し、役員が中心となり会を運営。会の目的は親睦、健康増進、教養を高める、地域づくり（奉仕作業）等で、交通安全教室や健康づくり講座、地域の名士を招いての講話、清掃活動などを定期で開催。また年２回（春秋）の２泊３日旅行、新年会などの活動も積極的に行っている。ほぼ毎月 1 回参集。
対象	会の規約に基づき、60 歳以上の方の自主的な参加により運営。参加者の年齢層は 70 歳代がほとんどで、夫婦での参加が多い。
人数	約 58 名（役員３名、理事 2、監査 2）
会場	地区集会所
作業療法士との関係	対象集団の地域は作業療法士自身の生活地域であり、顔見知りの方が多い。作業療法士は数年前より、講師として健康講話や介護予防に関する話題提供等、会の活動に協力していた。
事業の位置付け	老人クラブ
運営主体	地域住民
開始年度	昭和 59 年発足。発足後、約 30 年経過。老人クラブの歌を作詩、会の足跡を「軌跡」として資料編纂する等、会員が無理のない範囲で活動を展開している。

Ⅴ．調査結果

１）対象者

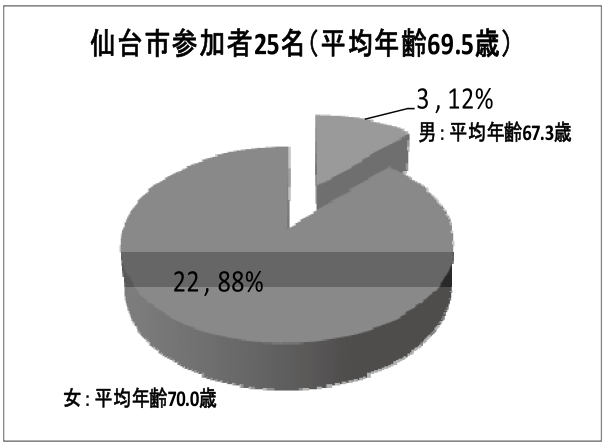
①恵庭市（参加者中ボランティア 13 名）

社会福祉協議会ふれあいサロン事業「ハッピートーク」の参加者 9 名、地域包括支援センターが主催する「たよれーるの日」の参加者 19 名の合計 28 名。参加者合計の内訳は男性 4 名、女性 24 名であった。平均年齢は 61.8 歳である。



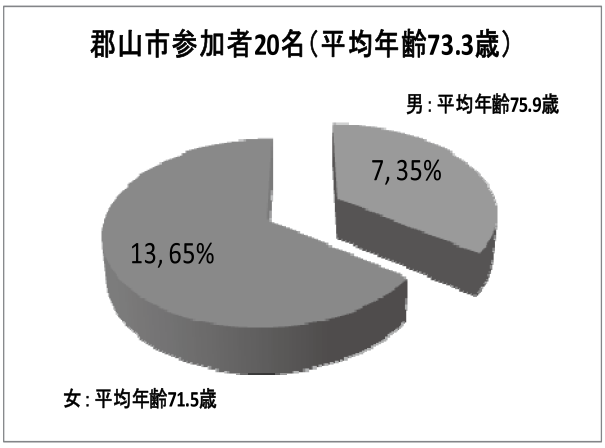
②仙台市青葉区（参加者中ボランティア 7 名）

自主グループ「吉成にこにこクラブ」の参加者 25 名、内訳は男性 3 名、女性 22 名であった。平均年齢は 69.5 歳である。



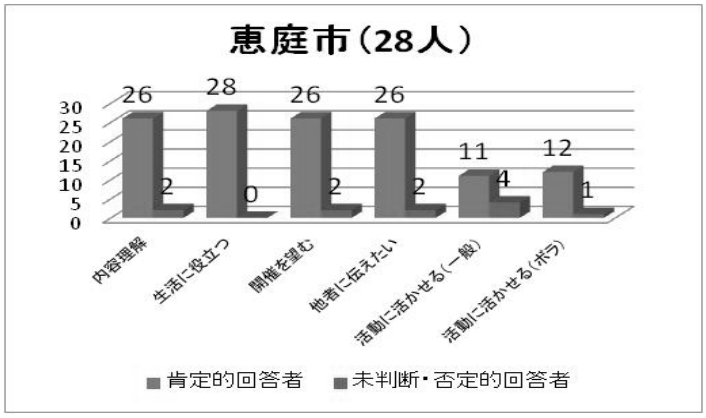
③郡山市（参加者中ボランティアなし）

老人クラブ「一心会」の参加者 20 名、男性 7 名、女性 13 名であった。平均年齢は 73.3 歳である。



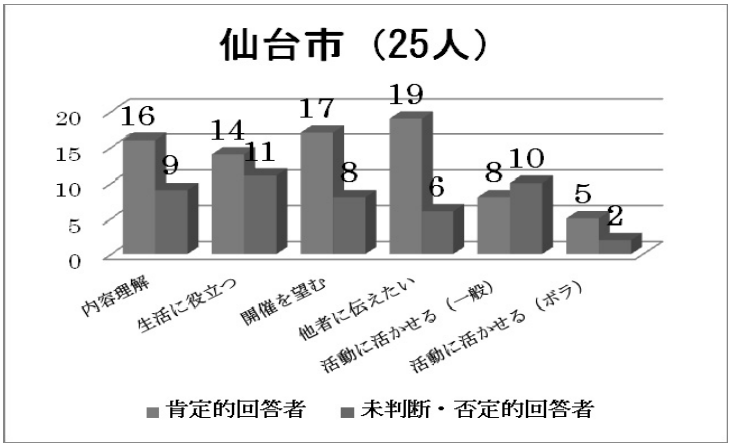
2）アンケート結果

①恵庭市



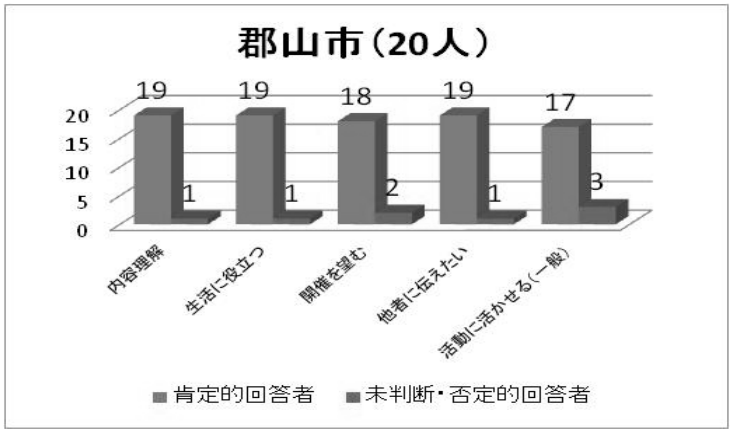
「講習会は理解できたか」では理解できたが 26 名（92.9%）、「生活に役に立ちそうか」では役立つが 28 名（100%）。「継続的な講習会の開催を望むか」では望むが 26 名（92.9%）、「他の方に伝えたいか」では伝えたいが 26 名（92.9%）、「会の活動に活かせるか」では活かせるが参加者 11 名（73.3%）、ボランティア 12 名（92.3%）であった。

②仙台市



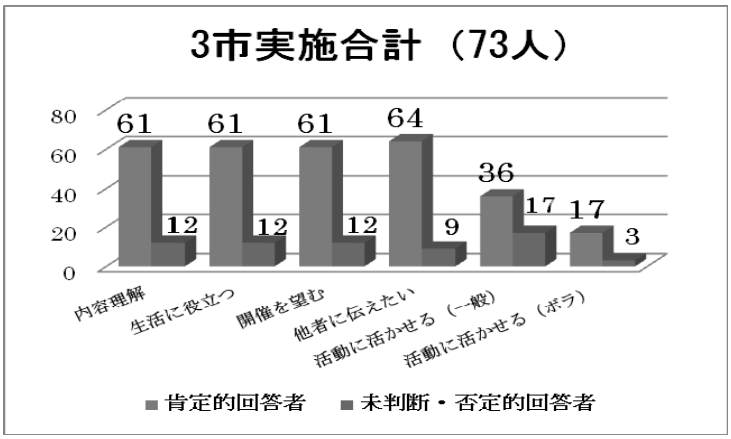
「講習会は理解できたか」では理解できたが 16 名（64%）、「生活に役に立ちそうか」では役立つが 14 名（56%）。「継続的な講習会の開催を望むか」では望むが 17 名（68%）、「他の方に伝えたいか」では伝えたいが 19 名（76%）、「会の活動に活かせるか」では活かせるが参加者 8 名（44.4%）、ボランティア 5 名（71.4%）であった。

③郡山市



「講習会は理解できたか」では理解できたが 19 名（95%）、「生活に役に立ちそうか」では役立つが 19 名（95%）。「継続的な講習会の開催を望むか」では望むが 18 名（90%）、「他の方に伝えたいか」では伝えたいが 19 名（95%）、「会の活動に活かせるか」では活かせるが参加者 17 名（85%）であった。

④3 市実施合計



「講習会は理解できたか」では理解できたが 61 名（83.6%）、「生活に役に立ちそうか」では役立つが 61 名（83.6%）。「継続的な講習会の開催を望むか」では望むが 61 名（83.6%）、「他の方に伝えたいか」では伝えたいが 64 名（87.7%）、「会の活動に活かせるか」では活かせるが参加者 36 名（67.9%）、ボランティア 17 名（92.3%）であった。

3）講座開催に対する対象集団の反応

①恵庭市

・社会福祉協議会や地域包括支援センターが主催する講座に組み込み実施した。身近な地域で自主的に運営されている「ふれあいサロン事業」への介入も試みたが、年次計画が決まっているこ

とや、実施時間が長い（約 1.5 時間）とのことで調整が図れず断念した。介護体験のある参加者は、講習に対する関心や興味が高く反応も良好であった。

②仙台市

・週 1 回開催の場面を利用し実施。実施に協力的ではあったが、通常活動が制限されることに難色を示す方もいた。内容には理解を示していたが、演習作業等では混乱があった。演習時の指導や伝達スタッフ数は検討の余地がある。

③郡山市

・保健師による健康教室との抱き合わせで実施。学習意欲は高く、再開催希望あり。保健師から資料の提供や実践結果について情報提供を期待された。

4）ボランティアとして参加している方からの評価

恵庭市および仙台市では、会を運営、支援するボランティアが合計 20 名いた。その方々からは以下のような意見があった。

〇現在運営している会への参加が人を元気にすることを再確認できた

〇ボランティア（リーダー）の役割を再確認できた

〇会の運営、展開方法のヒントを得ることができた

〇現在運営している会のプログラムを考えるヒントを得ることができた

5）自由意見（抜粋）

参加者の中には、認知症のある方を家族にもつ方もいた。認知症のある方の支援は、BPSD（認知症に伴う行動障害と精神症状）に目を奪われがちで、行動制限や拘束的対応に陥りやすい。したがって認知症があっても、できる生活行為の有効活用につながり難く、その方の潜在能力の廃用化に至っていることも多い。

今回の講習会で生活行為を続けることの意味を理解していただいた方からは、次のような意見があった。

〇デイサービスに通う認知症の父に、昔からしていた書道をさせたらとてもいきいきとして取り組んでいたことなどを思い出し、今回の話で父への理解につながった。

〇認知症の母が、壇にご飯をあげたり、犬の散歩を行うだけでも意味のある作業だとわかった。仏壇にご飯をセットしやすい器を選んであげたい。

〇認知症の母が IH 調理器の使い方を覚え、おじやを作った。そのことを何度も言ってくる。母にとって料理が意味のある作業だと思う。

Ⅵ. 考察

１）「人は作業することで元気になれる」講習会は、一般住民への健康教育（健康づくり＜一次予防＞）の一環となり得る。一般住民への普及に際しては、多くの場合は生活機能が低下していないと想定されるので「困っている生活行為が再びできるようになる」といった表現を「今できている生活行為がいつまでもできる」等の文言に差し替え、日常的で受け入れやすい言葉を用いることが必要であった。

リハビリ対象者への文言	一般住民への文言
生活する上で困っている、問題を感じている生活行為が再びできるようになる	今出来ている生活行為がいつまでも、たとえ認知症になっても、続けられる

２）ボランティア（リーダー）や介護保健事業所職員、介護家族などに対しても、なじみやすい講習会であり、身近な健康づくり学習会として実施できる。内容は、①要約版をもとに行う講話、②興味関心チェックリストと作業聞き取りシートの記入を行う演習とで構成されており、参加者は聞くだけでなく自らが取り組む参加型の講習となっていた。

３）既成団体への講習会実施の場合、活動が年間スケジュールとして組み込まれていることが多く、割り込みによる実施となるため、当該団体と事前調整するなど調整能力や説明能力が求められた。活動計画設定にあたっては事前に提案しておくことが望ましいと思われた。

４）講座を開催するにあたっては、表題で内容が認識できるようなテーマ設定が望まれ、実施時間も 60～90 分程度で調整できる配慮があると、様々な団体や集団に対し柔軟に実施できると思われた。

5) 研究の目的のひとつとしていた生活行為向上マネジメントのツールを使えるボランティア等を育てること、そのボランティアが高齢者や障害者に生活行為を続けることを伝える等の介入方法検討は、ツール作成に時間を要したため、今回の研究では実施できなかった。人材育成方法や介入手法については、改めて研究計画の設定が必要である。

Ⅶ. 提案

１）障害の有無にかかわらず「人は作業することで元気になれる」ことを一般住民に伝えることは健康教育の一翼を担う。一般住民へは、「今大切にしている生活行為（作業）を継続することで健康を維持できる」ことに注目し、生活行為の振り返りを意識していただくことが重要である。「たとえ認知症やがんなどの病気になっても、たとえ障害がのこっても、意味のある生活行為（作業）がいきいきとした生活につながる」という健康感を、自らが大切にしている生活行為の確認作業などから伝えることが重要である。

２）一般住民への効果的な普及啓発に際しては、集団に対する健康教育活動のためのプレゼンテーション技能が求められる。今後、一般住民に対する普及啓発を推進していくためには以下の事項が必要である。
①よりわかりやすい資料やパンフレットなどのプレゼンテーション資料の作成
②健康教育を実施する担当者を養成するための研修会の開催
③健康教育実施の手引書等（マニュアルや教材）の作成
また作業療法教育においても保健師と同様、集団に対する健康教育活動に関する課程の必要性が伺えた。

３）普及啓発をより効率的に広く進めるためには、地域に存在する既成団体の活動に組み込み実践していくことができる。その対象として以下の機関や団体、機会が有効と考えられる。
①地域包括支援センターや介護保健事業所が実施する健康教育、健康講話（介護分野）
②行政保健部署などが実施する健康教育、健康講話（行政分野）
③老人クラブや町内会組織（福祉部や婦人部等）など（自治組織分野）
④社会福祉協議会等が主催するふれあいサロンなど（福祉分野）
⑤長寿大学など（教育分野）
　また、より積極的な普及啓発には、上述した既成団体等を支援するボランティアの養成も重要となる。

４）ボランティアやボランティアリーダーを養成する場合は、ボランティアが関与する個人、団体や組織、地域特性などの情報を活用することや、作業を通じた支援の段階付なども伝えることが必要である。

５）今回、普及啓発研究において利用した「人は作業をすることで元気になれる」ダイジェスト版は障害者（リハビリを必要とする方）を対象に構成されており、一般住民への説明には馴染みにくかった。そこで研究班内での検討により、新たに「市民向け概要版」（含む「生活行為の種類表」および「生活行為自己確認シート）（資料 3）の作成に至った。今後、この新たなツールを用い全国の一般住民への普及啓発の展開を試みる必要がある。

６）また誰もが生活行為の見直しや作業を通じて活動的な生活習慣を維持し、さらに地域住民の交流を育む場として地域づくりや地域の活性化にも活かすことができる「『人は作業することで元気になれる』拠点」を身近な場所に設置することが望まれる。

７）今後、日本作業療法士協会は「人は作業することで元気になれる」を基本とした作業療法士養成の取り組みとともに、「『人は作業することで元気になれる』拠点」づくりも意識した活動を推進していく必要がある。拠点の枠組みが明確になれば、条件を満たす地域のあらゆる社会資源が「『人は作業することで元気になれる』拠点」となることができ、元気で活発な人が増えるはずである。

８）この取り組みを全国的に広げるためには、日本作業療法士協会と各都道府県士会との協力体制が必要である。両者は取り組みに関する役割分担やスケジュールなどについて、その認識をしっかり共有しておくことが重要である。

９）さらに、普及啓発は地域自治との適切な信頼関係の中で展開されることが肝要である。日本作業療法士協会と各都道府県士会には、日頃から地域社会との接点を意識した活動や社会貢献の取り組みが求められる。

10）介護予防に関するマニュアル（地域支援事業）への掲載

通所班などで生活行為向上マネジメントに関するエビデンスが蓄積されていることから、厚生労働省から出されている以下のいずれかの介護予防に関するマニュアルに掲載できるよう働きかける。マニュアルに掲載されることで、介護予防事業（地域支援事業）の中での位置付けが明確になる。

①認知症予防・支援マニュアル
②うつ予防・支援マニュアル
③閉じこもり予防・支援マニュアル

11）介護予防事業（地域支援事業）での生活行為向上マネジメントの位置付けと「『人は作業することで元気になれる』拠点」（仮称　アクティビティ支援センター）の関係については、以下のように想定できる。

（一次予防事業）

①介護予防普及啓発事業

一般の高齢者（老人クラブ、町内会、長寿大学等）に対し生活行為向上マネジメントに関する講習会の実施や分りやすいパンフレットを配布する。

②地域介護予防活動支援事業

民生児童委員や地域のボランティアなどに対し生活行為向上マネジメントに関する講習会の実施や、地域集団に対する生活行為向上マネジメントの導入などについての演習や講習を実施する。

（二次予防事業）

①二次予防事業対象者把握事業

基本チェックリストに加え生活行為マネジメントをアセスメントツールとして使用し、虚弱者把握のための訪問活動などを行う。

生活行為マネジメントを使用して健康相談や生活指導、住宅改修相談、リハビリ指導などを行う。

②通所型介護予防事業・訪問型介護予防事業

事業評価のアセスメントツールとして使用するなど。

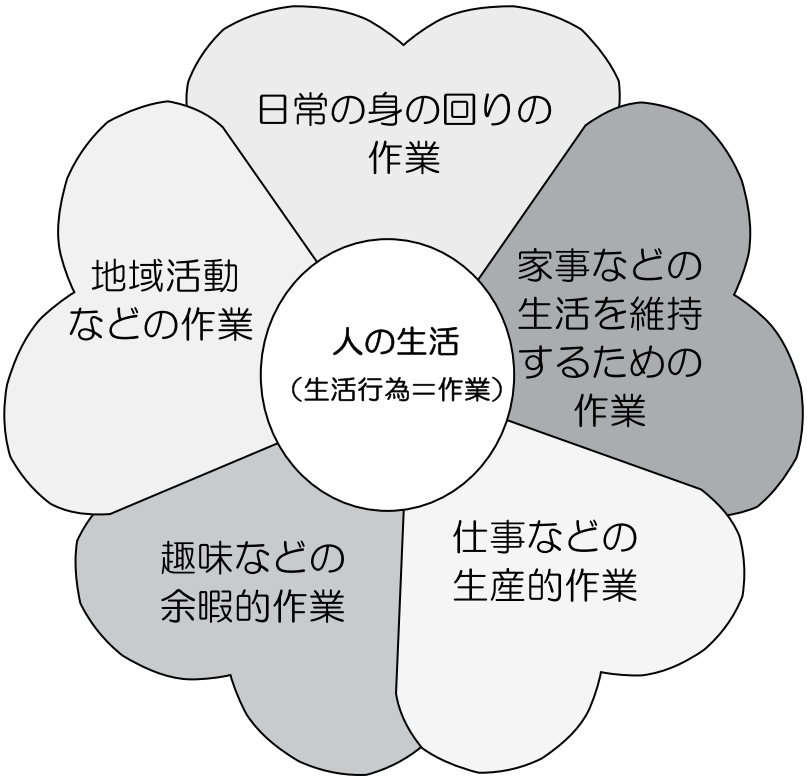
これら一次予防、二次予防事業をトータルで一般住民に対し実施する拠点を「(仮称)アクティビティ支援センター」と考えることができる。また、その「(仮称)アクティビティ支援センター」でデイサービスなどの通所事業を実施すれば、一次予防、二次予防、三次予防の展開を図ることができ、「生活行為マネジメントの考え方に基づく高齢者の総合的な健康づくり」という構想になる。

資料３

市民向け概要版

平成 23 年度老人保健健康増進等事業
生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業

人は作業をすることで元気になれる



平成 24 年 3 月

社団法人　日本作業療法士協会

～生活行為を続けることで、いつまでも元気でいるために、知って得する５つのポイント

はじめに

私たちは、身のまわりのことを自分自身で行うだけでなく、趣味、生きがい、社会参加や社会貢献など、その人にとって「大切にしている生活や活動（生活行為）」を毎日続け、満足感や充実感を得ています。

病気の早期発見、早期治療のために健診や体力測定があるのと同じように、生活行為の確認やチェックをして、健康づくりに役立てましょう。

ポイント１　いろいろな生活行為を知ろう！

私たちの生活は、その人にとって「大切にしている生活行為」の連続から成り立っています。自分にとって大切な生活や必要な生活を見つけてみましょう。

＜生活行為の種類（例）＞

身のまわりの動作	家事など	趣味活動	社会参加
食事	料理	庭の手入れ（園芸）	冠婚葬祭
整容	洗濯	家庭菜園や畑仕事	ボランティア
更衣	掃除	山登り・温泉に行く・旅行	地域の行事や催し
排泄	ミシンを使う	詩吟を詠む・詩を作る・書道	老人会
入浴	アイロンを使う	音楽鑑賞・楽器演奏・踊り	文通やメール交換
立ちしゃがみ動作	電話を使う	カラオケ・民謡を歌う	お茶会・食事会・外食
安定した歩行	買い物	読書	友人や知人との交流
階段昇降	ペットの世話	塗り絵や絵画	友人宅訪問
屋外歩行	自転車に乗る	映画鑑賞	講演会
坂道歩行	車の運転	編み物や裁縫	博物館や展覧会に行く
	バスや電車の利用	手工芸や木工	理容室や美容室に行く
		ゲームやパズル	病院受診
		写真撮影	墓参り
		パソコン操作	復職
		茶道・生け花・盆栽	
		野球・水泳・卓球・ゴルフ	
		グランドゴルフ	
		ゲートボール	
		釣り	

ポイント２　大切な生活行為をよく知ろう！

今できている生活行為がいつまでも、たとえ認知症、がん、脳卒中になっても、続けられることがとても大切です。

生活行為を続けるためには、３つの力「段取りと準備の力」、「実施する力」、「うまくできたか確認し、次の生活行為につなげる力」を知ることが重要です。

自分自身の大切な生活行為を「生活行為の種類表」や「生活行為自己確認シート」で再確認してみましょう。

ポイント３　大切な生活行為をいつまでも続けるためには？

たとえば、「料理」が大切な生活行為という人なら、食生活としてのふだんの料理に加え、仲間で集まって料理を楽しんだり、誰かのために料理をふるまう等、他者との交流や地域での役割を上手に組み合わせることが、大切な生活行為をいつまでも続けるコツになります。

ポイント４　自分の力・生活行為・環境をうまく組み合わせよう！

大切な生活行為を続けるためには、ご自身の能力や生活行為の種類、道具や環境を見直す必要もあります。

たとえば水仕事の際、手に力が入らず蛇口を回しにくい時は、力の入れ方を知ることや（自分の力）、蛇口をレバー式に取り替えたり、楽に回す道具を利用します（環境を変える）。また洗い桶に浸してから本洗いする（作業の仕方を変える）などにより、大切にしていた生活行為を容易に続けることができます。

ポイント５　便利な生活用具を使ってみよう！

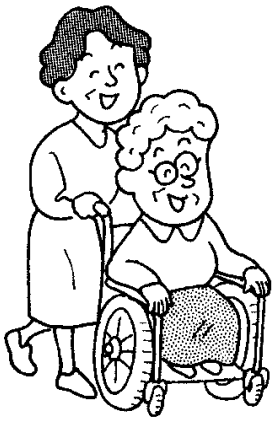
大切な生活行為を続けるためには、その人の能力だけでなく、生活環境や生活行為の方法、使っている道具などを見直す必要があります。

最近では、誰にでも便利に使える道具が販売されています。作業療法士に相談し、自分に合った道具を積極的に使ってみましょう。

（使用の例）
・手の力が弱い方が料理をする際、包丁ではなく皮むき器を使って野菜の皮をむく
・物忘れがあっても安心して調理を行うために、IH 調理器やシリコン調理器具を使う
・膝が痛み、床からの立ちしゃがみがしにくい場合、常時、椅子やソファを使う

まとめ

人は、病気や身体に障害を持った時、これまでの生活や望む人生が送れなくなったと思います。そのことで生きる意欲を失い、介護が必要な状態になったりします。しかし、身体や心に支障があってもいきいきとした人生や生活を送っている人たちはたくさんいます。その人にとって「大切な生活行為」との出会いが、心を元気にし、自分の生活に目を向け、いきいきとした人生をつくっていくことにつながります。「大切な生活行為」は、“できない”から“できるかも”そして“できる（続けられる）”へと変化させ、「病気になっても、障害が残っても、認知症になっても大丈夫」という安心感を持って生活しましょう。



さあ！「生活行為の種類表」や「生活行為自己確認シート」を使って生活の目標を再確認しましょう。また、いろいろな生活行為にもチャレンジしてみましょう！

生活行為（作業）の種類表

1．あなたが大切にしている生活行為に印を付けてください。いくつ付けても結構です。

2．表中に、大切にしている生活行為がなければ、余白にその作業名をご記入ください。

生活行為（作業）名	大切にしている生活行為に印をつけましょう	生活行為（作業）名	大切にしている生活行為に印をつけましょう
掃除		歴史・文化を知る	
料理		風土・地理を知る	
買い物		写真撮影	
家の手入れ		ゴルフ	
洗濯		ボーリング	
ラジオを聴く		グランドゴルフ	
テレビを見る		水泳	
俳句・川柳		テニス	
謡曲・詩吟		野球	
短歌		ダンス・踊り	
読書		釣り	
将棋		体操・運動	
囲碁		散歩	
詩を書く		園芸（庭仕事）	
絵を描く		畑仕事	
手紙を書く		日曜大工	
新聞を読む		パソコン操作	
編み物		温泉に行く	
針仕事		観光・旅行	
手工芸		おしゃべり	
茶道（お茶）		友人との交流	
華道（お花）		研修会参加	
パズル・ゲーム		ボランティア活動	
書道・習字		地域活動	
観劇		子どもの世話	
音楽を聴く		動物の世話	
演奏会		宗教活動	
楽器演奏		収入のある仕事	
映画を見る		車の運転	
歌を歌う			
上記以外で大切にしている生活行為（作業）名			

3．表中から、あなたがこれだけは続けたいと思う生活行為（作業）を３つ選び、下枠に書いてください。

①	②	③

生活行為自己確認シート

「生活行為自己確認シート」は、その人にとって大切な生活行為（作業）を続けるための確認用紙です。

「生活行為の種類表」に記載した今後も続けたい 3 つの生活行為（作業）を改めて振り返り、ご自身の目標や大切な生活行為（作業）を再確認しましょう。

●生活行為の種類表から選んだ３つの生活行為（作業）を、もう一度下枠内に書いてください。

	大切な生活行為（作業）		
	①	②	③
段取りと準備	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法			
行為の実践	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法			
出来栄えの確認や続ける意識	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法			

平成 23 年度老人保健健康増進等事業
生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業
2012 年 3 月
発行：社団法人　日本作業療法士協会
〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9　盛光伸光ビル 7 階
電話（03）5826-7871　FAX（03）5826-7872

関連資料

記載例

生活行為自己確認シート

「生活行為自己確認シート」は、その人にとって大切な生活行為（作業）を続けるための確認用紙です。

「生活行為の種類表」に記載した今後も続けたい３つの生活行為（作業）を改めて振り返り、ご自身の目標や大切な生活行為（作業）を再確認しましょう。

●生活行為の種類表から選んだ３つの生活行為（作業）を、もう一度下枠内に書いてください。

	大切な生活行為（作業）		
	①畑仕事を続けたい	②	③
段取りと準備	☑自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法	物置に農作業用具を整理し、いつでも取り出せる。		
行為の実践	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる ☑手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法	体力に自信がないので、夫に作業を手伝ってもらい、作業時間を決めて取り組む。		
出来栄えの確認や続ける意識	□自分で工夫してできる ☑助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる	□自分で工夫してできる □助言をもらいながらできる □手助けしてもらいながらできる
できる、続けるための具体的な方法	収穫した野菜のおすそ分け方法を夫と相談し、近所や親せきに配る。		

平成 23 年度老人保健健康増進等事業
生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業
2012 年 3 月
発行：社団法人　日本作業療法士協会
〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9　盛光伸光ビル 7 階
電話（03）5826-7871　FAX（03）5826-7872

研究員及び協力者

【研究員】

主任研究員	岩瀬義昭	鹿児島大学医学部保健学科
あり方班長	村井千賀	石川県立高松病院
医療班長	長谷川敬一	竹田綜合病院
通所班長	竹内さをり	甲南女子大学看護リハビリテーション学部
入所班長	渡邊基子	介護老人保健施設ゆうゆう
福祉職班長	宮永敬市	北九州市保健福祉局健康推進課
養成班長	大庭潤平	神戸学院大学総合リハビリテーション学部
サポーター班長	渡邉忠義	あさかホスピタル
事務局	庄司志保	社団法人日本作業療法士協会

【推進検討委員会】

澤村誠志	兵庫県立総合リハビリテーションセンター名誉院長
上村隆元	杏林大学衛生学公衆衛生学教室
折茂賢一郎	西吾妻福祉病院
木村隆次	一般社団法人日本介護支援専門員協会
石黒秀喜	長寿社会開発センター
依田利文	茅野市西部保健福祉サービスセンター
菅原弘子	福祉自治体ユニット
葉山靖明	デイサービスセンターけやき通り
藤原茂	株式会社夢のみずうみ社
中村春基	社団法人日本作業療法士協会

【あり方検討班】

村井千賀	石川県立高松病院
岩瀬義昭	鹿児島大学医学部保健学科
中村春基	社団法人日本作業療法士協会
土井勝幸	介護老人保健施設せんだんの丘
香山明美	宮城県立精神医療センター
太田睦美	竹田綜合病院
陣内大輔	熊本総合医療リハビリテーション病院
小林正義	信州大学医学部保健学科
石川隆志	秋田大学医学部保健学科
山本伸一	山梨リハビリテーション病院

【医療班員】

長谷川敬一　竹田綜合病院
石川隆志　秋田大学医学部保健学科
五百川和明　東北福祉大学
甲斐雅子　中国労災病院
清野敏秀　朝日町立病院
村山幸照　相澤病院

【医療班協力者】

三上直剛　函館脳神経外科病院（北海道）
宗像暁美　太田西ノ内病院（福島県）
金田麻利子　竹田綜合病院（福島県）
筧智裕　牛久愛和総合病院（茨城県）
木下剛　横浜市東部病院（神奈川県）
徳本雅子　中国労災病院（広島県）
小出将志　佐世保中央病院（長崎県）

【効果検証班員】

岩瀬義昭　鹿児島大学医学部保健学科
能登真一　新潟医療福祉大学

【効果検証：通所班員】

竹内さをり　甲南女子大学看護リハビリテーション学部
石井利幸　介護老人保健施設ひもろぎの園
生駒英長　いきいき稲富デイサービスセンター
谷川良博　東郷外科はつらつ デイケア

【効果検証：通所協力者】

榎森智絵　通所リハ TRY（福島県）
二木理恵　介護老人保健施設せんだんの丘（宮城県）
池田正人　介護老人保健施設せんだんの丘ぷらす（宮城県）
渡部沙織　介護老人保健施設ひもろぎの園（福島県）
小川昌宏　尾形医院（栃木県）
金子智美　花の舎：介護老人保健施設ひまわり荘（栃木県）
田尻進也　介護老人保健施設みがわ（茨城県）
谷川真澄　あしのさと（福井県）
甲斐優希　三原デイケアクリニック（福岡県）
賀来斉夫　希の里（大分県）

生駒英長　いきいき稲富デイサービスセンター（福岡県）
多良淳二　永生クリニック（東京都）
関本充史　（株）メディケア・リハビリ（大阪府）
濱田正貴　デイサービス自由ヶ丘（宮崎県）
有村正弘　さくら苑新館（宮崎県）
福村納　介護老人保健施設港南あおぞら（神奈川県）
松尾みき　介護老人保健施設うぐいすの丘（長崎県）
深津良太　真寿会リハビリセンターあゆみ（滋賀県）
米井浩太郎　老人保健施設虹（岡山県）
松藤宗一郎　デイサービスファイン（福岡県）
矢頭真　昭和病院通所リハビリテーションセンター（山口県）
吉原直貴　デイサービスセンターまいん（福岡県）
今宮睦美　介護老人保健施設やまゆり（岩手県）
川口友恵　介護老人保健施設サンビュー二本松（福島県）
安齋アサ子　介護老人保健施設明生（福島県）
河合智子　老人保健施設白楽園（栃木県）

【効果検証：入所班員】
渡邊基子　介護老人保健施設ゆうゆう
田尻進也　介護老人保健施設みがわ
宮内順子　介護老人保健施設ぺあれんと
鳴海奈央　介護老人保健施設せんだんの丘
杉本浩康　立川介護老人保健施設わかば東京
【効果検証：入所協力者】
飯田美奈子　水光苑（福岡県）
岩渕いずみ　カーサビアンしろさと（茨城県）
上田章弘　恵泉（兵庫県）
大内義隆　なとり（宮城県）
岡田翔子　秋穂幸楽園（山口県）
小木健司　ひもろぎの園（福島県）
柏川晴美　涼風苑（茨城県）
小林照子　カノープス姫路（兵庫県）
佐藤義則　ゆうゆうホーム（宮城県）
柴田梓　大宮フロイデハイム（茨城県）
中村博子　はくあい（山口県）
西尾優子　尚歯堂（山口県）

深津良太　　リハビリセンターあゆみ（滋賀県）
村永典子　　寿楽苑（福岡県）

【福祉職班員】
宮永敬市　　北九州市保健福祉局健康推進課
長谷麻由　　国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部
松永裕也　　八幡記念病院
藤崎実知子　ひすい訪問看護ステーション
宮本香織　　デイサービスせいかつ CAN 曽根
河野めぐみ　中間市地域包括センター
【福祉職班：地区委員】
村井千賀　　石川県立高松病院
宮永敬市　　北九州市保健福祉局健康推進課
志井田太一　（社）福岡県作業療法協会会長
葉山靖明　　デイサービスセンターけやき通り
坂本幸美　　日本ホームヘルパー協会北九州支部会長

【養成班員】
大庭潤平　　神戸学院大学総合リハビリテーション学部
村重素子　　兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター
長谷麻由　　国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部
榎森智絵　　通所リハ TRY
中勝彩香　　兵庫県立総合リハビリテーションセンター
河野めぐみ　中間市地域包括センター
土井勝幸　　介護老人保健施設せんだんの丘

【住民啓発班員】
渡邉忠義　　あさかホスピタル
佐藤和彦　　恵庭市保健センター
池田正人　　介護老人保健施設せんだんの丘
竹田徳則　　星城大学リハビリテーション学部

平成 23 年度老人保健健康増進等事業

生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業

2012 年３月

発行：社団法人　日本作業療法士協会

〒111-0042 東京都台東区寿１－５－９　盛光伸光ビル７階

電話（03）5826-7871